

344  
353



始



544-353

### 凡例

- 一、本書ハ曩ニ出版セシ防長歴史地圖ノ解説トシテ編纂セシモノナレドモ素ヨリ單行本トシテ更ニ支障ナキモノトス
- 一、防長歴史地圖ハ町村別々ニ教育上裨益アリト認メタル材料ヲ取り他町村トノ權衡等ハ之ヲ第二ニ措ケリ然ルニ本書ニ於テハ記述上偏廢スベカラザル場合ニニ出會スルコト少カラズ乃權衡上必要アルモノハ多少歴史地圖所載以外ノ材料ヲモ追加添付セリ
- 一、金石ニ刻セラレ或ハ遺趾其他ノモノニヨリテ具體的ニ其物ヲ目堵シ其地ヲ踏ムヲ得ベキ史實ハ成ルベク事蹟ノ大小ヲ論ゼスシテ之ヲ採録セリコレ地圖トノ關係上然ラザルヲ得ザルナリ
- 一、歴史地圖ニ記載セシ附表ハ史料ノ調査、印刷ノ校正等ニ於テ一二遺憾ノ點ナキニアラザリシモ今本書中ニ悉ク之ヲ改訂セリ然ルト雖モ本書亦万一ノ誤謬ナキヲ保シ難シ大方ノ批正ヲ得テ他日更ニ再版スル所アラ

大正  
8. 2. 3  
丙

✓

# 列傳體防長史目次

(第一) 總論

(第二) 名君

(第三) 重臣

(7)	(1)	(1)	(13)	(10)	(7)	(4)	(1)
福原越後	毛利藤内	毛利廣政	吉川廣家	毛利元蕃	毛利秀元	毛利重就	毛利元就
(8)	( )	(2)	(14)	(11)	(8)	(5)	(2)
益田彈正	益田元宣	桂廣保	吉川廣嘉	毛利元知	毛利元周	毛利敬親	毛利綱廣
(9)	(6)	(3)	(15)	(12)	(9)	(6)	(3)
國司信濃	奈古屋豐敬	毛利元亮	吉川經幹	毛利元純	毛利就隆	毛利元德	毛利吉元

一、防長歴史地圖及本書ノ編纂ニツキテハ縣下各町村役場學校並ニ郡市役所ニ請ヒテ材料ヲ索メ大ニ便宜ヲ得シコトヲ感謝ス又近藤清石翁編纂ノ防長人物誌山口縣編纂ノ防長志要其他二三ノ書ハ頗本書ヲ編纂スルノ助ケトナリシコトヲ附記シテ感謝ノ意ヲ表ス

凡  
圖

(第七)

(一)

大内氏 文學

(二)

(28)	(25)	(22)	(19)	(16)	(13)	(10)	(7)	(4)	(1)	萩	(4)	(1)
繁澤規直	國重龍原	山根濟州	奈古屋以忠	永富獨嘯	仲子岐陽	瀧鴻臺	山縣棠園	小倉南泉	山田原欽	小槻伊治	桂菴	萩僧桂菴

(23)	(26)	(23)	(20)	(17)	(14)	(11)	(8)	(5)	(2)		(2)
繁澤豐城	佐々木縮往	小田村郵山	山根華陽	山縣魯彥	曾野雲門	林義卿	山縣太華	山縣良齋	小倉長肅	清原賴賢	

(20)	(27)	(24)	(21)	(18)	(15)	(12)	(9)	(6)	(3)		(3)
仲東門	山田時文	小田村藍田	山根南溟	山中梁山	津田東陽	和智東郊	瀧鶴臺	山縣周南	小倉鹿門	南村梅軒	

(第四)

能吏

(第五)

拓殖

(第六)

功勞

(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)	(7)	(4)	(1)	(16)	(13)	(10)
穴戸真微	板本就時	矢田義溝	姥倉開渠碑	松永周甫	東條就類	三戸芳基	上山經匡	永田政純	品川彌次郎	廣澤真臣	清水親知

(5)	(2)	(11)	(8)	(5)	(2)	(8)	(5)	(2)	(17)	(14)	(11)
楫取素彦	村田清風	勝井陂	木與村新田碑	林勇藏	椋梨俊平	上山與左衛門	香川景孝	長谷川右文	兒玉源太郎	山田顯義	木戸孝允

(3)	(9)	(6)	(3)	(9)	(6)	(3)	(18)	(15)	(12)
周布政之助	野口陂	田中藤六	波多野繁齋	玉乃世履	小田錦溪	阪時存	桂太郎	伊藤博文	大村永敏

	(九)	(八)	(七)												
(4)	(1)	(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)
今	若	海	吳	清	結	白	藤	豐	淺	本	青	國	富	鳳	山
川	月	北	片	末	城	杵	井	浦	海	城	木	富	鳳	山	
岳	太	領	孟	藩	主	駿		藩	巢	太	西	鳳			
南	仲		明	翻	計	平	幹		雲	華	峯	山			
(5)	(2)		(2)	(11)	(8)	(5)	(2)	(11)	(8)	(5)	(2)	(11)	(8)	(5)	(2)
吉	杉		有	結	國	中	小	淺	役	黑	國	富	嶺	南	
田	山		吉	城	島	川	田	見		川	富	嶺	南		
恕	良		高	恂	筈	好	南	拙		東	嶺	南			
菴	哉		陽	介	齋	古	咳	逸	觀	泉	南				
(6)	(3)		(3)	(9)	(6)	(3)	(3)	(12)	(3)	(6)	(3)	(12)	(3)	(6)	(3)
土	大		國	國	白	小	小	牧	長	本	青	青	木	葵	園
肥	田		島	島	杵	田	田		沼	城	木	葵	園		
實	稻		京	俊	太	享	享	香	采	紫	葵	園			
香	香		山	藏	仲	郎	郎	松	石	巖	園				

	(六)	(五)	(四)	(三)										
德	(13)	(10)	(7)	(4)	(1)	岩	(7)	(4)	(1)	三	(1)	山	(34)	(31)
山	二	香	樋	三	宇	國	今	脇	河	田	田	土	中	村
藩	宮	川	口	須	都	藩	津	野	野	尻	鳳	屋	華	嶽
	錦	午	成	竦	宮		桐	山	養		口	蕭	海	
	水	谷	純	水	由		園	陽	哲		陽			
	(11)	(8)	(5)	(2)	(8)	(5)	(2)	(2)	(35)	(32)				
	桂	朝	樋	宇	今	吉	飯	服	口	中				
		枝	口	都	津	武	田	部	羽	村				
	周	毅	東	宮	秋	江	樂	東	德	牛				
	水	齋	里	圭	庵	陽	軒	陽	祐	莊				
	(12)	(9)	(6)	(3)	(6)	(3)	(3)	(3)	(36)	(33)				
	坂	玉	樋	山	吉	吉	赤	山	山	村				
	本	乃	口	縣	賀	田	川	縣	恭	浩				
	渭	九	義	溥	子	慎	晚	恭	平	堂				
	川	華	所	泉	祥	庵	翠	平	堂					

(13)	(10)	(7)	(4)	(1)	(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)	(10)
武	香	林	粟	石	木	菊	熊	布	安	冷	櫻
田	川	泰	屋	川	村	舍	谷	施	部	泉	井
泰	景	翁	正	種	雲	尼	相	御	春	元	魁
信	虎		憲	吉	淵		好	牆	貞	豐	園

(第十二) 武備

(14)	(11)	(8)	(5)	(2)	(5)	(2)	(11)	(8)	(5)	(2)
松	河	原	粟	片	長	飯	宮	冷	今	大
島	野	田	屋	山	沼	田	城	泉	田	庭
剛	通	無	正	久	素	惟	御	古	賴	賢
藏	周	軒	論	安	兄	德	楯	風	武	兼

(第十一) 俳人

(15)	(12)	(9)	(6)	(3)	(3)	(12)	(9)	(6)	(3)
森	林	岡	松	北	岡	松	粟	森	香
重	得	崎	井	川	村	岡	屋	脇	川
井	龍	久	錦	堅	凌	良	俊	方	宣
		德	江	儔	化	哉	則	純	阿

(第十) 和歌

(7)	(4)	(1)	(4)	(1)	(4)	(1)	(4)	(1)	(4)	(1)
潮	岩	鈴	其	田	宗	漢	福	荒	諸	山
見	政	木	他	坂	藩	詩	永	瀨	邑	科
檀	信	直		湖			淑	桑		太
園	比	通		山			人	陽		室

(第九) 國學 藩

(8)	(5)	(2)	(2)	(2)	(2)	(5)	(2)
近	岸	鈴	八	木	市	波	小
藤	御	木	砂	村	川	田	國
芳	園	高			玄	兼	武
樹		鞆			伯	虎	彝

(第八) 漢詩

(9)	(6)	(3)	(3)	(3)	(6)	(3)
弘	靜	齋	日	蒲	坂	品
	間	藤	野	生	上	川
	三	彥	春	貞	忠	希
	積	右	霽	固	助	明
		衛				
		門				

(第十七)

醫學

(31)	森	(28)	能	(25)	澁	(22)	伊	(19)	矢	(16)	栗	(13)	大	(10)	生	(7)	津	(4)	齋	(1)	釋
	寬		美		谷		藤		野		栖		樂		駒		森		藤		雪
	齋		鷗		道		亮		淳		探		朴		壽		爲		等		舟
			友		勝		亮		淳		叔		水		壽		爲		順		
(39)	小	(26)	菅	(23)	浮	(20)	林	(17)	桑	(14)	吉	(11)	有	(8)	栗	(5)	內	(2)	雲		
	田		江		村		原		山		山		馬		栖		田		谷		
	海		定		直		幽		常		喜		喜		等		活		書		
	俣		直		直		宅		房		三		太		侷		溪		系		
(30)	鈴	(27)	朝	(24)	木	(21)	石	(18)	狩	(15)	狩	(12)	波	(9)	長	(6)	三	(3)	雲		
	木		倉		梨		川		野		野		多		富		谷		谷		
	蘭		南		恒		芳		察		野		野		等		盛		別		
	皋		陵		充		復		崖		信		賢		珍		直		派		

(第十六)

畫家

(13)	井	(10)	山
	上		縣
	可		鶴
	純		江
(14)	宍	(11)	山
	道		縣
	貞		墨
			儷
(12)	田		村
	姬		山

(第十五)

書家

第五師團軍旗略歴

(7)	戶	(4)	草	(1)	相	(16)	桂	(13)	坪	(10)	福	(7)	吉	(4)	渡	(1)	戰	(1)	刀	(19)	玉	(16)	吉
	川		場		良		真		井		田		川		邊		功		器		井		武
	威		中		正		澄		航		公		經		通		工		工		小		伊
	佐		章		任				三		明		家								周		三
																							郎
(8)	和	(5)	草	(2)	江	(14)	井	(11)	山	(8)	林	(5)	時	(2)	毛	(2)	鏢			(17)	有		
	田		場		良		上		口		與		山		利						坂		
	正		仲		房		光		素		憲		養		元						致		
	晴		山		榮				臣		之		直		政		工				遠		
(9)	吉	(6)	草	(3)	大	(15)	乃	(12)	伊	(9)	村	(6)	名	(3)	清					(18)	山		
	田		場		一		木		藤		上		和		水						田		
	以		晉		菴		希		柳		雄		道		宗						公		
	忠		水		其		典		太		文		一		治						章		

(第廿三)

(7) 高杉晋作  
(4) 吉田松陰  
(1) 前田利濟

志士

(16) 加屋又藏  
(13) 雅樂允  
(10) 義奴六松  
(7) 孝女於政  
(4) 孝女阿米  
(1) 權藏利吉

(第廿二)

孝節

(4) 兒玉文庫  
(1) 明倫館碑

(第廿一)

學館

(13) 佐々木澹齋

(8) 入江弘毅  
(5) 金子重輔  
(2) 佐久間義濟

(14) 與左衛門  
(11) 彦六亦十郎  
(8) 甚右衛門妻  
(5) 孝女阿政  
(2) 孝子千代松

(5) 華南圖書館  
(2) 光被碑

(9) 吉田秀實  
(6) 久阪玄瑞  
(3) 來島政久

(15) 仁兵衛  
(12) 清介角右衛門  
(9) 阿順  
(6) 石川阿石  
(3) 孝子太郎吉

(6) 教育博物館  
(3) 德基女學校

(第十八)

洋學

(16) 久坂玄機  
(13) 小野春庵  
(10) 能美龍洲  
(7) 小倉梅軒  
(4) 楊井武盛  
(1) 武田定慶

(第十九)

心學

(1) 青木周弼

(第二十)

初等教育

(1) 古谷伊三郎

(10) 名井守介  
(7) 高橋漱石  
(4) 山根積善  
(1) 武田頼徳

(11) 高津允中  
(8) 香川中央  
(5) 佐村柳洲  
(2) 宮川視明  
(2) 藤本七郎衛門

(2) 桂路祐

(17) 山根文季  
(14) 山下玄良  
(11) 南部龍門  
(8) 小倉濟陽  
(5) 仁保玄珠  
(2) 竹田定詮

(12) 福原與右衛門  
(9) 三輪伊兵衛  
(6) 平佐忠順  
(3) 濱田默軒  
(3) 石崎虎亮

(3) 弘鴻

(15) 土屋大倉  
(12) 竹中俊屋  
(9) 賀屋恭安  
(6) 烏田智菴  
(3) 楊井國久



(4)	(1)	(10)	(7)	(4)	(1)	(4)	(1)	(1)	(4)	(4)
櫻山招魂場	節臣廟	大寧寺	周防國分寺	菅公神蹟	玉祖神社	長谷川禹錫	山縣允升	竹田番匠	三輪休雪	三輪休雪
(5)	(2)	(11)	(8)	(5)	(3)	(5)	(2)	(2)	(5)	(5)
長添山招魂場	中山忠光卿墓	功山寺	龍藏寺	國廳遺址	濱宮遺跡	栗山勝直	寺村紫澤	三谷三九郎	遺亭	遺亭
(6)	(3)	(12)	(9)	(6)	(3)	(6)	(3)	(3)	(3)	(3)
弘法寺招魂場	錦小路公碑	引接寺	阿彌陀寺	築山神社	豐浦宮址	小國婦美	平岡通時	藤田傳三郎	中	中

(第三十)

招魂場

(第廿九)

社 寺

(第廿八)

哀 傷

(第廿七)

工 商

(1)	(4)	(1)	(1)	(4)	(1)	(22)	(19)	(16)	(13)	(10)			
澤田長	陶工	下間安海	僧開光	佛者	金田秋足	近藤正貞妻	木梨就時	復讐	岩國三士	中村栗軒	德永秀之	飯田忠彦	杉山寒翠
(2)	(5)	(2)	(2)	(2)	(5)	(2)	(23)	(20)	(17)	(14)	(11)		
李勺光	僧來翻	釋月性	烈婦登波	渡邊宣	佐伯八雲	德山七士	御堀耕助	世良砥德	多賀谷勇	河上繁藏			
(3)	(6)	(3)	(6)	(3)	(6)	(3)	(21)	(18)	(15)	(12)			
李敬	島地默雷	釋半雲	松田於察	宇佐川繁房	伊藤十藏	岡本豐嗣	大樂源太郎	大谷樸助					

(第廿六)

陶 工

(第廿五)

佛 者

(第廿四)

神 職

(第廿三)

復 讐

列傳體防長史目次

(第三十四) 附記

- (7) 梶原景時遺跡
- (4) 蒙古高勾麗
- (1) 康賴及俊寬
- (8) 泉式部傳說
- (5) 阿部宗任遺跡
- (2) 大江時親墓
- (9) 古墳墓傳說
- (6) 平家隱匿地
- (3) 安德帝陵傳說地

(第三十三) 傳說

(終)

(第三十一) 古戰場城址

- (10) 桑山招魂場
- (7) 脫隊諸士招魂場
- (1) 橫山城址
- (4) 若山城址
- (7) 右田岳城址
- (10) 鴻峰城址
- (13) 霜降城址
- (16) 繪堂古戰場
- (19) 指月城址
- (1) 引島
- (4) 岡山清信
- (7) 橫山健之助
- (10) 五卿登陸地
- (2) 關所山城址
- (5) 沼城址
- (8) 茶臼山古戰場
- (11) 姫山城址
- (14) 豐田氏城址
- (17) 茶臼山城址
- (20) 壇浦古城場
- (2) 來目皇子
- (5) 鴻嶺神宮
- (8) 牟禮村
- (11) 富海村
- (8) 朝日山招魂場
- (11) 各地招魂場
- (3) 鞍掛城址
- (6) 須々万城址
- (9) 築山館址
- (12) 山口城址
- (15) 勝山城址
- (18) 長添山城址
- (21) 火山古城址
- (3) 甲子殉難烈士招魂場

# 列傳體防長史

## 第一

### 總

### 論

防長ノ歴史ハ日本ノ歴史ナリ舊藩主毛利氏ハ其ノ始祖遠ク神代ニ於テ皇統ノ發祥ニ伴ヒテ起リ其ノ歴代ノ主及ビ隸屬ノ爲ス所忠君愛國ヲ以テ主眼トス。

防長ノ教育史ハ日本ノ教育史ナリ大江氏ハ皇朝ノ學事ヲ司リ後裔毛利氏ハ志天下ニ在ルノ士ヲ養ヒ近古ノ統治者大内氏ノ文學ハ近世日本教育ノ種子トナリ淵源トナレリ。

防長二州ハ日本國家的思想上ノ靈地アリ吾人日本人ハコノ二州ノ靈氣ニ觸レテ長ク忠君愛國ノ民タラザルベカラズ。

防長ノ歴史廣キント此ノ如シ防長ノ教育史深キコト此ノ如シ防長ノ氣大ナルコト此ノ如シ之ヲ知ルコト既ニ容易ナラズ之ヲ小冊子ニ記サントスルハ更ニ容易ナラズサレドモ其ノ容易ナラザルヲ爲サントス是レ亦防長ノ元氣力。

## 第二、名 君

王朝時代二州任官者中有名ナルハ周防國司ニ清原元輔アリ權守ニ春澄善繩大江匡房アリ長門權守ニ菅原爲長アリ周防ノ國府ハ今ノ防府町東佐波ニアリ今猶國衙朱雀町等ノ地名アリ往時ハ國府市ト稱シテ殷賑ナル市街アリタリトイフ長門ノ國府ハ今ノ長府町惣社ノ地是ナリ。

壽永年中周防長門ハ平氏ノ所領ナリシヲ以テ將士其ノ戰ニ赴キ國中頗疲弊ス文治二年東大寺大佛殿再建ノコトアリ周防國ヲ造寺料ニ充ツ再建大勸進重源國司トナリテ下向スルヤ田園荒蕪シ老幼餓死ニ瀕スルモノアリ重源之ヲ憐ミ齋ス所ノ錢穀ヲ悉ク之ニ分ツ重源牟禮村阿彌寺ニ居リテ政務ヲ見又東大寺用材ノ伐採ヲ督ス人呼ンデ國司上人トイフ法裔長ク周防國司トナリテ足利氏ノ頃ニ及ブ。

長門國ハ古來外交ノ要衝ナルヲ以テ神功皇后ハ臨海館ヲ下關ニ置キ天智天皇ハ水城ヲ長門ニ築ク長府村唐櫃山ニ其ノ遺址アリトイフ元寇ノ際ノ如キ元使杜世忠等豐浦郡室津ニ至ル時ニ建治元年ナリ此年北條氏長門ニ探題ヲ置キ北條宗賴ヲシテ來リ居ラシム以テ万一ニ備フ。

元弘ノ亂ニ厚狹郡ニ厚東氏第七世武實アリ長門探題北條時直ヲ滅ボス功ヲ以テ長門守護職ヲ賜フ厚東氏ハ物部守屋ノ裔ナリ霜降山ニ居城ス城址今猶厚東村大字末信村ニ存ス十七世義武ニ至リ兄弟和セズ勢漸ク衰フ周防介大内弘世コレニ乘ジ延文三年正月攻メテ之ヲ滅ボセリ。

大内氏ハ百濟王聖明ノ第三子琳聖ニ出ヅ琳聖周防大内縣ニ居ル琳聖ノ子政恒始メテ多々良氏ヲ賜フ第十六世弘幸初メ足利氏ニ屬セシガ次テ吉野朝ニ歸順子弘世屢國中ノ北軍ト戰ヒテ之ヲ破リ又舊族山口氏ヲ滅ボシテ居ヲ山口ニ移ス又厚東氏ヲ滅ボシテ長門ヲ併セ專ラカヲ宮方ニ致セシガ後遂ニ欸ヲ足利氏ニ通ゼリ。

大内義隆後奈良天皇ニ即位ノ資ヲ獻ズ功ニ由リテ太宰大貳ニ任ジ九國ヲ管掌ス又昇殿ヲ許サレ勅使山口ニ下向シテ旨ヲ傳ヘ後又兵部卿ニ任ゼラレ從二位ニ進ム天文二十年九月一日陶晴賢反逆ノタメ大津郡大寧寺ニ自殺シ大内氏亡ブ毛利氏陶賊ヲ嚴島ニ誘殺シテ義隆ノ仇ヲ報ジ隨ツテ二州ヲ領ス。

毛利氏ハ天穗日命以來連綿タルノ名族ニテ元就無比ノ名將タリ僅ニ藝州多治比猿懸三千貫ノ城主タリシモノ遂ニ中國ヲ戡定シテ所領十三州ニ跨ル孫輝元關原役西軍ノ盟主トナリ封ヲ削ラレテ防長二州ヲ領シ慶長八年十一月萩城ニ入ル是ヨリ毛利氏二州ニ守トナリ以テ廢藩ノ際ニ至ル。

輝元ヨリ秀就、綱廣、吉就、吉廣、吉元、宗廣、重就、治親、齊房、齊熙、齊光、齊廣、敬親、元德相承ク之ヲ宗藩トス。

德山支藩ハ始メ降松ニ治ス後德山ニ移ル就隆、元賢、元次、元堯、廣豐、廣寬、就馴、就壽、元蕃相承ク。

豐浦支藩ハ長府ニ治ス秀元ヨリ光廣、綱元、元朝、元矩、匡廣、師就、匡敬、匡滿、匡房、元義、

元運、元周相承ク。

清末支藩ハ元知、匡廣、政苗、政美、政明、元世、元承、元敏、相承ク清末ニ治ス。

吉川氏ハ岩國ニ治ス廣家ヨリ廣正、廣嘉、廣猶、廣達、經永、經倫、經忠、經賢、經禮、經章、經幹相承ク經幹ニ至リ家老職ヨリ進ンデ諸侯ニ列ス。

宗藩主毛利重就食膳ヲ減ジ浣衣ヲ着テ尙儉ノ範ヲ示シ大ニ財政ヲ整理シテ餘ス所ヲ以テ窮民ヲ賑ハスノ法ヲ定メ局ヲ建テ、撫育局ト稱ス毛利氏ノ財政是ヨリ豊カナリ重就此時封内各村ノ石高檢地ヲ行ヒ其ノ多少ト居民ノ數トヨリ推シテ備荒準備ノ儲穀ヲ定メ之ヲ積マシム當時ノ檢地帳ニハ特ニ題シテ防長惠民錄トイフ天下此類稀ナリ。

藩主敬親ノ時朝廷攘夷ノ旨ヲ幕府ニ諭ス是ヨリ先長藩久シク勤王ノ志アリ天皇乃右大臣鷹司輔熙ニ勅シテ幕府ニ賜ハリタル勅諭ノ寫シヲ敬親ニ示シ王事ニ盡スベキノ聖旨ヲ傳ヘシム海北大夫ノ臣甲谷兵庫之ヲ齎シ歸リテ敬親ニ達ス敬親感泣シ周布政之助ヲ京都ニ遣シテ右大臣ニ就キテ聖旨服膺ヲ誓フ明治二年正月二十日敬親薩肥土藩主ト連署上表シテ版籍ヲ奉還ス明治十八年八月明治天皇山行幸シ明治三十五年十一月躰ヲ長府毛利邸ニ駐メ明治四十四年十一月躰ヲ多々良毛利邸ニ駐ム往時藩ノ遠祖大江廣元源頼朝ヲ輔ケテ武門政治ヲ創ム後裔之ヲ遺憾トス敬親ニ至リ能ク天業ヲ恢弘シテ郡縣ノ制ニ復セシム藩主歴代ノ志乃酬ユルヲ得タリトイフベシ。

(1) 毛利元就

防長藩祖毛利洞春公諱ハ元就幼名松壽弘元ノ第二子始メ猿懸城ニ居リ後宗家ヲ嗣グ幼ヨリ大小二百二十餘戰會テ敗ル、コトナク又一モ無辜ヲ殺ス所ナシ志ヲ勤王ニ存シ即位料ヲ献ジタル如キ以テ其ノ一端ヲ知ルベシ元龜二年六月十四日壽七十五ヲ以テ卒ス元龜三年四月詔シテ從三位ヲ贈ラレ寶曆十二年其靈社ニ神號ヲ仰徳大明神ト賜ヒ正一位ヲ贈ラル明治三年特ニ勅シテ別格官幣社ニ列シ社號ヲ豊榮ト賜フ次デ明治四十一年四月朝廷更ニ公ノ忠誠ヲ賞シテ正一位ヲ追贈ス。

(2) 毛利綱廣

毛利綱廣ハ毛利元就五世ノ孫ナリ母ハ結城季康ノ女ナリ果敢ニシテ武術文藝ヲ好ミ器局アルモノヲ祿スル所頗多シ深ク意ヲ政治ニ注ギ榎本就時ヲ任用シテ其能ヲ竭サシム嘗テ藩政ノ基礎ヲ定メントシテ万治制法ヲ作ル爾來防長ノ制法永クコレニ本ヅク元祿二年四月十七日卒ス年五十一泰巖院ト諡ス。

(3) 毛利吉元

毛利泰桓公諱ハ吉元父ハ豊浦侍從綱元母ハ備前少將池田光政ノ女ナリ寶永四年本藩主青雲公ノ嗣子トナリ次デ本宗ヲ領ス人ト爲リ寛弘明介ニシテ學ヲ好ミ享保三年始メテ藩學明倫館ヲ建ツ防長ノ學事是ヨリ興ルトイフ享保十六年九月十二日壽五十五ヲ以テ卒ス。

(4) 毛利重就

毛利英雲公諱ハ重就長府瑞泉公(匡廣)ノ第十六子ナリ觀光公(宗廣)ノ遺命ヲ以テ本宗ヲ嗣グ識量明敏ニシテ獨見ノ明ニ加フルニ剛決撓マズ能ク善ニ循フ農桑ヲ勸メ倉廩ヲ設ケ又屢濱海斥鹵ノ地ヲ開作シテ稻田鹽濱ト爲ス二州産業大ニ興起シ財政ノ基礎初メテ確立ス後防府ニ退老シ寛政元年十月七日壽六十五ヲ以テ逝ク明治四十一年四月二日其功ヲ追褒シテ從三位ヲ贈ラル。

(5) 毛利敬親

毛利敬親字ハ子常毛利元就十六世ノ孫ナリ孝明明治兩朝ニ事ヘテ勤王ヲ首唱シ率先版籍ヲ奉還シテ中興佐命ノ元勳ト稱セラル明治四年三月二十八日薨去ス忠正ト諡ス勅シテ從一位ヲ贈リ銅表ヲ香山廟前ニ建ツ山口町野田神社ハ公ノ靈ヲ祀レルモノナリ。

(6) 毛利元德

毛利元德初名廣封德山藩主毛利廣鎮ノ男ナリ宗藩ニ養ハレ敬親ノ後ヲ受ク養父敬親ト共ニ久シク國事ニ勞シ明治三年正月二十日薩、土、肥三藩主ト連署上表シテ封土人民ヲ奉還ス明治二十九年十二月二十五日(實ハ二十三日)享年五十八ヲ以テ薨ズ忠愛ト諡シ國葬ヲ以テ之ヲ葬ル。

(7) 毛利秀元

穗田元清ノ次子ニテ毛利元就ノ孫ナリ幼ニシテ宗家ニ養ハレ輝元ノ嗣子タリ弱冠兵ヲ督シテ豊臣秀

吉ノ征韓役ニ加ハリ殊勳アリ後故アリテ宗家ヲ辭シ長府五万石ヲ領シテ長府毛利氏ノ祖トナル慶安三年七十二歳ヲ以テ逝ク。

(8) 毛利元周

毛利季元十三代ノ裔ナリ幼名万次郎後左京亮ト稱ス維新ノ際國事ニ功勞アリ明治元年五月七日卒ス享年四十二明治二十四年四月特旨ヲ以テ從三位ヲ贈ラル。

(9) 毛利就隆

毛利就隆ハ毛利輝元(天樹公)ノ二男ナリ寛永十一年三月十九日兄秀就(大照公)ノ分地ヲ得テ德山ヲ領ス延寶七年八月八日享年七十八ニテ卒ス靈社ヲ祐綏神社ト稱ス就隆ヨリ四次元次ニ至リ故アリテ封ヲ廢ス享保元年四月十三日ナリ次テ享保四年五月二十八日長男元堯ヲシテ舊領ヲ相續セシム。

(10) 毛利元蕃

毛利元蕃幼名德太郎德山第九代ノ藩主ナリ明治維新ノ際國事ニ勞シ功ヲ以テ從三位ニ至ル明治十七年七月二十二日薨ズ享年六十九歳。

(11) 毛利元知

毛利元知ハ長府藩祖宰相秀元ノ二男ナリ承應二年十月十二日長府藩主綱元兄光廣ノ遺跡ヲ襲グニ當リ豊東郡ノ内六分ノ一ヲ元知ニ分與ス清末藩是ナリ。

(12) 毛利元純  
毛利元純ハ木下俊敦ノ四男ナリ清末藩主元承ニ養ハレテ後ヲ承ケ讃岐守トナル維新ノ際功勞アリ明治八年三月十二日卒ス享年四十四明治二十四年四月從三位ヲ贈ラル。

(13) 吉川廣家  
吉川廣家ハ吉川元春ノ次子ナリ文祿ノ役蔚山ニ奮戦セルノ事績ハ夙ニ世ノ知ル所ナリ毛利氏ノ領地二州ニ躡ルヤ玖珂郡横山ニ采地ヲ得寛永二年九月二十一日卒ス享年六十五。

(14) 吉川廣嘉  
吉川廣嘉ハ吉川廣家ノ孫ニテ幼名長松後ニ左馬助又監物ト改ム有名ナル錦帶橋ハ延寶元年自ラ構造法ヲ工夫シ工人ニ口授シテ架設シタルモノナリ延寶八年八月十六日享年五十九ヲ以テ逝ク。

(15) 吉川經幹  
吉川經幹幼名龜之進後監物ト改ム明治元年二月十一日宗藩主毛利敬親ノ請ニヨリ藩ニ列ス維新ノ際功勞アリ明治二年三月二十日卒ス享年四十一特旨ヲ以テ從三位ヲ贈ラル。

### 第三、重臣

慶安三年毛利氏封内ヲ分チテ十八宰判ヲ置ク當島、濱崎、奥阿武、前大津、先大津、美禰、吉田、

船木、山口、小郡、三田尻、徳地、花岡、上關、大島、玖珂、熊毛、山代ナリ後年中關宰判ヲ加ヘテ十九宰判トナル之ヲ地方政務ノ配置トス中央政堂ニハ加判老臣三名及ビ當職一名當役一名ヲ置キ老臣ハ一門六家即チ宍戸氏及ビ右田、吉敷、厚狭、阿川、大野ノ毛利氏五家中ヨリコレニ任ジ當職當役ハ七家即チ福原、井原、粟屋、浦、清水、及ビ須佐、間田ノ兩福原家並ニ大祿ノ世臣中ヨリコレニ任ズルヲ例トシ當職當役ニ手元役祐筆等アリテ政務ヲ助ク藩主敬親ニ至リ時勢一變シ庶政釐革ヲ要ス乃屢政堂ノ制ヲ更メ必シモ門葉ヲ論ゼズシテ人材ヲ拔擢ス維新後長藩ヨリ徴士トナリテ朝廷ノ政務ニ參セシモノ多クハ明治ノ重臣トナリテ大業ヲ翼贊セリ二州多士濟々トシテ人之ヲ羨ムモノ蓋多年君相ノ獎勵、養成ノ方法至レルモノアルヲ以テナリ。

#### (1) 毛利廣政

毛利廣政筑後ト稱ス海北大夫ナリ賢明ニシテ學ヲ好ム人以テ小松内府ニ比ス享保二年泰桓公明倫館ヲ創建ス廣政主トシテ事ヲ幹ス享保十七年秋畿内以西大蝗アリ十八年春疫大ニ行ハル時ニ君國相ニ任ジ悉ク府實ヲ出シ自ラ醫藥ヲ懷ニシテ疾苦ヲ訪フ身亦病ンデ遂ニ歿ス時ニ享保十八年三月壽四十七ナリ文字ト諡ス。

#### (2) 桂廣保

桂廣保字ハ季成通稱三郎左衛門南野ト號シ致仕シテ道孚ト稱ス當職ニ任ズルコト多年嘗テ大島玖珂

ノ民負租逋逃シテ黨ヲ結ブ廣保撫治宜シキヲ得テ闔境安堵ス明倫館ノ創建ニ尤モ力ヲ盡シ老ヲ養ヒ儒ヲ尙ブ政化大ニ行ハル性廉潔恭讓ニシテ能ク後進ヲ推轂ス學ヲ好ミテ詩文ニ長ズ明和六年二月歿ス享年八十二。

(3) 毛利元亮

毛利元亮筑前ト稱ス海北大夫ナリ本藩主忠正公國事ニ周旋ス君留守職トナリ重キニ任ズルコト二十年ナリ又新ニ領内ニ學ヲ興シ家政ヲ釐革シテ餘力アラシム明治十九年三月七十歳ヲ以テ歿ス。

(4) 毛利藤内

毛利藤内諱ハ親信海北大夫ナリ弱冠佐波郡ノ諸隊ヲ總督シテ海防ヲ掌ル四境役石見口ノ兵ヲ督ス維新後東北征討ノ軍ニ加ハリ偉勳アリ明治三年佛國ニ赴キ兵學ヲ究メ翌年歸朝ス明治十八年五月享年三十七ニテ逝ク。

(5) 益田元宣

益田元宣初メ越中ト稱シ後玄蕃ト改ム須佐大夫ナリ藩主敬親ニ事ヘテ執政トナル明倫館重建ノコトアルヤ元宣學校惣奉行トナリテ計畫甚努メ以テ學政ノ興起ヲ見ルヲ得タリ。

(6) 奈古屋豐敬

奈古屋豐敬字ハ子信徳山藩士ナリ性雅趣詩文書畫通ゼザルナシ幼主ヲ輔弼シ執政十六年興讓館ヲ創

メ財政宜シキヲ得能ク吏務ヲ督ス諸曹ノ鞅掌スル所皆概通シテ秕政ヲ去ルニ勉ム寛政五年歳五十一ニテ歿ス。

(7) 福原越後

福原越後名ヲ元圃ト稱シ翠崖ト號ス長藩七家中ノ隨一ニテ字部一万千三百拾四石ヲ領ス寡言清默文學ヲ好ミ詩歌ヲ善クス嘗テ賦シテ曰ク。

廷議贊來攘虎狼、仰見鳳闕五雲光、願將天賜一盃酒、滌遍神州億兆腸、

元治元年七月十九日天關ノ奸ヲ掃ハントシテ成ラズ十一月岩國ニ幽セラレテ自及ス年五十歳明治二十四年四月八日特旨正四位ヲ贈ラル。

(8) 益田彈正

益田彈正諱ハ親施通稱右衛門介玄蕃元宣ノ子ニテ世祿一万二千六十三石ヲ領ス豁達英氣アリ壯歳政ヲ秉リテ賄賂請謁ノ弊ヲ一洗シ大ニ才能ヲ擧グ元治内訌ノ際ニ殉難ス年三十二後特旨正四位ヲ贈ラル親施兵學ヲ吉田松陰ニ學ブ又僧性ヲシテ屢采邑ニ說法セシメ尊王ノ志ヲ鼓舞セリ。

(9) 國司信濃

國司信濃名ハ親相長藩ノ巨室ナリ人ト爲リ沈毅ニシテ文武ヲ嗜ミ尤モ國風ニ長ズ元治元年十一月國難ニ殉ス年二十四明治二十四年四月正四位ヲ贈ラル。



下關に於て攘夷の軍を督する折家に人を遣すこと。  
筆ごりて文かくひまもなかりけり硯の海の浪のさわきに

辭世

よしやよし世を去ることも我心

御國のために猶盡さはや。

(10) 清水親知

清水親知通稱清太郎霞堂ト号ス高松城主清水宗治ノ後裔ニテ萩藩ノ老臣ナリ十四歳自ラ不蹈死士不克爲善士ノ語ヲ書シテ心ニ誓フ後江戸ニ出テ大橋順藏ニ從學ス次テ世子ノ命ヲ奉ジ京都ニ出テテ學習院ニ出入シ歸藩後國老職ヲ攝ス内訌ノ際自及スルニ當リ古道照顔色ノ五字ヲ大書シ弟又爲之進ヲ招キ主家ニ盡スベキヲ語リテ從容死ニ就ク年二十二後年正四位ヲ贈ラル。

(11) 木戸孝允

木戸孝允ハ長州藩士ニテ始メ桂小五郎木戸準一郎等ト稱ス松菊ハ其ノ号ナリ幼ニシテ放縱ナリ母深ク之ヲ誡ム遂ニ行ヲ慎ミ學ヲ勤メ吉田松陰ニ兄事ス次テ江戸ニ遊ビテ齋藤彌九郎ニ劍ヲ學ビ塾長トナリ旁水藩ノ名士ニ交リ士人ノ間ニ名アリ世運變遷ノ兆見ユルニ及ビ京都ニ還リ謁ヲ縉紳ニ通ジ廣ク有志ニ交ル禁門ノ變後猶京師ニ潛匿シテ形勢ヲ察ス藩内正義ノ士起ルニ及ビ藩主孝允ヲ召シテ大

監察トシ政務坐ヲ總裁セシム外交内政及ビ兵務ヲ舉ゲテ其ノ手ニ委ス乃山田宇右衛門ト共ニ庶政ヲ簡革ス復古ノ偉業成ルニ及ビ廟堂ニ徵サレテ總裁局顧問トナル藩主敬親ニ勸メテ封土ヲ奉還セシメ諸藩コレニ倣ヒテ郡縣ノ制乃成ル次テ參議ニ任ジ歐米各國ヲ周覽シテ歸朝後病ヲ以テ參議ヲ辭シ内閣顧問ニ任ズ九年四月十八日車駕孝允ノ染井ノ別邸ニ臨幸セラル孝允感激シ六月車駕ニ扈シテ東巡シ民情ヲ察ス十年又車駕ニ扈シテ西京ニ至ル時ニ西郷隆盛ノ乱アリ孝允奏シテ車駕ヲ京都ニ駐メ征討ノ詔ヲ發ス既ニシテ病アリ五月二十六日遂ニ薨ズ年四十四明治三十四年五月從一位ヲ贈ラル孝允嘗テ山口絲米村ニ病ヲ養フ故宅山林ヲ其地ニ與ヘテ永ク獎學ノ資ニ充テシム村民祠ヲ建テ、其ノ靈ヲ祀ル。

(12) 大村永敏

大村永敏通稱益次郎吉敷郡鏡司村字大村ニ生ル初名村田良安後ニ藏六ト稱シ次テ今名ニ改ム漢學ヲ廣瀬淡窓ニ學ビ洋籍ヲ緒方洪庵ニ學ビ深ク洋式兵法ニ通ズ四境役北方一面ノ敵ニ當リ連戰皆捷ツ東叡山ノ賊ヲ討チ會津ヲ陥ル、亦其猷策多シトイフ其ノ兵部卿ニ任ズル兵制ノ統一ヲ計リ徵兵ノ制ヲ布カントス偶刺客ノ殺ス所トナル明治二年十一月五日享年四十七ナリ從三位ヲ追贈ス。

(13) 廣澤眞臣

廣澤眞臣初名波多野金吾後兵助ト改ム長門萩ニ生ル軀幹長大性温良質直ナリ文學ヲ好ミ又槍術ニ長

ズ米艦ノ浦賀ニ來ルヤ幕府長藩ヲシテ大森ヲ戌ラシム藩乃兵ヲ本國ニ徵ス眞臣演武場ニアリ命ヲ聽キ十七日間ヲ以テ徒行シテ江戸ニ達ス人健脚ニ驚ク越氏塾用掛、有備館用掛及ビ大檢使役、藏本役等ニ任ズ長藩ノ英佛米蘭四國軍艦ト馬關ニ戰フニ當リ幕府征長ノコトアリ藩主外患ヲ緩ベントス眞臣最モ力ヲ盡シ事乃濟ル内訌ノ際獄ニ投セラレ慶應元年出デ、海防手當用掛トナル明治元年徵士トナリテ參與ニ補シ海陸軍用掛ヲ命ゼラル次デ參議ニ任ジ民部大輔ニ任ズ四年一月九日夜刺客ノタメニ斃ル年二十九正三位ヲ贈ラル。

## (14) 山田顯義

山田顯義モト市之允ト稱ス空齋ハ其ノ号ナリ萩藩士ナリ少ヨリ和漢ノ書ヲ讀ミ尤モ兵法ニ通ズ夙ニ勤王ノ大義ヲ唱ヘ高杉晋作ヲ助ケテ俗論黨ヲ滅シ四境ノ役海陸大ニ幕軍ヲ破ル明治戊辰ノ役整武隊參謀ヲ以テ功ヲ樹テ會津函館ノ賊ヲ平ゲテ歸ル三年春大阪ニ兵學校ヲ設ケ盛ニ生徒ヲ養ヒテ徵兵令實行ノ準備ヲナス陸軍少將ニ進ミ歐米ヲ視察シテ意見ヲ奏ス人經世ノ材ヲ稱ス七年佐賀ノ乱ヲ平ゲ十年鹿兒島ノ賊ヲ平グ功ヲ以テ陸軍中將ニ進ム十二年參議工部卿ニ任ズ十六年司法卿トナル二十四年病ヲ以テ之ヲ辭ス二十五年生野ニ薨ズ年四十八。

## (15) 伊藤博文

伊藤博文幼名利助春畝ト号ス岩倉、三條、木戸諸公ノ後ヲ承ケテ先帝ノ偉業ヲ翼贊シ勅ヲ奉ジテ帝

國憲法、皇室典範ヲ定メ屢内閣總理大臣トナリテ親シク政務ニ任ジ明治二十七八年戰役ニ國威ヲ發揚シ諸外國ト條約ヲ改正シ樞密院議長韓國統監其他制度ノ創設多クハ自ラ之ヲ踐ミ誠ニ内外ノ重望ヲ荷ヘリ明治四十二年十月二十六日魯領哈爾濱ニ於テ暗殺セララル國葬ノ禮ヲ以テ葬ル世之ヲ惜ミ岩倉、三條、木戸三公ト共ニ明治ノ四賢ト稱ス。

## (16) 品川彌二郎

品川彌二郎ハ阿武郡松本村ニ生ル日孜ト号シ又念佛庵主ト稱ス吉田松陰ニ學ビ稜骨ヲ以テ愛セララル幕府再ビ征長ノ師ヲ起スヤ彌二郎木戸孝允ト謀リ獨京師ニ留マリ死ヲ決シテ事ヲ宮中ニ奏シ又檄ヲ諸藩ニ傳ヘテ宛ヲ雪ガントス大久保利通其志ヲ賞シ藩士ヲ糾合シテ共ニ之ヲ助ク明治二年彈正少忠ニ任ジテヨリ常ニ顯要ニ任ゼラレ明治二十四年内務大臣ニ任ズ明治三十三年二月二十六日正二位ニ叙此日薨ズ享年五十六我國ニ産業組合ノ興レルハ彌二郎ノ唱首ナリ。

## (17) 兒玉源太郎

兒玉源太郎ハ徳山藩士ナリ弱冠會津役ニ加ハリ明治十年役熊本ニ籠城ス久シク陸軍次官トナリテ軍備擴張ニ盡シ臺灣總督内務大臣等ニ任ジテ皆治績アリ日露役滿州軍ニ參謀トナリテ畫策皆其手ニ出ヅ陸軍大將ニ昇リ伯爵ヲ授ケラレ明治三十九年七月參謀總長ヲ以テ逝ク。

(18) 桂 太 郎  
 桂太郎ハ阿武郡萩ノ人ナリ幼名壽熊明治七年陸軍大尉トナリシヨリ常ニ陸軍中才學聰敏ヲ以テ推サ  
 レ日清戰役第三師團ヲ率ヒテ北滿ニ偉勳ヲ樹テ日露役總理大臣トシテ能ク時局ニ任ジ日英同盟ヲ結  
 ビテ東洋ノ和平ヲ計リ又日韓ノ併合ヲ行フ等皆其ノ手ニ成レリ大正二年十月十二日病ンデ薨ズ享年  
 六十六。

第四、能 吏

二州政治時ニ弛張ナキニアラズト雖モ民心能ク和ギテ洽ク仁政ニ浴ス蓋能吏多キヲ以テナリ二州ノ  
 學系ハ經世ノ識ニ富ミシ萩生護園ノ派ニ屬スルヲ以テ章句ノ尋求ヲ能事トナス如キコト少ク學者ニ  
 シテ吏務ヲ辭セザリシモノ甚多ク周南門下ノ十才子中和智東郊ノ如キ仲子岐陽ノ如キ窪井鶴汀ノ如  
 キ亦皆能吏ノ名ヲ得タルモノナリ。

(1) 永 田 政 純

永田政純通稱瀨兵衛トイフ萩藩士ナリ學藝ニ志シテ能ク古ニ通ジ又書ヲ善クス藩主吉廣(青雲公)史  
 局ヲ開キ國牒ヲ修ムルヤ政純ヲシテ之ヲ司ラシム政純考覈緝綴甚力メテ遂ニ之ヲ成ス在官凡六十年  
 寶曆四年五月齡八十二ニテ歿ス。

(2) 長 谷 川 右 文  
 長谷川右文通稱甚平萩藩士ナリ氣慨アリ廉服短袴常ニ朱鞞ノ長刀ヲ帶ス密用方右筆トナリ武備ヲ修  
 メテ太平ノ積習ヲ改メントス事行ハレザルモ後年村田清風甚右文ニ私淑シテ時弊ヲ矯正セリトイフ  
 文化四年歿ス。

(3) 阪 時 存  
 阪時存初九右衛門ト稱ス後九郎左衛門ト改ム吉敷郡山口ニ生ル學ヲ好ミ幹器アリ兼テ書ヲ能クス屢  
 顯職ニ任ジテ治績アリ明倫館ノ創建、徳山廢藩後ノ整理、山代縣令ノ任、利根川ノ治水等ハ其著キ  
 モノナリ晩年封内諸縣總監ニ任ゼラレ寶曆九年十月八十一才ヲ以テ歿ス時存又和歌ヲ善クス尙齒會  
 ノ際詠メル歌ニ。

君が代に残さまほしきものごては  
 共につもれる齡なりけり

(4) 上 山 經 匡

上山經匡字正左衛門小字久伯愛松軒ト号ス賢ヲ好ミ能ク後進ヲ推轂ス緩急御缺ヲ投ジテ之ニ應ズ吏  
 ニ任ズルコト四十八年衆其徳ニ服ストイフ寶曆二年卒ス年ヲ得ルコト八十。

(5) 香 川 景 孝

香川景孝通稱吉右衛門素堂ト号ス吉川家士ナリ狀貌魁偉資性沈靜ナリ藏元仕置方トナリ一意費ヲ省キテ國力ヲ養ヒ遂ニ著積金ヲ生ズルニ至レリ藩主經幹ノ幼ナル景孝コレニ傳タリ曰ク君德上ニ修ル時ハ臣民下ニ興ル請フ有德ノ士ヲ擢デ、治ヲ謀レト安政五年九月病歿ス享年六十八。

(6) 小田 錦 溪

小田錦溪諱ハ仲孺字ハ子信久兵衛ト稱ス熊毛郡三井村ノ人ナリ上關山代鹿野等ノ民政ニ任ジテ弊ヲ革メ益ヲ興ス吏民之ニ懷ク其ノ己ヲ潔クシテ吝ラザル尤モ他ニ見ルヲ得ザルモノナリトイフ明和元年十月年四十三ニテ逝ク。

(7) 三 戸 芳 基

三戸芳基通稱ハ四兵衛縣下萩ノ人ナリ中關宰判創設ノ際邑宰トシテ新ニ治化ヲ施シ撫育ニ勉メ治蹟大ニ舉ル邑民永ク碑ヲ建テ、之ヲ仰グ。

(8) 上山與左衛門

上山與左衛門ハ佐波郡牟禮村ノ人ナリ維新前畔頭役、里正、鹽田年寄役等トナリ維新後マデ公職ニ在リテ公私ノ便益ヲ計リ村民悅服ス明治十年七月病歿ス享年六十一。

(9) 玉 乃 世 履

玉乃世履ハ岩國ノ人ナリ人トナリ忠誠明敏ニシテ尤モ聽訟ニ長ズ江戸幕府ノ廢セラル、ヤ冤訟疑獄

悉ク延滯ス事外國ニ關スルモノ尤モ難シトナス君命セラレテ之ヲ斷ズ日夜勵精以テ平衡ヲ秉ルヲ得タリ後大審院長ニ任ジ明治十九年八月六十二才ニテ逝ク。

第五、拓 殖

防長二州ハ中國ノ要衝ニ當リ氣候和順ニシテ水陸ノ産ニ富ム北海岸ハ海深ケレドモ瀬戸内海沿岸ハ海濱遠ク退クヲ以テ開墾埋立等ニ便宜多ク代々ノ藩公銳意之ヲ計畫シ新田ヲ得ルコト少カラズ今津開作、三田尻開作、宇部開作等頗廣ク石高隨テ大ニ増加セリ慶長年間輝元入國ノ際檢地石高二十九万八千四百八十石餘ト稱ス慶長十八年新檢地ノ際三十六万九千四百一十一石ヲ得タリ而コレヲ永ク長藩ノ石高トナセリサレドモ貞享三年檢地ノ際ニハ八十一万八千四百八十七石餘アリ明治二年十月藩籍奉還ノ際ニハ九十八万八千四百〇二石餘アリタリトイフ以テ二州富力ノ増加ヲ見ルベシ。

寶曆ノ頃毛利重就大ニ殖産ノ道ヲ講ジ米鹽紙蠟ヲ以テ防長ノ四産物トス往時ノ勸農ハ耕作法ノ改良トイフヨリハ町歩ノ増加ト副産物ノ獎勵トニアリシガ如ク綿、藍、櫛、甘蔗、麻、茶、桑、楮等ノ産次第ニ増加シ又牧牛ノ業モ頗獎勵セラレタリ防長ノ櫛實ハ寶曆ノ頃一丸蠟ト稱シテ關西ニ有名ナリシモ後其ノ商標聲價共ニ九州産ノタメニ奪ハル製鹽ハ三田尻地方尤モ盛ニシテ鹽田ノ古キハ綱廣ノ開作ト稱セラル、古濱鹽田ナリ防府地方鹽田總町歩二百九十七町三段九畝十九步、毛利氏代々埋

立事業ノ偉大ハ楠田ノ一部ノミヲ以テスルモ此ノ如シ  
重就開作事業ノ中心ハ全ク佐波郡中關村ナリ公盛ニ新地移民ヲ獎勵シテ便宜ヲ與ヘ新ニ中關港ヲ開  
キ中關市街ヲ新設シテ特ニ遊女演劇ヲ許シ以テ諸國ノ船舶ヲ寄港セシム。

太平の御代は鎖さぬ中關

こゝに集る黄金白ふね

ノ歌ヲ作リ中關地圖ト共ニ扇面万本ニ書シテ諸國ニ贈リ之ヲ知ラシム水産事業中著キハ捕鯨ニテ主  
トシテ大津郡ニ行ハル肥前平戸ノ人松島與五郎アリ其妹阿千巧思アリ捕鯨網ヲ案出シ阿武郡見島ニ  
來リ與五郎ト共ニ之ヲ實施ス後歸リテ卿國ニ傳フ平戸五島等ノ捕鯨事業是ヨリ興ルトイフ

(1) 東條就類

東條就類通稱九郎右衛門吉敷郡小郡宰判ノ代官トナリ意ヲ開拓ニ注グ新田四千三百餘石ヲ開作シ農  
戸百六十ヲ増シ池若干ヲ穿ツ長澤池尤モ大ニシテ水面四十町ナリ臺道鑄錢司、名田島ノ諸村是ヨリ  
早損ナシ寛文十年十一月歿ス士人爲ニ社ヲ建ツ津山社はナリ。

(2) 棕梨俊平

棕梨俊平通稱權左衛門宗藩家老福原氏ノ家人ナリ主人ノ領地宇部村荒野多キヲ以テ開拓ニ注目シ小  
串ノ鵜島ヲ開作シテ新田七十町ヲ得地瀨池ヲ穿ツ次テ常盤池ヲ作り水面百八町五段一畝八歩ニシテ

新田三百五十四町ヲ得タリ終ニ床波ヲ開作シテ田十五町ヲ得タリ邑主之ヲ重シ老ニ至ルマテ邑政  
ニ參與セシメタリ。

(3) 波多野槃齋

波多野槃齋宗右衛門ト稱ス厚狹郡須惠村ノ豪族ナリ常ニ讀書ヲ嗜ミ勞吏務ニ練達ス最モ心ヲ土木ニ  
盡シ大濱妻崎高泊墾田ノ事ニ任ジ功勞尤モ多シ維新後私費ヲ捐テ、小學ヲ興ス官之ヲ嘉賞シ命ジテ  
致職トナス明治八年十二月逝ク享年七十三。

(4) 松永周甫

松永周甫名ハ祐利朝風ト號ス吉敷郡鑄錢司村ノ人ナリ醫業ノ傍本草學ヲ窮メ瘡地三町餘ヲ開墾シテ  
草木五百餘種ヲ栽培ス次デ山林數十頃ヲ拓キ能ク禿山ヲシテ青色ヲ著グシメ以テ勸業ノ範ヲ垂ル明  
治十六年六月齡七十一ニテ逝ク。

(5) 林勇藏

林勇藏ハ吉敷郡仁保津ノ人家世豪農大里正タリ維新前郡政ニ任ジテ周旋尤モ力メ又私産ヲ傾ケテ志  
士ヲ助ケ能ク其志ヲ盡サシム樵野川改修仁保津墾田ノ事業ハ其治績中ノ大ナルモノナリ

(6) 田中藤六

田中藤六ハ佐波郡右田村佐野ノ人ナリ中關村鶴濱ニ居リ豊後屋ト呼ビ自ラ白和ト号ス寶曆明和ノ頃

策ヲ建テ、鹽業法ヲ改良ス三八替持ノ法是ナリ又十州鹽田組合ヲ創設シテ鹽戸ノ窮厄ヲ救フ安永六年歿ス。

(7) 姥倉開渠碑

碑ハ阿武郡椿郷東分村小畑ニアリ阿武川ノ下流二岐シテ萩町ヲ擁シ海ニ注グ往々漲溢民戸ヲ沒ス毛利忠正公之ヲ憂ヒ役夫三十二万日子九百餘日ヲ費シテ姥倉新渠ヲ開ク長四百十九間幅十五間ナリ爾來六十餘年又水患ナシ。

(8) 木與村新田碑

阿武郡奈古村木與ニアリ明治七年戸長金子光藏副長矢田宗介有志ト計リテ遠ク溝漚ヲ設ケ新田數百畝ヲ開ク乃碑ヲ建テ、之ヲ不朽ニス。

(9) 野口陂

吉敷郡吉敷村字赤田野口陂ハ文化十二年春里正小田平兵衛直正ノ官ニ請ヒテ築造スル所ナリ水面一町歩耕地五十餘町ヲ灌溉シ長ク沾渴ヲ免レシム。

(10) 矢田義溝

吉敷郡吉敷村赤田ニアリ始メ堰流停溜ノタメ下潤五千餘畝ノ域屢漲溢ノ厄ヲ蒙リ百修効ナシ古來恒患トナス矢田撫髯慨然トシテ自己ノ良田ヲ廢シ私費ヲ捐テ、之ヲ修ム爾後水理順ニ服シ下田龜拆ナ

ク又堤防ノ決崩ヲ憂ヒザルニ至レリ。

(11) 勝井陂

勝井陂ハ吉敷郡朝田村ニアリ勝井高井ノ二村ヲ灌溉ス文化十二年里正伊藤五兵衛利久ノ設クル所ナリ村民今ニ至ルマデ其惠ヲ受ク。

第六、功 勞

功勞ノ十出デテハ官祿ヲ得退キテハ郷黨ノ師表トナル生キテハ榮達シ死シテハ廟食ス史ノ録スル所上下皆功勞ノ人ニアラザルハナシ維新後官褒賞條例ヲ設ケテ國民ノ龜鑑ヲ表彰ス素ヨリ民間生存者ノミニ止マリ而モ一隅ヲ舉グルニ過ギザルモ山口縣ノ人ニシテコレニ加ハルモノ藍綬褒章ニ本間源三郎、林勇藏、市原儀傳太、豊永長吉、笠井順八アリ綠綬褒章ニ普喜齋、廣石末藏アリ明治天皇藩祖毛利元就ノ國家ニ功勞アルヲ想ヒテ豊榮神社ニ列セシメ又功臣ニ銅碑ヲ賜フノ例ヲ開キ毛利敬親ニ始メテ之ヲ建テ次デ木戸孝允ニ之ヲ賜フ防長二州ノ國家ニ功勞アル以テ明カナリ今便宜上暫ク一項ヲ設ケテ二三卓越ノ事績ヲ明カニス他ハ各項ノ記事ニ讓ル。

(1) 榎本就時

榎本就時ハ榎本賢忠ノ孫ナリ賢忠大内氏ニ屬ス義隆弑セラル、ニ及ビ毛利氏ニ歸ス子元吉毛利氏ニ

仕へ功勞アリ就時其ノ後ヲ承ク幼名龜太郎後左近ト改ム諸奉行ニ任ジ當職ニ擢テラレ加判役ヲ以テ寛文八年三月二十九日歿ス年六十四就時識量群ニ絶ス藩主綱廣ノ信任ヲ受ケ万治制法ヲ定ム是ヨリ先公靡頗困迫ス就時ニ及ビ財政宜シキヲ得テ毎歲贏餘アリ之ヲ内庫ニ收メテ不虞準備金トス。

(2) 村田清風

村田清風四郎左衛門ト稱シ後織部ト改ム号松齋大津郡三隅村ノ人弘毅俊爽經世ヲ以テ志トナス歲二十七靖恭公ノ近侍トナリ次デ密用方ニ補セラレシヨリ常ニ顯要ニ任ゼラレ四君ニ歴仕シテ功績極メテ著シ神器陣ノ創案、明倫館ノ重建、造士法ノ改革、藩士ノ財政整理、社寺整理ノ如キ羽賀臺ノ閱兵、鶴步別邸ノ貯穀、麻布邸ノ武庫設置等ノ如キ皆其ノ計畫ヨリ出ヅ太平因循ノ故轍ヲ改メ士風ヲ激勵シ人心ヲ開發シテ二州飛躍ノ礎ヲ築ケルハ悉ク清風ノ力ナリトイフ嘗テ大津郡ノ舊盧ヲ講學演武ノ場ニ充テ尊聖堂ト曰フ悉ク藏書ヲ出シテ郷黨ノ子弟ニ貸與ス印ニ集散任天然永爲四海寶トイフ以テ人トナリヲ察スベシ嘉永五年五月年七十ニテ歿ス正四位ヲ贈ラル子次郎三郎大津唯雪ト稱ス勤王ニ志ス明治二十年四月三日歿ス從四位ヲ贈ラル。

(3) 周布政之助

周布政之助名ハ兼翼字ハ公輔長藩士ナリ幼ニシテ父兄ヲ喪フ母村田氏賢ナリ庭訓能ク行ハル長ジテ書ヲ讀ム晝夜席ヲ離レズ數年一日ノ如シ北條瀨兵衛、村田清風、山縣太華等ニ文武ヲ學ビ特ニ清風

ニ私淑ス國學都講トナリ政務役ニ轉ジ國政ニ參與ス後土佐藩士ト時勢ヲ論ジ土佐藩主山内侯ノ忌諱ニ觸ル藩主止ムヲ得ズ職ヲ褫フ政之助是ヨリ麻田公輔ト稱ス次デ又表番頭ニ舉ゲラレ主トシテ政務ヲ執ル長藩勤王ノ舉政之助ノ奔走尤力アリ廟議變ジテ長藩禁門ノ宿衛ヲ停メ次デ元治甲子ノ役アリ幕府問罪ノ師ヲ起スニ及ビ政之助一身ヲ以テ國難ニ代ランコトヲ請ヒ數日食ハズ遂ニ自及ス時ニ元治元年九月二十六日享年四十二ナリ後特旨正四位ヲ贈ラル。

(4) 穴戸眞徵

穴戸眞徵通稱左馬之助人ト爲リ重厚歌文ヲ善クシ鴉浮巢翁ト号ス藩老穴戸氏ノ一族ナリ藩ノ典故ニ通ジ壯歲京都藩邸留守居トナル長藩ハ毎年十二月二十八日白銀十枚ヲ天朝ニ獻ズルノ例アリ眞徵其ノ使ニ任ゼシコトアリ皇威ノ伸暢セザルヲ見テ痛ク之ヲ嘆キ大ニ勤王ノ志ヲ決ス次デ大阪藩邸留守居トナリ元治甲子ノ變ニ京都ニ上リテ志士ヲ鎮撫シ天王山ニ居ル軍敗ル、ヤ敵兵ヲ待ツ至ラズ乃國ニ歸ル幽セラレテ自及ス年六十一嘗テ京都ニアリシ頃ノ歌ニ

そのかみを思ひ渡せば長橋に

通ふ心の今も絶わせぬ

遺集鴉浮巢アリ。

(5) 楫取素彦

楫取素彦初名小田村素太郎畊堂ト号ス長門萩ニ生ル少壯明倫館ニ學ビ後江戸ニ出デ、安積良齋、佐藤一齋ニ師事ス明倫館都講ヨリ助教ニ移リ次デ山縣恭平、山縣半藏等ト侍講ニ列ス又三田尻山口ノ郡學ヲ督ス内訌ノ際俗論黨ノタメニ獄ニ投セラレ正義ノ士代ルニ及ビ出テ、藩命ヲ奉ジ屢廣島、徳島、岡山等ニ使シテ長藩ノ正義ヲ述ブ明治維新後徵士トナリ參與ニ任ゼラレ熊谷群馬諸縣令トナリテ治績アリ貞宮御養育掛主任トナリ宮中顧問官ニ任ジ鳩杖ヲ賜ヒ正二位ニ叙ス大正元年八月十六日薨ズ年八十四。

### 第七、文 學

王朝ノ制京都ニ大學ヲ置キ諸國ニ國學ヲ置ク學生ノ數大國ハ五十名上國ハ四十名中國三十名下國二十名ニシテ小國ハ學ヲ設ケザルナリ按ズルニ周防ハ上國ニシテ長門ハ中國ノ列ニアリ當時養育所ノ學生ハ主トシテ官吏ト醫トニ止マルト雖モ文學ノ曙光ヲ是ニ見ルハ又悦フベシ往事詳細ニ徵スベカラザルヲ遺憾トス。

大内氏ノ祖琳聖韓文學ヲ齋シテ周防多々良濱ニ着ス佐波郡牟禮村岸津ノ地是ナリ大内氏二十六世ノ間文學事績ノ傳ハレルハ義隆ノ代ニ止マルモ常ニ韓文學ニ得ル所ヲ以テ二州ニ臨ムモノナクンバアラズ多年開拓ノ功ハ決シテ義隆ノミニ止マラザリシナラン況ンヤ代々明國勘合船ヲ司掌スルノコト

アリシニ於テヤ。

義隆ノ文學獎勵ニ浴セシ僧桂菴ハ薩摩ニ文脈ヲ移植シ藤原惺窩之ヲ得テ德川時代ノ文運ヲ開ケリ桂菴ノ師ナラントノ評アル南村梅軒ハ土佐ニ入りテ南學派ノ祖トナリ其學四國ニ行ハレ實學ヲ主トス我國王學ノ祖ト稱セラル、中江藤樹モ幼時伊豫ニ學ビタリトイヘバ或ハ南學ノ趣味ヲ味ヒシコトナシトイフベカラズ然ラバ則德川時代ノ文學興隆ハ悉ク大内氏ノ賜物ト稱セザルベカラズ。

大内氏滅後二州ノ主タルヲ毛利氏トス毛利氏ノ學ハ勤王ニアリ換言スレバ普遍的儒學ノ獎勵ヨリモ日本の教育ノ確立及實行ニ重キヲ置ケリ而モ常ニ唱道ノ率先タリシモノ亦偉ナラズヤ之ヲ史ニ考フルニ藩祖元就高倉管子ヲシテ學ヲ陣中ニ講ゼシメ其子小早川隆景ハ名島ノ領地ニ庠序ヲ建ツ共ニ天下干戈相視ルノ間ニアリ右田時觀圖ノ設立ハ德川時代學館ノ尤モ早キモノナリ防府河野養哲ノ事績ハ學事貢獻ノ唱首タル觀アリ近來山口縣ガ圖書館ヲ以テ他府縣ニ冠タルハ遠祖大江匡房卿ノ高倉文庫及ビ近ク村田清風ノ藏書ニ天下誰人モ之ヲ愛スル者ハ自ラ藏スルヲ禁ゼズトイフガ如キ圖書館史實上ノ異彩ニアラズヤコノ異彩アリテコノ事業ノ發達スル寧後ノ縣民タルモノ、當然ノ任務ノミ。圖書館ノ一事ノミヲ以テスルモ縣民ノ責任此ノ如シ若夫審ニ大内氏文學ト毛利氏文學ノ顛末並ニ影響ヲ察セバ有形的ニ又無形的ニ形式ト精神トヲ併セテ日本教育界ノ曉鐘トナリ國民的實現ノ木鐸タリシコトコレ過去ノ防長教育及ビ防長人士ノ實踐ノ事實ニアラズヤ後ノ防長ノ子弟及教育者並ニ縣



民トナルモノ其ノ責任亦大ナル哉。

(一) 大内氏

大内氏第二十四世政弘和歌ヲ好ミ子義興ニ及ビ管領職ヲ以テ久シク京都ニ居ル第二十六代義隆ニ及ビ和歌ニ秀テタル藤原尹房、藤原公頼、藤原親世、儒道ノ師トシテ小槻伊治等ヲ京都ヨリ招キ使ヲ朝鮮ニ遣ハシテ五經正義、朱氏新註五經、及一切經、刻漏器等ヲ求ム又自ラ三重韻、三体詩、聚分韻略、潛溪集等ヲ出版ス今尙世ニ山口本ト稱シテ珍藏セルモノ是ナリ惜ムラクハ以テ經世ニ用キルコト能ハズ單ニ讌間消暇ノ具トナセルノ感アルコトナリ然ト雖モ爲ニ其ノ貢獻ノ大ナルヲ忘ルベキニアラズ。

(1) 小槻伊治

小槻伊治ハ正四位下時元ノ男ナリ其女万里小路秀房ノ女ニ仕フ万里小路氏大内義隆ノ室トナル伊治ノ女之ニ從フ伊治亦來リテ義隆ノ師トナル陶賊ノ乱ニ湯田ニ於テ陶隆滿ノ兵ニ殺サル。

(2) 清原頼賢

清原頼賢ハ正三位宣賢ノ孫ナリ山口ニ下向シ大内義隆ノ文學ノ師トナル天正八年十一月薨ズ享年七十一從二位ヲ贈ラル。

(3) 南村梅軒

南村梅軒嵩明翁ト稱ス周防大内氏ノ臣ニシテ上宇野令白石ニ居ルトイフ天文申土佐ニ至リ吉良宣經ノ客タリ宣經卒シテ後往ク所ヲ知ラズ南學派ノ祖タリ。

(4) 僧桂菴

桂菴禪師字ハ玄樹島陰ト號ス應永三十四年周防山口ニ生ル長ジテ京洛ニ入り南禪寺ニ居リ歸リテ下關市永福寺ニ主タリ程朱性理ノ學ニ覃思シ勅ヲ奉ジテ明ニ至リ居ルコト七年深ク宋學ノ蘊奧ヲ極ム歸朝後石州ニ居リ尋テ鎮西諸州ヲ遊歴シ遂ニ薩摩ニ止マリテ永ク朱學ノ祖ト仰ガル彼ノ藤原惺窩ハ全ク桂菴四世ノ學孫間得ニ就キテ朱學ノ傳ヲ得シモノトス永正五年六月鹿兒島東歸菴ニ寂ス菴ハ昔梅ヶ淵ト稱セシ地ナルヲ禪師菴ヲ結ビテ老ヲ養フ菴ハ今存セザルモ禪師ノ墓ハ今尙其所ヲ替ヘズシテ鹿兒島郡伊敷村ニアリ即チ菴ノ遺址ナリ。

(二) 萩

萩ハ素北條直元ノ治所ナリ慶長八年毛利輝元廣島ヨリ移リ城ク爾後永ク長藩ノ治所トナル毛利氏本姓ハ大江ナリ大江音人文學ヲ以テ清和天皇ノ侍讀トナリ大江維時ハ醍醐、朱雀、村上三代ノ侍讀ニ任ス大江舉周ノ母赤染衛門ハ百人一首中ノ作家ニ列ス匡房ニ至リ博識古今ニ絶シ治國ノ才アリ後三

條天皇ノ師トナル其家世々文學ヲ以テ盛名アリ菅原氏ト共ニ大學兩曹ノ學ヲ督ス後裔武ヲ以テ與ルモ元就既ニ國詩ヲ善クシ詠草アリ世ニ行ハル子隆元亦學ヲ好ミ特ニ孝慈ノ德アリ輝元萩ニ居ルニ際シ明人陳元贊來リ觀テ長門國誌ヲ撰ブ中ニ曰ク習俗好學、工醫、人多善良而禮義ト又太守ノ德行ヲ錄シテ曰ク政治之暇、則聯儒臣、以講究古今治道ト

サレドモ藩治草創未學館ニ及バズ秀就ヲ經テ綱廣ニ至リ山田原欽ヲ登用セシモ侍講ニ止マル吉就、吉廣ヲ經テ吉元ニ至リ始メテ文武稽古塲ヲ萩城三廓内ニ創ム時ニ享保三年ナリ名ケテ明倫館トイヒ小倉尙齋ヲ祭酒トス其地今古明倫館ト稱シテ堀内村ニアリ尙齋歿シテ山縣周南コレニ代ル周南學規ヲ定メテ曰ク

學問之設、達材成德、上焉以供國家之用、下焉以使用所矜式也、

周南ノ學萩生徂徠ヨリ出ヅ隨テ防長ノ學派ハ永ク護國學ヲ奉ズルモ其ノ講學ノ精神ニ至リテハ全ク藩祖勤王ノ志ヲ繼承スルニアリ護國ノ徒往々名分ヲ失フ周南獨コレニ異リ同學太宰春臺禮法ヲ以テ自ラ任ズ猶解セザル所アリ。

周南書ヲ與ヘ忠告シテ曰ク

弟嘗謂、大東超於宇宙者三焉、開國以來一姓爲君、載籍所不記也、周有二分、服于人也、稱爲至德、今也有天下、而不去臣位、秦人壞封建、刑名以治、堂々中國、於今三千年、不能復復、當今

封建密於周人、而仁浹於海隅也、漢以來所不聞焉、此三者實超于宇宙矣、名教存於吾輩、不得爲老兄之不言、如何如何。

當時幕威頗盛ナリ周南爲ニ語ヲ盡ス能ハザルモ名教ヲ以テ自ラ任ジ開國一姓ノ國體ヲ護ラントスコレ實ニ毛利氏文學ノ精神ナリ。

白川樂翁ノ異學ヲ禁ジテ朱氏學ヲ奉ゼシムルヤ明倫館ノ學系亦コレニ改メザルベカラズ周南ノ後裔太華等皆改メテ朱子學ヲ奉ズルモコレヨリ毛利氏ハ盛ニ國史講究ノ方針ニ轉ジテ爲ス所又自ラ昌平黌ニ異リ太華亦國史纂論ヲ著シテ大ニ名分ヲ論ズ。

藩主敬親ニ至リ天下漸ク武治ニ飽ク公大ニ爲ス所アラントシテ村田清風ノ議ヲ用ヒ城東羽賀臺ニ武ヲ閱シ又命ジテ明倫館ヲ改築セシム乃新地ヲ江向村ニ撰ビ地積一万四千三百四十九坪三合餘ヲコレニ充テ、文武ノ舍ヲ建ツ弘化三年ヨリ嘉永二年春ニ至リテ始メテ成ル山縣太華舊規ヲ改訂シテ曰ク建學造士、豈獨守其封疆而已哉、所以爲國家之藩屏也、

敬親ノ有司ヲシテ明倫館教官ニ下サシメタル告諭ニ曰ク

神州ノ國體大ニ外國革命ノ風儀ト不同故ニ万古一系ノ天朝ヲ翼戴スルコト亦異邦自立ノ主ヲ奉ズルト大ニ異ナリ然ラバ則尊王攘夷ハ皇國臣民万古不易ノ常道ニ候此處ヲ能ク辨知スレバ國體ヲ知ルト云ヒ又國是ノ大基本ヲ建ツトイフ是御家來中千万人一樣感徹可相辨候事柄ニ付教官無疎誠實

ニ令教諭候様被仰付事。

明倫館當初ノ教科ハ經學、歴史、制度、兵學、博學、文學ノ諸科ニ分テシガ嘉永年間ノ擴張以後ハ漢學、國學、音樂、漢蘭醫學、天文、地理、算術、筆道、禮式、兵學、弓馬、槍劍、騎射、打毬、大砲、柔術、水軍、游泳、銃陣等悉ク之ヲ備ヘテ人材ヲ育シ別ニ敬身堂ヲ建テ、卒族ニ學ヲ講ゼシメ好生堂ヲ建テ、醫學所トス又江戸藩邸ニ有備館ヲ設ケテ東都祇役ノ士ニ文武ヲ講ゼシム館中又擊劍、漢學、國學、洋籍譯書等ノ數部ヲ設ケテ之ヲ教授セリ。

(1) 山田原欽

山田原欽名ハ熙復軒ト号ス三田尻ニ生ル幼ヨリ神童ナリ十一才京都ニ赴キ詩ヲ以テ後水尾天皇ヨリ謁ヲ賜フ妙法院堯恕法、親王深ク其才ヲ愛シ伊藤垣菴ノ弟子トス學業大ニ進ミ十四才ニシテ壽徳公ノ侍講トナル以テ一班ヲ察スベシ元祿六年七月二十八ニテ歿ス原欽六世ノ孫賴毅學識卓見人ヲ拔ク吉田松陰ノ師タリ。

(2) 小倉長肅

小倉長肅諱ハ貞字ハ實操尙齋ト号ス長門萩ノ人ナリ京都ニ適キ伊藤垣菴ニ學ビ伊藤仁齋北村可昌等ト友タリ長藩ノ明倫館ヲ建ツル徵サレテ祭酒トナル邦内是ヨリ學ニ嚮フ元文二年十一月官ニ卒ス年五十。

(3) 小倉鹿門

小倉鹿門名ハ實廉字ハ彦章防府勝間ニ生ル河野養哲ニ學ビ後山縣周南ニ從學シテ十才子中ニ數ヘラル周南歿後學館事務ヲ攝ス安永五年十月卒ス年七十四。

(4) 小倉南皋

小倉南皋諱ハ實文字ハ尙右衛門阿武郡萩ニ生ル鹿門先生ノ長子ナリ侍講ニ任ゼラル文化五年十月歿ス享年六十三。

(5) 山縣良齋

山縣良齋諱ハ長白通稱治右衛門佐波郡小野村鈴屋ニ生ル仕ヘテ藩ノ講官トナル享保十三年七月壽八十一才ニテ終ル山縣周南ハ其子ナリ。

(6) 山縣周南

山縣周南諱ハ孝孺字次公小字ヲ少助トイフ佐波郡小野村鈴屋ニ生ル年甫メテ十九江戸ニ至リ護園ニ入り徂徠ノ羽翼ト稱セラル強學三年ニシテ歸リ藩學明倫館ヲ督シ寶曆二年八月壽六十六ヲ以テ逝ク門下秀才多ク長門十才子ノ稱アリ其餘必シモ學職ニ任ゼザルモ傑然才ヲ成セルモノ頗多シ皆周南教化ノ力ナリ。

(7) 山縣棠園

山縣棠園諱ハ泰恒字ハ伯恒通稱二郎右衛門周南ノ長子ナリ祿ヲ襲ヒテ講官トナル天明三年二月六十五才ヲ以テ卒ス男泰道亦學才アリ能ク家名ヲ嗣グ。

(8) 山縣太華

山縣太華名ハ禎字ハ文祥通稱半七阿武郡萩ニ生ル周南ノ遠裔ナリ程朱ノ學ヲ奉ジ文化九年中村華嶽ト各番勤仕ス明倫館重建ノ際祭酒ニ任ジテ學政ヲ更張シ嘉永四年藩主ノ命ヲ奉ジテ四書集註ノ訓點ヲ改ム慶應二年八月享年八十六ニテ歿ス其著國史纂論ハ其名世ニ高シ。

(9) 瀧鶴臺

瀧鶴臺諱長愷字彌八萩ニ生ル小倉實操ニ學ビ實操死後山縣周南ニ學ビテ縣門三才子ノ一ニ計ヘラル海北大夫ニ聘セラレテ邑ノ學正トナリ次ニ江都ニ遊ビ服部南郭ニ學ブ之ヲ久シクシテ其名諸侯ニ達ス次テ本藩ニ祿仕シ安永二年六十五ニテ歿ス鶴臺詩文師名ヲ厭シ書ヲ善クス律令方技浮屠ノ書窮盡セザルナシ夫人世良氏亦淑徳ヲ以テ知ラル。

(10) 瀧鴻臺

瀧鴻臺諱鴻字士儀鶴臺ノ子ナリ四部百家ヲ涉覽シ祿ヲ襲ヒテ侍講トナル寛政四年五月年四十八ヲ以テ病歿ス。

(11) 林義卿

林義卿字ハ周父通稱東溟長門萩ノ人山縣周南ニ學ビ和智東郊瀧鶴臺ト共ニ縣門ノ三條ト稱セラル年二十四郷ヲ去リテ浪華ニ至リ又平安ニ移ル京攝ノ間ニ護國學ヲ講ズルハ義卿ニ始マル安永九年九月二十五日年七十三ヲ以テ歿ス。

(12) 和智東郊

和智東郊諱棟卿字子夢通稱九郎左衛門縣門ノ高足ナリ詩歌共ニ入室ノ譽ヲ得武庫監、相府佐吏、長史長崎國邸監、東都國邸留後椽等ニ歷仕數十年一日ノ如シ明和二年六月年六十三ニテ歿ス。

(13) 仲子岐陽

仲子岐陽諱由基字子路萩城ニ生ル縣門三才子ノ一ナリ名聲四方ニ藉甚シ卿大夫皆延キテ上客トナス享保六年七月享年四十五ニテ逝ク。

(14) 曾野雲門

曾野雲門諱原字ハ子泉内記ト号ス周防間田ノ人ニテ宗藩寄組益田氏ノ家宰益田五郎兵衛ノ庶子ナリ山縣周南ニ師事シ精敏博覽諸生ノ冠タリ京都ニ客居シテ帷ヲ下スヤ儒林ノ翹楚ト稱セラル次テ東都ニ赴ク不幸ニシテ病歿ス年四十九。

(15) 津田東陽

津田東陽名ハ泰字ハ子雅萩城人周南ニ師事シ周南歿後明倫館祭酒トナル元祿十五年六月享年五十三

ニテ卒ス。

(16) 永富獨嘯

永富獨嘯名ハ鳳字ハ朝陽初メ昌安ト稱ス後鳳介ト改ム厚狹郡宇倍村ノ人本生松岡氏親戚永富氏ノ嗣トナリ下關ニ籍ヲ設ク倣儻奇偉山縣周南ニ從學シ後京都ニ遊ビ醫ヲ山脇尙徳ニ學ブ曰道ヲ學ブハ志ナリ醫ヲ學ブハ業ナリ以ニ棄ツベカラズト明和三年歿ス享年三十五著書少カラズ獨嘯囊語、漫遊雜記、吐方考等アリ。

(17) 山縣魯彥

山縣魯彥字ハ子祺通稱季八洙川ト号ス山縣周南ノ門人ナリ。

(18) 中村梁山

中村梁山名ハ恭字ハ子順通稱八郎兵衛萩藩士ナリ山縣周南ニ學ビ次デ都講トナルモノ十八年又任ゼラレテ世子侍講トナル人ト爲リ敦重ニシテ岸崖ヲ設ケズ能ク國史ニ通ジ皇朝ノ文物典故窺ハザルナシ享年和元年正月享年七十一ニテ歿ス。

(19) 奈古屋以忠

奈古屋以忠字ハ大夏幼名松菊後與七ト改メ更ニ九郎右衛門ト改ム萩藩士ナリ儒ニシテ吏胥ニ任ズ山縣周南ノ門人ナリ。

(20) 山根華陽

山根華陽諱清字子濯七郎左衛門ト稱ス周防華浦ニ生ル山縣周南ニ從學ス周南歿後津田東陽小田村郵山代リテ明倫館祭酒トナリ次デ代レルヲ華陽トス明和八年十二月病ンデ卒ス年七十五。

(21) 山根南溟

山根南溟名ハ泰德字ハ有隣通稱六郎華陽ノ男ナリ酒ヲ好ミテ酒禪ト稱ス墳籍ヲ研精シ古今ヲ洞覽ス直言權貴ヲ避ケズ侍講ニ進ミ寛政七年春病歿ス詩文ニ長ジ草書ヲ善クセリ嘗テ明倫館祭酒ヲ攝ス大ニ才學ヲ獎勵シ子弟其德ヲ仰グトイフ。

(22) 山根濟州

山根濟州名ハ晋字ハ世祿周防勝間ノ人幼ニシテ父母ヲ喪ヒ同族華陽ニ養ハル學諸家ニ通ジ詞藻ヲ善クス侍講ニ擢ンデラル不幸短命ニシテ歿ス時ニ寶曆五年九月二十五日享年三十八。

(23) 小田村郵山

小田村郵山名ハ公望字ハ望元文助ト稱ス本姓山本氏三田尻警固方小田村清道ニ養ハル齠髫詩書ヲ誦シテ神童ノ稱アリ父死シテ貧窶甚シ河野養哲之ヲ憫ミテ衣食セシム郵山發憤遂ニ其ノ高弟トナル後周南ニ師事ス荻生徂徠其ノ文ヲ賞シテ雕虎ノ才アリトナス明和三年八月歿ス享年六十四。

(24) 小田村藍田

小田村藍田諱ハ直道字ハ仲行周防秋穂ニ生ル寒郷書ニ乏シ天文數術雜家得ルニ從ツテ皆之ヲ誦ス明倫館都講トナリ又越氏塾ノ師トナリ次デ京都ニ遊ビ歸リテ明倫館祭酒トナリ明和十一年十月享年七十三ニテ歿ス男惠迪字吉平石門ト号ス又文ヲ能クス。

(25) 國重龍原

國重龍原諱ハ俊信字ハ逸平都濃郡鹿野ノ人ナリ幼時痘ヲ病ミテ手足意ノ如クナラズ慨然學ニ志シ小倉鹿門ニ師事ス徵サレテ明倫館助講トナリ暇アレバ文ヲ作り書ヲ著ハシテ樂トナス長府侯之ヲ聘セントス辭シテ就カズ寛政九年九月享年五十一ニテ逝ク。

(26) 佐々木縮往

佐々木縮往字ハ洸真幼名次郎後平太夫ト改ム宗藩醫佐々木道安ノ二子ナリ藩主綱廣別ニ祿シテ儒家トナス經學文章ノ餘暇書ヲ好ミ張方平、井上親明等ノ門生アリ。

(27) 山田時文

山田時文字ハ運平北海ト号ス熊毛郡三丘ノ人安戸氏ノ家人ナリ後萩ニ召サレテ明倫館都講トナル北海集アリ世ニ行ハル。

(28) 繁澤規直

繁澤規直通稱竹右衛門畫家雲谷等爾ノ孫ニテ畫名ヲ等直ト号ス幼ヨリ學ヲ好ミ自ラ請ヒテ儒家トナ

リ明倫館講師ニ任ゼリ。

(29) 繁澤豐城

繁澤豐城名ハ規世通稱權右衛門豐浦郡長府ニ生レ宗藩儒繁澤規直ニ養ハレ擢用セラレテ明倫館祭酒ニ至ル文化三年十一月歿ス。

(30) 仲東門

仲東門名ハ煥文字ハ子斌通稱與一左衛門萩藩士ナリ明倫館都講トナリ後病ヲ以テ家居ス業ヲ請フ者門巷ヲ填ム互ニカヲ變セテ其它ニ就キ講學ノ舍ヲ建テ名ケテ樂群堂トイフ東門又横笛ヲ善クス學館張樂ノ際ニハ入りテ之ヲ督ス文化九年ヲ以テ歿ス。

(31) 中村華嶽

中村華嶽名ハ敬字ハ簡弼通稱九郎兵衛萩藩士ナリ侍講ト爲リ又山縣太華ト明倫館學頭各番勤仕ヲ命ゼラル後祭酒ニ進ム毛利氏ノ軍記編輯ニ功勞アリ天保七年十二月歿ス。

(32) 中村牛莊

中村牛莊名ハ任字ハ文淵通稱伊助阿武郡萩ノ人ナリ山田北海繁澤豐城ニ師事シ學校講官侍講ヨリ祭酒ニ進ム時ニ嘉永五年ナリ明治二年四月享年八十七ヲ以テ逝ク人ト爲リ朴素善謔幼時右手ヲ挫折シ左手ヲ以テ書畫印刻頗其ノ妙ニ入ル。

(33) 中村浩堂

中村浩堂名ハ弼通稱百合藏牛莊ノ子ナリ慶應二年五月山口明倫館學頭トナリ翌三年正月秋明倫館祭酒トナリ以テ文學寮時代ニ及ベリ。

(34) 土屋蕭海

土屋蕭海諱ハ根字ハ松如矢之介ト稱ス阿武郡萩ニ生ル坂井虎山ニ從學ス虎山目シテ天下ノ奇器トナス明倫館助教トナリ侍講ニ進ミ政事堂記録方ヲ兼ヌ吉田松陰僧月性等ト交情尤密ナリ有名ナル奉勅始末ハ主トシテ蕭海ノ起稿トイフ黨議ノ際正義ヲ以テ退ケラレ次テ歿ス安政三年九月三十六才ニテ歿ス正五位ヲ贈ラル。

(35) 口羽德祐

口羽德祐名ハ親之初名希琦蓋宋ノ韓琦ノ人ト爲リヲ慕ヘルナリ後藩主敬親ノ偏名ヲ賜ヒテ今名ニ改ム通稱憂菴又枇杷山人ト号ス江都ニ遊ビ羽倉用九ニ贊ヲ執ルヤ用九人ニ語リテ曰ク少年重厚ニシテ才氣アル者長門ノ口羽生吾其ノ比ヲ見ズト詩文ヲ善クシ識見ニ富ム寺社奉行トナリ清介ヲ以テ稱セラレ安政六年八月享年二十六ニテ逝ク。

(36) 山縣恭平

山縣恭平名ハ亮字ハ士明紫溟ト号ス黒俣ノ子ナリ家學ヲ受ケ明倫館助教ヨリ侍講ニ進ム慶應元年第

二奇兵隊書記トナリ教授ヲ兼ヌ翌二年九月歿ス享年五十三。

(三) 山口

大内氏滅亡後山口ノ衰頹尤モ甚シク學事ノ語ルベキモノナキコト久シ上田鳳陽出ヅルニ及ビ豪農巨室ニ計リ山口中河原ニ學館ヲ興シ聖像ヲ安ズ藩主亦之ヲ嘉シ山口ニ至レバ必學ヲ見又書籍ヲ賜フ万延元年十一月ヨリ三田尻越氏塾ト共ニ明倫館一手捌トナリ助教及舎長等皆明倫館ヨリ之ヲ派遣ス文久年間長山山麓ニ移轉セリ。

元治元年藩主敬親治ヲ山口ニ移ス乃講習堂ヲ改メテ鴻城明倫館ト稱シ和學寮漢學寮ヲ分チテ萩明倫館ト共ニ藩學タラシム明治元年文學寮兵學寮ノ二トナシ文學寮中ニ小學舎、成器塾郷學校ヲ附屬セシメ兵學寮ニ步兵塾、騎兵塾、砲兵器ヲ附屬セシム成器塾ハ家老大夫ノ子弟ヲ學バシムルタメニ設ク當時文學寮ニハ中村弼、岡村熊七、赤川又太郎、坂上忠助等アリ兵學寮ハ大村益次郎ヲ以テ主管トス。終ニ新館精神教育ノ方針ヲ録シテ毛利氏宗藩ノ學事ハ筆ヲ擱カントス元治元年六月二十九日ノ達ニ曰ク

山口學校御祭神御靈社ノ儀ハ是迄御本式ノ通毎年仲春於學校御神祭御奉式被仰付秋祭ノ儀ハ是迄萩表古館三田尻塾並山口元ノ講習堂等ノ祭儀ハ大略ニ從ヒ神式ヲ以テ教官ノ自祭ニ被仰付左之神

靈ヲ以テ御定メ相成一堂へ合祭被仰付候

菅相亟 孔宣父

右之通被相定聖廟之名目ハ向後被差止學校祠堂ト唱被仰付講堂之片端大概是迄ノ場所ニテ相濟候様被仰付候事

コノ突飛ナル改革ハ久シカラズ撤退セラレテ釋菜ノ舊例ニ復セラレタルモ再往時ノ盛況ヲ見ルベクモアラズ。

釋菜ノ儀ハ山口萩三田尻三所ニ於テ執行被仰付來候處以來祭式ハ萩聖廟ニ於テ執行被仰付山口三田尻ノ儀ハ釋菜當日神酒計リ相備へ遙拜被仰付候事(寅八月二十四日達)

事實上宋學ハ當時既ニ防長上下ノ精神ヲ動カスノ力ナク忠君愛國ヲ以テ要訣トシ以テ維新ノ大業ヲ翼賛スルヲ得タルモノトス。

(1) 上田 鳳陽

上田鳳陽諱ハ續明字ハ恭述周防山口ニ生ル郷中學ナキヲ慨キ自ラ資ヲ募リテ講習堂ヲ建ツ嘉永六年十二月疾ヲ以テ卒ス年八十五講習堂後鴻城明倫館トナル。

(2) 服部 東陽

服部東陽名ハ良輔字ハ仲裕吉敷郡吉敷村ニ生ル郷校及藩學明倫館ノ教授ニ歷任ス嘗テ群小ニ嫉マレ

幽囚セラル正義起ルニ及ビ免ル、ヲ得タリ維新後御堀村ニ於テ徒ニ授ク明治八年年四十九ヲ以テ歿ス。

(3) 赤川 晚翠

赤川晚翠諱ハ淵字ハ子泉熊毛郡室積ノ人ナリ明倫館教授ニ任ズ文久元治ノ頃屢死地ニ入リテ國事ニ盡ス晚年私學ヲ山口ニ興シ明治七年十二月歿ス平生酒ヲ嗜ミ詩賦ニ長ジ書畫ニ巧ナリ。

(四) 三田 尻

萩藩ノ治ムル所萩、山口、三田尻ヲシテ三所相對峙セシメ共ニ視テ以テ要地トナス萩ハ藩主歴代ノ治所ニシテ山口ハ大内氏ノ故地ナリ敬親郷ニ至リテ治ヲ此所ニ移ス三田尻ハ乃毛利氏水軍ノ在ル所ナリ維新後萩ニ巴城學舎アリ山口ニ鴻城學舎アリ是ニ於テ防府有志周陽學舎ヲ建ツ亦自然ノ勢ナリ維新前ノ防府ハ越氏塾アリ以テ萩ノ明倫館山口ノ講習堂ト相對ス而シテ越氏塾尤古シ。

越氏塾ハ河野養哲ノ舊宅ヲ以テ疊トナセルナリ河野氏越智性ナルヲ以テ名ケテ越氏トイフ三田尻上町ニアリ安永八年之ヲ同町内開曠ノ地ニ改築擴張シ万延元年更ニ之ヲ御茶屋筋ニ移シ講習堂ト名ケ後ニ講習堂ト改稱ス安永三年マデハ明倫館ヨリ學職交替シテ來リ居リシガ三年秋ヨリ專任儒官ヲ置クコト、ナレリ。



(1) 河野養哲

河野養哲名ハ通文周防勝間ノ人ナリ家世々水軍ノ吏タリ養哲悦バズ自ラ醫トナル醫モ亦樂ム所ニアラズ暫ク托スルノミ任俠廉潔刀圭ノ贏ハ悉ク之ヲ子弟ニ給ス子弟就キテ業ヲ請フモノ日ニ多ク山根華陽、小田村郵山、小倉鹿門ノ如キ皆其ノ門生ナリ享保十二年九月六十七才ニテ歿ス遺命シテ其廬ヲ學舎ニ充テシム越氏塾是ナリ養哲人ノ急ニ走ルコト同室ノ如ク人ノ不善ヲ見テハ諭スニ理義ヲ以テシ繼グニ泣涕ヲ以テス衆父兄ヲ畏レズシテ先生ヲ畏ル郷黨行ヲ破ルモノナキニ至レリトイフ國相其賢ヲ聞キ其ノ欲スル所ヲ問フ養哲曰ク無シト一揖シテ去ル其ノ充簡多クハ此ノ類ナリ。

(2) 飯田樂軒

飯田樂軒名ハ居謙字ハ子逸通稱市之進防府勝間ノ人ナリ越氏塾都講トナリ郡宰上山經匡ト共ニ大ニ塾舎ヲ改築シ學政ヲ張ル天明七年十一月年五十二ヲ以テ卒ス。

(3) 吉田慎庵

吉田慎庵諱ハ文献字ハ士徵通稱嚴助防府勝間ノ人才學アリ兼テ書ヲ善クス飯田樂軒ノ後ヲ承ケテ越氏塾督學タリ寛政六年十月年五十七ヲ以テ逝ク。

(4) 脇山陽

脇山陽諱ハ憲字ハ士鑿通稱正藏防府勝間ノ人ナリ吉田慎庵ニ代リテ越氏塾督學タリ寛政八年七月年

三十七ヲ以テ逝ク。

(5) 吉武江陽

吉武江陽諱ハ康和字ハ士迪通稱百助防府勝間ノ人居恒酒ヲ嗜ム愈醉ヒテ愈謹ム脇山陽ノ後ヲ承ケテ越氏塾督學タリ天保五年十月卒ス年七十二。

(6) 吉賀子祥

吉賀子祥名禎号恪齋防府勝間ノ人ナリ深ク朱子學ヲ窮メ又詩文ニ長ズ弘化三年十一月享年三十三ニテ逝ク。

(7) 今津桐園

今津桐園諱ハ鳳字ハ鳴卿通稱喜三郎後治平ト稱ス防府勝間ノ人ナリ吉武江陽ニ代リテ越氏塾督學トナル學政頗張ル在職四十四年登籍三百五十人トイフ安政三年八月壽六十八ヲ以テ逝ク。

(8) 今津秋庵

今津秋庵諱ハ懿字ハ德甫文右衛門ト稱ス後可也ト更ム經史百家ニ涉リ詩文ヲ善クシ臨池ニ工ナリ越氏塾督學トナリ晩ニ小學訓導トナル明治八年十二月享年四十九ヲ以テ卒ス。

(五) 岩國藩

藩祖廣家ノ朝鮮ヨリ凱旋スルヤ孔子ノ像ヲ齎シ歸ル歴代相承ケテ學ヲ重ンジ士ヲ養フ才學彬々トシテ出ヅ弘化三年吉川經幹養老館ヲ創建シ玉乃小太郎、二宮元輔樋口善藏坂本格等ヲ拔擢ス維新ノ際女學舎ヲ設ク蓋本邦女學ノ創始ナリ藩ノ儒臣京都堀河塾ニ遊ブモノ多シ隨ツテ學派他ニ異リ實踐ノ士ニ富ム東澤潟出ヅルニ及ビ更ニ王學ヲ以テ之ヲ養ヘリ。

(1) 宇都宮由的

宇都宮由的一名三近頑拙或ハ遜菴ト號ス岩國吉川家ノ世臣ナリ弱冠京師ニ遊ビ松永尺五ニ學ブ木下順菴ト二菴分時ト稱セラル日本古今人物史ヲ著シテ幕府ノ忌諱ニ觸レ岩國ニ禁錮セラル次デ赦ニ遇ヒ京都ニ上リテ教授ヲ以テ任トナス平生他ノ嗜好ナシ手ニ卷ヲ輟メズ學才ノ邃宏當時推シテ和漢ノ通儒トス著述頗多ク諸書ヲ標註シテ初學ニ便ス時人稱シテ註標由的トイフ舊藩ノ文學ハ實ニ由的ヲ祖トナス。

(2) 宇都宮圭齋

宇都宮圭齋ハ由的ノ男ナリ名ハ三的字ハ文甫通稱一角享保九年京都ニ歿ス享年四十八。

(3) 山縣溥泉

山縣溥泉名ハ習字ハ子成通稱市三郎岩國ノ人ニテ皆川淇園細井平洲ヲ師トス詩文ニ長ズ文化二年享年五十五ヲ以テ逝ク溥泉詩文集アリ。

(4) 三須 竦 水

三須竦水名ハ成允字ハ子功通稱孫兵衛吉川家士ナリ日夜切劘常師ナクシテ遂ニ其ノ器ヲ成セリ官ニ居リテ人其ノ清廉ヲ稱ス罷官後專ラ教育ヲ樂ム文化四年九月享年五十七ニテ逝ク。

(5) 樋口 東 里

樋口東里名ハ公瑛字ハ俊卿通稱欽藏又竹廬ト號ス吉川家ノ臣ナリ詩ヲ能クス朝鮮修信使其才ヲ稱ストイフ朝枝毅齋伊藤蘭嶋ニ學ブ文化五年歿ス年八十七。

(6) 樋口 義 所

樋口義所ハ東里ノ子ナリ名ハ豐字ハ太一別號ヲ楓窓トイフ京都伊藤修成ヲ師トス入室ノ譽ヲ得歸リテ侍講トナル質實寡言ナリ經義ヲ講ズル言簡ニシテ旨明カナリ文政二年七月享年五十九ヲ以テ歿ス著ス所詩文集其他若干アリ。

(7) 樋口 成 純

樋口成純字ハ子敏遜菴ト號ス岩國藩ノ世儒ナリ養老館教授トナリ又侍講トナリテ深ク信賴ヲ受ケ安政三年三月享年五十六ヲ以テ歿セリ京都伊藤壽賀藏ノ門下ナリ。

(8) 朝枝毅齋  
朝枝毅齋名ハ世美字ハ德濟通稱源次郎吉川家ノ世臣ナリ伊藤東涯ヲ師トス子弟推シテ學ヲ學ブ主家ノ眷遇亦厚カリキトイフ延享二年十一月歿ス享年四十九。

(9) 玉乃九華

玉乃九華諱ハ惇成字裕甫小太郎ト稱シ又松雪洞ト號ス岩國ノ人ナリ醫員ヲ以テ學職ヲ兼ヌ弘化五年岩國藩ノ養老館ヲ建ツル九華督學トナリテ万事ヲ統ブ性明達遠慮アリ屢命セラレテ政府ニ入り事ヲ議ス嘉永四年十二月五十五才ニテ逝ク世履ハ其嗣子ナリ。

(10) 香川午谷

香川午谷名ハ牧字ハ伯羊通稱新左衛門吉川家士ニテ詩文ヲ善クス博覽強記ナリ率直時ト逢ハズ詩酒跌宕ニ生ヲ過ゴセリ嘉永六年歿ス享年四十六。

(11) 桂周水

桂周水名ハ綏字ハ猷輔通稱治右衛門吉川家士ナリ京都伊藤氏ニ學ブ天保三年死ス所情實集ハ其著ナリ。

(12) 坂本渭川

坂本渭川名ハ鸞、字ハ君鈴通稱龍伯後格ト稱シ更ニ老圃ト號ス岩國藩ノ世醫ニシテ儒ヲ兼ネ養老館

教授タリ資性友愛忠實ナリ兄玉乃文靖少クシテ貧ナリ渭川供給至ラザル所ナシ藩主亦深ク之ヲ愛シ其言フ所ヲ重ンジタリトイフ。

(13) 二宮錦水

二宮錦水諱ハ子容岩國藩士ナリ龜井昭陽松崎懌堂等ニ從學ス歸藩後養老館督學ニ任セラレ尋テ從政ニ任ジ學政ノ間ニ出入スルモノ數十年明治七年六月歿ス年七十。

(六) 德山藩

德山藩學興讓館ハ初メ鳴鳳館ト稱ス天明五年藩主毛利就馴ノ建ツル所ニシテ當時德山村字勢屯ニアリシガ天保元年十月之ヲ櫻馬場ニ移シ規模ヲ擴張ス嘉永五年興讓館ト改稱ス世人傳ヘテ曰德山文學三績ヲ得テ興ルト三績トハ青木葵園、本城紫巖、黒川東泉ヲイフ葵園久シク學館ヲ興スノ志アリ果サズシテ歿ス紫巖其志ヲ承ケ遂ニ之ヲ成シテ役藍泉ト共ニ擢テラレテ督學トナル東泉多ク書ヲ藏ス歿後悉ク官ニ納メテ永ク講學ノ便ヲ遺セリ。

(1) 國富鳳山

國富鳳山名ハ彦敬字ハ子禮幼名熊之助後惣左衛門ト改ム德山藩士ナリ服部南郭ニ從ヒ發憤苦學ス藩主廣豐命ジテ師導トス尤モ韻學ニ精シク兼テ武術ヲ好ミ禮式ヲ善クス僕婢其ノ喜愠ヲ觀ズ父ノ喪ニ

居ル哀毀憔悴シテ門ヲ出デズ蓋篤行ノ長者ナリ延享十二年九月歿ス享年五十六。

(2) 國富嶺南

國富嶺南諱彦章又子善ト號ス鳳山ノ子ナリ温克ニシテ才學アルヲ以テ重用セラレ公職ニ在ルコト二十餘年君側ニ侍シテ屢書ヲ講ズ寛政十一年五月病歿ス年五十二。

(3) 青木葵園

青木葵園名ハ節字ハ和卿通稱源藏國富鳳山ニ學ビテ出藍ノ稱アリ安永七年七月江戸ニ客死ス享年三十一。

(4) 青木西峯

青木西峯諱ハ泰字ハ子服通稱忠藏德山ノ人ナリ安積良齋ノ門ニ出ヅ献功隊參謀興讓館助教其他ノ要職ニ任ジ維新後德地學校、岐陽學舎、中學校教官ニ任ジ又恒ニ家塾ヲ設ケテ教授一日モ怠ラズ詩文ヲ善クシ又臨池ヲ嗜ム明治二十四年一月歿ス享年六十四。

(5) 黒川東泉

黒川東泉諱通種德山藩士ナリ恒ニ曰ク士ノ首ヲ俯シテ書ヲ讀ムヤ時務ニ洞達シテ澄清ノ用ニ供スルニアリ章句ヲ捉ヘテ上下スルハ窮措大ノ爲ノミトサレドモ心ヲ潜メテ能ク學ヲ修メ曲枝小道皆之ヲ悉クス又圖書弓劍ヲ愛シ資ヲ傾ケテ之ヲ購フ惜哉早世ス時ニ寛政六年十二月ナリ年二十七。

(6) 本城紫巖

本城紫巖名ハ桓字ハ子猛通稱寛治德山ノ士ナリ幼時右眼ヲ失フ母ハ國富鳳山ノ姉ナルヲ以テ鳳山ニ從學シ次テ山根華陽瀧鶴臺ヲ師トス藩主桓ノ諸役ヲ除キ學ヲ專ニセシメ宅地ヲ賜フ乃一室ヲ新築シテ醉霞ト號シ子弟ヲ教授ス才學輩出シ盛ヲ宗藩ニ競フ鳴鳳館新築ノ際祭酒トナル享和二年十月享年六十七ニテ歿ス。

(7) 本城太華

本城太華名ハ訥字ハ伯毅通稱太仲德山ノ人ナリ肥後ノ高本塾筑前ノ龜井塾ニ遊學シテ共ニ塾長トナル歸リテ學館句讀師ヨリ訓導助教ヲ經テ世子侍講ト爲ル天保十五年十月享年七十七ニテ歿ス。

(8) 役觀

役觀ハ都濃郡德山ノ修驗宗敎學院ノ住職ニテ名ハ淨觀ナリ宗祖ノ役字ヲ冠シテ役觀ト稱ス字ハ道甫通稱右京藍泉又興山ト號ス儒學ニ通ジ詩ニ長ズ本城紫巖ト共ニ鳴鳳館祭酒ニ任ズ文化六年九月享年五十七ニテ歿ス。

(9) 長沼采石

長沼采石諱ハ簡字ハ大妻又蒙山ト號シ晩年不知老齋ト稱ス紫巖藍泉ノ後ヲ承ケテ學館教授トナリ天

保二年學館廓大ノ際專ラ其事ヲ督ス又屢相府ノ議ニ參ス天保三年七月病歿ス年六十。

(10) 淺海巢雲

淺海巢雲諱ハ正敏字ハ子慎又兵衛ト稱ス精力人ニ絶シ經學詞藻劔法砲術音律等皆通ゼザルナシ尤モ筆道ニ達シ就中草書ヲ得意トス仕途三十餘年學館句讀師ヲ以テ劔法教授ヲ兼ネ又侍講ノ任ニアリ安政五年二月歿ス年七十四著ハス所遺稿及書法纂論アリ。

(11) 淺見拙逸

淺海拙逸諱修通稱修次字ハ子聿德山藩士ナリ人ト爲リ古樸邊幅ヲ修メズ學ヲ好ミ又劔ヲ善クス藩校訓導トナリ世子侍講ヲ兼ヌ廢藩後德山中學教授ニ任ジ後家塾ニ教授ス遠近來リ學ブ者數百人明治十七年一月歿ス年六十二。

(12) 牧香松

牧香松諱ハ將徽字ハ子猷半村ト號ス德山藩士ナリ廣瀬淡窓ニ學ビテ詩ヲ善クシ又和歌ヲ好ミ才思人ニ絶ス興讓館訓導トナリ吏職ヲ兼ヌ元治二年二月享年五十三ニテ歿ス。

(七) 豐浦藩

初代秀元大照國師ヲ京都ヨリ迎ヘテ師トナシ學ヲ講ゼシム菅玄正、伊佐宗安、藤田貞庵、香川木訥

亦皆儒ヲ以テ仕フ三代綱元僧悅山ヲ宇治ヨリ迎ヘテ師トナス河野玄達内藤好庵等此際ノ儒臣タリ玄達後チ氏ヲ國島ト改ム十代匡芳始メテ敬業館ヲ侍町ニ建ツ時ニ天明四年ナリ十一代元義聖廟ヲ創造ス時ニ天保二年ナリ吉村重介ヲ安藝ヨリ迎ヘテ學則ヲ改ム。

(1) 小田亨叔

小田亨叔諱ハ泰濟川ト號ス厚狹郡宇部村ノ人長府侯ノ侍醫ニテ長富獨嘯ノ弟ナリ兄ニ從ヒテ京阪ニアルコト多年次テ長崎ニ遊ビ歸リテ侍醫トナル後敬業館創建ニ際シテ都講トナリ仍醫官ヲ兼ヌ時ニ寛政四年ナリ翌年更ニ教授ニ進ム享和元年一月享年五十二テ歿ス年五十五平日最モ中庸ヲ崇信ス慎思篤行一ニ此ニ本ツクトイフ。

(2) 小田南咳

小田南咳諱ハ圭字ハ延錫順藏ト稱ス長府侍醫松岡道遠ノ次子ニテ小田濟川ノ嗣子トナリ學館訓導ヨリ侍講ニ進ム天保二年長府藩朋メテ聖廟ヲ建ツ順藏主トシテ其事ヲ司ル六年十月病ヲ以テ歿ス年四十藩主悼惜シテ學頭ヲ進贈ス南咳ノ兄弟ニ松岡充國松岡亨作アリ二人亦學ヲ好ム長府文學ノ員中ニ計ヘラル。

(3) 小田享太郎

小田享太郎名ハ璋字ハ孟章南咳ノ子ナリ初メ吉村重介ニ從ヒ後佐藤一齋ニ學ブ敬業館ニ訓導トナル

コト六年齡三十六ニテ歿ス。

(4) 藤元幹

藤元幹字ハ昌隆文政年間長府ノ人ナリ。

(5) 中川好古

中川好古字ハ子信通稱清左衛門鯉淵ト號ス長府藩士ニテ學ヲ好ミ小田濟川ヲ師トス詩畫ヲ善クシ吏才アリ著ニ招魂帖アリ。

(6) 白杵太仲

白杵太仲名ハ辰字ハ子商鹿垣ト號ス都濃郡下松ノ人十七才筑前ニ西遊シ龜井南溟ニ學ブ後長府ニ筮仕シテ督學小田濟川ノ後ヲ繼ギ學規頗成リ弟子駁々タリ文化十年六月病ンデ歿ス享年四十二鹿垣母ニ至孝ナリ其ノ九州ニ在ル毎歲歸省ス後母ヲ長府ニ迎ヘ孝養備ニ至ル二弟ヲ視ル子ノ如ク友愛最モ篤カリキトイフ。

(7) 白杵駿平

白杵駿平名ハ鎮張橫坡ト號ス鹿垣ノ男ナリ藩ノ敬業館訓導トナリ次デ教授ニ進ム元治元年七月享年五十九ニテ逝ク。

(8) 國島筈齋

國島筈齋名ハ宏通稱傳右衛門豐浦郡瀧部ノ人山澤氏ナリ國島氏ヲ繼ギテ文學員ニ列ス。

(9) 國島俊藏

國島俊藏名ハ熙豐後廣瀨求馬ノ門人ニテ宏ノ養子トナリ訓導ニ任ズ。

(10) 結城主計

結城主計諱弼通稱常右衛門確所ト號ス松山ノ人ナリ文化七年儒學ヲ以テ豐浦藩ニ仕フ皆川淇園ノ門人ナリ。

(11) 結城恂介

結城恂介名ハ壁字ハ照卿香崖ト號ス篠崎小竹古賀侗庵等ニ從學シ敬業館訓導トナリ侍講ニ轉ジ次デ教授ニ進ム明治十二年十月年六十二ニテ歿ス香崖遺稿アリ。

(八) 清末藩

清末藩學育英館ハ天明七年藩主匡豐ノ建ツル所ニシテ吉敷ノ儒片山鳳嗣ヲ聘シ學規ヲ定メ教授ヲ司ラシム國島京山及ビ本藩ノ儒佐々木龍原等相次デ力ヲ致セリ。

(1) 片山鳳嗣

片山鳳嗣諱ハ則字ハ順甫吉敷郡吉敷村ノ人ナリ小野玄川、田中蘆城等ニ學ビ後京都ニ遊ビ遍ク宿儒

ヲ訪フ詩文共ニ長ジ擊劍醫方亦妙處ニ到ル郷里ニ垂帷シ大ニ學ヲ興ス當時諸大夫ノ邑吉敷ノ學事ヲ稱首トスルモノ實ニ其力ナリ嘗テ本藩ニ擢用セラレシモ耿介ヲ以テ退ク文化五年壽六十九ヲ以テ卒ス清末藩學育英館規ハ主トシテ鳳翻ノ定ムル所ナリ。

(2) 有吉高陽

有吉高陽名ハ公甫字蒸民一字晉祿山口ノ人幼ニシテ能ク繼母ニ事ヘ成童學ヲ好ミ後瀧鶴臺ニ學ブ鶴臺深ク之ヲ器トス南園器用、寺社奉行等ニ任ジ周府菟裘ノ工事ニ功アリ後清末侯ニ膝仕ス朝夕召見セラル對フル所皆聖經國故ニ據ル天明五年九月年四十七ヲ以テ卒ス。

(3) 國島京山

國島京山名ハ鶴字ハ巨海清末藩ノ儒臣ナリ瓦硯魚筆ヲ以テ叙スル所斐然タリ頗著ニ富ム寛政七年一月歿ス。

(4) 吳孟明

吳孟明氏ハ紅林ナリ紅吳國訓ノ同ジキヲ以テ遂ニ吳ヲ稱ス字ハ士信通稱十左衛門梅處ト號ス豐浦郡大野ニ生レ清末藩ニ仕ヘ學館會頭トナル文化十四年八月歿ス梅處詩草アリ。

(九) 海北領

海北文學ハ毛利氏文學ノ發祥地トモ稱スベク關西文運ノ牛耳ヲ執リシ明倫館祭酒山縣周南ハ實ニ海北領小野村ヨリ出デシナリ郷學時觀園ノ創立ノ如キ遠ク寛永五年ニアリテ德川氏ノ儒宗林道春ノ昌平營創建ヨリ早キコト四年明倫館創設ニ先ツコト既ニ九十三年ナリ元和假武後日猶淺クシテ既ニコノコトアリ誠ニ天下ニ誇ルニ足ルトイフベシ。

毛利氏ノ萩ニ治ヲ移スヤ海北大夫ヲ熊毛郡三丘ニ封ズ寛永二年八月之ヲ佐波郡右田村ニ移封セリ然ラバ則時觀園ノ創建ハ移封後僅ニ三年ヲ經シノミ大夫元俱公ガ新采地ヲ治ムルニ禮樂ヲ以テセント志セシモノ亦美ナラズヤ。

時觀園創建當時ノ儒臣今詳カナラズ延寶中山縣長伯ヲ儒學教師トシ正德享保ノ間瀧鶴臺教師ニ任ズ賢妻ノ譽世ニ高キ鶴臺ノ妻ハ右田世良氏ノ出ナリ鶴臺ノ後若月太仲、宮原敬齋、杉山良哉、松岡太仲、杉山威八、太田梁平相承ク其間ニ譽名ヲ學文堂ト改メ後又文教館ト改稱セリ。

梁平ノ際學文堂ヲ櫻馬場ニ新築シ又東側ニ日新舎ヲ創設シテ足輕以下ノ演武場トス時ニ嘉永三年ナリ廢藩後領主親信佛國ヨリ歸リ移風義塾ヲ建ツ老儒相承ケテ文脈ヲ把持ス土肥螺峰歿スルニ及ビテ廢ス。

(1) 若月太仲

若月太仲字ハ伯禮大野ト號ス海北大夫ノ世臣ナリ瀧鶴臺ニ從學シ精力倦マズ百家ヲ涉覽ス郷校督學

トナリ寛政二年七月年七十ヲ以テ歿ス資性剛直上ニ諂ハズ下ニ驕ラズ清貧自ラ安ンズ邑主常ニ引キテ輔佐トストイフ詩ヲ能クス詩集家ニ藏ス。

(2) 杉山良哉

杉山良哉字ハ混公佐波郡三田尻ノ人端慈質重戲笑苟クモセズ北筑龜井南冥ニ師事シ歸リテ海北大夫ニ聘セラル文化十年七月享年四十四ニテ病歿ス子威八郎復文學ヲ以テ邑ノ教授トナレリ。

(3) 大田稻香

大田稻香諱ハ穀字有年通稱榮平トイフ防府ニ生ル豊後ニ遊ビテ廣瀬旭窓ニ學ビ後又京攝及江戸ニ遊ブ海北領主毛利元統ノ召ニ應ジテ大ニ郷學ヲ興セリ遺稿世ニ行ハル紅葉山房詩抄ト稱ス慶應二年八月六日年五十七ニテ逝ク青木周藏、長松幹、土肥實香、今川新、今川深造、赤川淡水、佐久間利濟、多賀谷勇、大樂源太郎、杉山甚之助、長松鏡藏等ノ名士皆其門下ヨリ出ヅ。

(4) 今川岳南

今川岳南諱ハ吉利字ハ天祐通稱吉太郎後新ト改ム佐波郡右田毛利氏ノ世臣ナリ大田稻香ノ高足ニテ郷校學文堂教授トナリ明治維新後周陽學舎ヲ監ス明治二十九年十月病ヲ以テ起タズ享年六十九終生育英ニ從事スルコト四十餘年官屢之ヲ賞ストイフ。

(5) 吉田恕庵

吉田恕庵名ハ嘉疏字ハ秋香嘉太郎ト稱ス佐波郡右田毛利氏ノ世臣ナリ郷校學文堂助教トナリ躰テ顯要ニ任ジ邑宰中ノ首班トナル維新ノ際邑主藤内干城隊總督トナリ奥羽ノ役ニ加ハル君室老ヲ以テ從軍功アリ維新後數年官ニ在リ後退キテ文學ヲ樂ミ著述少カラズ明治三十四年二月年八十二ニテ卒ス。

(6) 土肥實香

土肥實香諱ハ稷字ハ維馨螺峰ト號ス大田稻香ノ門人ニテ佐波郡右田大夫ニ仕フ旁槍技柔道及銃法ニ通ズ維新後群馬縣立中學校ニ奉職シ後山口中學校教諭トナリ校暇ヲ以テ錦川學舎ヲ開ク晚年歸郷シテ周陽學舎ニ教官タリ明治三十二年十一月享年六十五ニテ逝ク螺峰遺稿アリ。

(一〇) 須佐領

須佐領郷學育英館ハ須佐村横屋町ニアリ創立年次詳カナラザルモ享保年間領主益田元道品川希明ヲ舉用シ益田親施ニ至リ學舎ヲ増築シ小國武彝ヲ學頭トシ久留米ノ人武藤某三田尻ノ人武田某ヲ聘シテ擊劍遊泳ヲ課スル等學事ノ擴張ニ頗勉メ隣邑ヨリ來リ學ブモノ頗多カリキ。

(1) 小國玉淵

小國玉淵名ハ融字ハ維明長門須佐ノ人ナリ東遊シテ皆川淇園ニ從フ淇園客禮ヲ以テ遇ス須佐邑監ト



ナル骨髄ヲ以テ黜ケラル黨議起ルニ會シ瀧坂ニ謫セラル後赦サレテ歸リ邑ノ子弟ヲ教育ス文政十三年九月卒ス年六十二遺著船石集アリ。

(2) 小國武彝

小國武彝初名剛藏後融藏ト改ム嵩陽豊所等ノ號アリ阿武郡須佐ノ人玉淵ノ長子ナリ安井息軒ニ學ビ學大ニ進ム邑主益田親施ニ知ラレ育英館學頭トナリ建議スル所多シ元治以後國事多難邑主コレニ殉ス武彝幽鬱遂ニ病ヲ作シ慶應二年五月四十二才ニテ歿ス。

(3) 品川希明

品川希明字ハ友哲勿所ト號ス別號鶴洲阿武郡須佐ノ人年甫十一邑主益田就賢其ノ英器ヲ知リ特ニ令シテ師ニ就カシム長ジテ京都ニ遊ビ伊藤源藏ニ師事シ古學派ヲ倡道ス詩文ヲ能クシ著者家ニ滿ツトイフ。

(4) 山科太室

山科太室諱真通世須佐大夫ノ醫官タリ又詩ヲ善クス是ヨリ先秦嵩山アリ佐江文學ニ貢獻ス太室其任ヲ襲ヒ門下ノ秀才ニ小國融等アリ醫亦行ハル天明九年壽五十一ヲ以テ逝ク。

(5) 波田兼虎

波田兼虎字士熊嵩山ト號ス阿武郡須佐ノ人ナリ山根華陽ニ從學ス華陽尤之ヲ推重ス人ト爲リ質直言

辭雄厲ナリ而其親ニ事フルヤ怡顔柔色其欲スル所ヲ推ス其學博綜尤モ國史及輿略ニ通ズ邑宰トナリテ治蹟多シ。

(6) 坂上忠助

坂上忠助ハ萩ノ人中村牛莊ニ學ビ後江戸ニ出デ、安積良齋羽倉簡堂ニ從フ明倫館文學掛有備館文學教授山口明倫館教授等ニ任ゼラレ又命ヲ奉ジテ須佐育英館教授トナリ以テ維新後ニ至ル博聞強記特ニ經義ニ精通セリトイフ。

(一一) 諸 邑

本支藩ノ學ヲ興ス一門六家ヲ始メ家老ノ領邑皆學アリ獨海北、須佐ノミニアラザルナリ乃熊毛郡上關ニ成器塾アリ在住宗藩士ノ建ツル所ナリ安田村ニ德修館アリ一門宍戸就年氏ノ建ツル所ナリ大野南村ニ弘道館アリ一門毛利親賴ノ建ツル所ナリ三輪村字美原ニ縮往舎アリ領主井原圖書ノ建ツル所ナリ伊保庄村字阿月ニ克己塾アリ領主浦鞆負氏ノ設クル所ナリ立野村字鳴谷ニ慕義塾アリ領主清水美作ノ建ツル所ナリ大河内ニ故學塾アリ領主粟屋若狹ノ設クル所ナリ佐波郡牟禮村ニ進徳舎アリ海北毛利氏ノ建ツル所ナリ吉敷郡吉敷村ニ憲章館アリ一門毛利元一ノ建ツル所ナリ御堀村間田ニ學習齋アリ領主益田伊豆ノ建ツル所ナリ厚狹郡万倉村字殿町ニ朝陽館アリ一門毛利元美ノ建ツル所ナリ

中字部村ニ維新館アリ領主福原越後ノ建ツル所ニテ初メ晩成堂ト稱シ後菁莪堂トイヒ次テ今名ニ改ム豊浦郡阿川村ニ時習館アリ一門毛利親美ノ設立スル所ナリ美禰郡大田村字正覺ニ温古堂アリ在住宗藩士ノ建ツル所ナリ伊佐村字德定ニ友善塾アリ代官玉木文之進等ノ建ツル所ナリ大津郡正明市ニ深川學校アリ河原村ニ河原學校アリ共ニ明倫館小學舎ノ友舎トシテ館費ヲ割キ之ヲ建ツ阿武郡德佐村ニ修齋塾アリ椿吉十太等ノ設クル所ナリ萩濱崎町ニ朋來舎アリ湯島秀藏等ノ建ツル所ニテ代官杉民治之ヲ贊助シ舎名ハ澤從三位卿ノ名クル處ナリ私塾中尤モ著レタルヲ吉田松陰ノ松下村塾トス塾舎今猶松本村松陰神社ニ隣接シテ存在シ舊時ノ面影ヲ傳フ。

(1) 荒瀨 桑陽

荒瀨桑陽諱ハ勒通稱武五郎防州三田尻ノ人移リテ牟禮村ニ垂帷シ明治十七年五月享年七十九ヲ以テ歿ス猪飼敬所ノ高弟ナリ。

(2) 市川 玄伯

市川玄伯名ハ守信字ハ仲章後名ヲ米字ヲ章甫ト改ム非々ト號シ其居ヲ思無邪堂又臥龍窟ト稱ス厚狹郡船木ノ人ナリ山縣太華ニ師事シ又江都ニ遊ンテ儒學ニ耽リ旁醫ヲ學ブ神疲ルレバ坐睡シ曾テ藤ニ横臥セズ和蘭ノ醫法及種痘法ノ鴻益ヲ言ヒテ終生醫ヲ廢セズ其ノ學ハ程朱ニ入り躬行ヲ主トス邑學ニ督學トナリ嘉永五年二月享年五十七ニテ逝ク。

(3) 蒲生 貞固

蒲生貞固字ハ子整鳳林ト號ス豊浦郡阿川ノ人ナリ邑宰トナリ晚年邑學ニ教授ス文化十一年一月歿ス享年七十三。

(4) 福永 淑人

福永淑人ハ都濃郡湯野村ノ人ニテ紅雲ト號ス弱冠武ヲ練ル後專ラ儒學ニ志シ廣瀨旭窓帆足万里ニ師事シ又京阪ニ老儒ヲ訪ヒテ固陋ヲ避ク明治十五年ヨリ山口大附町ニ西部費ヲ開キ經義ヲ講ズルコト十餘年多ク識見ノ徒ヲ出セリ。

第八、漢 詩

儒家皆詩アリ宇都宮遜菴、山田復軒等ノ如キ早クヨリ詩名世ニ高シ復軒十一歳京都ニアリ後水尾上皇其ノ秀才ヲ聞キ召シテ詩ヲ賦セシム復軒直ニ詔ニ應ジテ曰ク  
尤愛神仙宮殿中、新秋爽氣起涼風、誰知微賤少年客、飽看金葉玉露濃、  
上皇寂感アリ郷貫ヲ錄シテ上ラシム。

(一) 宗 藩

周南門下瀨山尤モ詩ニ鳴ル近世志士大抵詩ヲ善クス久阪通武、入江弘毅、高杉晋作、伊藤博文等皆遺稿アリ僧清狂ノ男子立志出郷貫ノ詩ノ如キハ天下之ヲ唱セザルモノナシ内藤益昌頼山陽ト交ル亦遺稿アリ官暇漫吟ト稱ス吏ヲ以テ詩ヲ善クセシモノナリ。

(1) 田坂瀨山

田坂瀨山諱ハ長温字ハ子恭周南門下十才子ノ一人ニテ最モ詩ニ長ズ寶曆八年四月享年三十九ニテ病歿ス瀨山集アリ。

(2) 八木砂村

八木砂村名ハ粹字ハ倫道通稱甚兵衛萩藩士ニテ阿武郡椿村青海ニ居リ以テ號トナス後江戸ニ祇役シ久シク砂村邸ニ居ルヨリテ號ヲ砂村ト改ム晩年幽居シテ臥雲山人ト稱ス天保十四年七月歿ス。

(3) 日野春靄

日野春靄名ハ韶、字ハ九成萩藩醫ナリ當時萩ニ作家多クシテ貞菴ヲ渠首トス万延元年十一月死ス享年五十三。

(4) 其 他

氏名	別	稱	出生	歿年
湯淺柄霞			萩	安政二年
小泉杏陰	通稱玄常		上關	安政三年
楊井蘭洲	名盛之、字子筐		萩	
赤川埴山	通稱忠右衛門		全	
口羽清齋	名元寔通稱善九郎		全	安政五年
楊井三希	名盛良、字士温別號靜齋又青坡通稱孫太郎		全	万延元年
山田豐澤	名龍之通稱市郎右衛門		全	嘉永二年

(二) 支 藩

支藩ノ詩ハ岩國ヲ尤モ盛ナリトス宇都宮遜菴、朝枝毅齋、山縣溥泉、井上鳳臺、別所錦水、玉乃九

氏名	別	稱	出生	歿年
飯田道叔	名貞政		岩國	元文二年
末永晴久	通稱山大夫		全	寶曆十三年
山田知足	名順信、字士慎	通稱次郎左衛門	全	明和三年
森脇椒丘	名良材、字美叔	通稱多三郎	全	全
朝枝鶴阜	名祐福、字子求	通稱恕介	全	明和八年
熊谷元且	名正重		全	元祿五年
宮庄閑鷗	名直凭、字武公	通稱圖書	全	寶曆六年
坂本玉泉	名良純、字文卿	通稱玄隆	全	天明二年
森脇蘭洲	名反直、字益甫	通稱久兵衛	全	天明八年
森脇久有	通稱長左衛門		全	寛政四年

華、末永周洋、坂本老圃、香川午谷、山田青門、今田立所、樋口義所、香川琴山、渡邊南山、玉乃五龍、鹽谷老國、下海門、ヲ巖城十八家ト稱ス。  
支藩士中詩名ニ專ラナルモノ左記表中ニ詳カナリ。

中村景賢	通稱雄右衛門	全	享和三年	
山田桐蔭	名直規、通稱七左衛門	全	文化五年	
井上省窩	名有儀、字子儀	通稱儀次郎	全	文化七年
井尻萬谷	字久、字公太	通稱久次郎	全	文化八年
篠道濟	名惟長、字道濟		全	文化十一年
熊谷錦陽	名直心、字子德	通稱頤齋	全	文化十三年
渡邊南山	名祐、字君吉	通稱郡太夫	全	全
香川屏山	名景崇、字子廣	通稱治兵衛	全	文化十五年
樋口蘭晚	名世禎、字祥卿	通稱祥左衛門	全	文政元年
稻葉柏臺	名延年	通稱八郎左衛門	全	文政二年
東復亭	名員、通稱貞介		全	文政四年
內藤公宏	名以容	通稱佐左衛門	全	全
中村一成	通稱左右		全	全
今田仲純	通稱市右衛門		全	文政五年

氏名	別稱	出生	歿年
飯田周水	名孝英字君實、通稱松軒	岩國	文政五年
二宮西山	名彰信、字一民別號鶴阜通稱神右衛門	全	文政九年
井上鳳臺	名光達、字才角通稱才介、	全	文政十年
森脇文淵	名周德、字達夫通稱玄令、	全	全
有福玉堂	名敬明、字子德通稱進十郎	全	全
山縣臨川	名行載、字子舟、通稱仲兵衛	全	文政十一年
熊谷大林	名庚、字太白、	全	天保元年
東龍洲	名恕、字伯仁通稱三郎右衛門	全	天保五年
佐伯北溪	名方孚、通稱源左衛門	全	天保六年
二宮牧山	名信敬字子穎通稱求馬	全	全
內坂夔淵	名良胤、字世美通稱十太夫	全	天保八年
波多野錦右	名公由、字子予通稱由藏	全	天保十三年
山縣錦右	名君式、字子承通稱久太郎	全	全

松井操存	名冲、字茂德通稱太仲	全	嘉永三年
原吉甫	名祐之、通稱次郎左衛門	全	嘉永五年
岸桂窠	名弘濟字天民一號梁舟通稱雲臺	全	嘉永六年
桂定祥	通稱六左衛門	全	嘉永七年
藤田葛潭	名雅言通稱半左衛門	全	全
佐武奚疑	名從、通稱晋	全	安政二年
今田芝畹	名信好、字仲古、通稱仲左衛門	全	安政三年
朝枝仁山	名祐善字德隣通稱宗太夫	全	安政六年
熊谷秋雨	名常字子善通稱白兔	全	文久三年
森脇琴水	名寬通稱市郎右衛門	全	慶應元年
今田立所	名靖之通稱靱負	全	慶應二年
井上復軒	名維祺、字子福通稱喜兵衛	全	全
二宮超海	名茂、字子德別號梅花通稱小太郎	全	明治元年
松岡豹	通稱瑛英	德山	嘉永七年

氏名	別	稱	出生	歿年
岡部篤計	通稱權右衛門(後祝門ト改ム)		徳山	元治元年
飯田篤宗	通稱與一右衛門		全	元治元年

第九、國學

徳川時代ノ國學ハ尊王論ノ導火タリシコト世ノ認ムル所ナルモ長藩勤王ノ思想ハ國學ヲ以テ始メテ起リタルモノニアラザルハ明カナリ長藩國學ノ振起ハ頗ル後レテ近藤芳樹ガ門戸ヲ張リシヨリ以後ナリトイフサレドモ神官中早クヨリ國學ニ通ジタルモノアリ芳樹ノ師鈴木直通ノ如キ是ナリ。

(1) 鈴木直通

鈴木直通和泉ト稱ス防府宮市ノ人國典ヲ研究シ語學ニ精シ嘗テ門弟子ニ示セル歌ニ

ますかかみときてみかきて古の

なほき心を全くうつせよ

近藤芳樹、尾古重伴、佐伯頼彦、岡本櫻園、今津國華等皆其門生ナリ嘉永四年一月歿ス享年六十四万葉集類語八代集類語ノ著アリ。

(2) 鈴木高頼

鈴木高頼武雄ト稱ス直通ノ子ナリ皇典ニ通ジ和歌ヲ能クス類題玉石集、佐波迺藻屑等ノ著アリ万延元年四月齡四十九ニテ歿ス。

夏 鳥(秋元安民の著嘉永三十六歌仙中に採録せるものなり)

ことし生ひのよもさたまらぬ若竹に

はやふしなれてなく雀かな

子静雄亦和歌ニ巧ミニシテ勤王ノ志深ク維時ノ際國事ニ奔走セリ。

(3) 齋藤彦右衛門

齋藤彦右衛門ハ萩藩士ニテ大津郡三隅村ニ居ル國典ヲ修メ古實ニ通ズ最モ力ヲ令職原鈔ニ盡セリ旁書及ビ畫ヲ善クシ其ノ著書ノ刻版ハ書畫共ニ總テ自筆ニ成ルトイフ。

(4) 岩政信比古

岩政信比古通稱要吉玖珂郡新庄村ノ豪農ナリ國學ヲ以テ聞エ又和歌ヲ善クス安政三年十二月享年六十七ニテ逝ク。

(5) 岸御園

岸御園通稱彌平治萩ノ人ナリ楊井松雄ニ從學ス寡黙ニシテ學力アルヲ知ル者少シ天保年中難陳六百

番歌合ノ作者ノ一人ナリ吉田松陰曰ク御園皇道ヲ尊ビ外夷ヲ憂フ我輩ノ先輩タリ其ノ讀書ニ耽ルヤ最抄寫ヲ勤ム吾人ノ及ブ所ニ非ズト。

(6) 靜間三積

靜間三積通稱衡介萩ノ人ナリ楊井松雄ニ學ビ後本居太平ノ門ニ入ル冷泉古風勝間田盛稔等三積ヲ推スニ先進ヲ以テス萬延元年歿ス年八十餘歲。

(7) 潮見檀園

潮見檀園諱ハ清輅勝平稱トス熊毛郡室積村早良八幡宮ノ祠官ナリ少ヨリ學ヲ好ミ岩政信比古ニ就キ國典ヲ修メ國風ヲ善クス時ニ藩主忠正公勤王ヲ首唱ス乃命ヲ受ケテ二州ノ間ヲ奔走シ國典ヲ講ジ大義ヲ論ズ次デ第二奇兵隊文學師トナリ諸隊ノ間ニ講説ス維新後敎部省九等出仕トナリ次デ神宮禰宜トナリ明治十二年三月四十八歲ニテ逝ク。

(8) 近藤芳樹

近藤芳樹初名田中晋一郎周防臺道村ノ人寄居ト號ス靜間三積鈴木直通ニ學ビ次デ本居太平ヲ師トス毛利敬親召シテ明倫館敎授トナス國學ノ二州ニ興起スル芳樹ノ力多シトナス和歌國文ヲ善クス尤モ律令有職ニ精シ著ス所頗多シ維新後宮内省ニ仕ヘ明治十三年齡八十二ニテ歿ス。

(6) 弘正方

弘正方通稱平五郎萩藩士ニテ三田尻ニ住ス國史ニ精シク歌文ヲ善クス万延元年七月京都役中ニ歿ス水門集、江氏水源、松崎天神鎮坐考等ノ著アリ。

(10) 櫻井魁園

櫻井魁園名ハ武雄字子洗又秋園ト號ス徳山藩士ナリ古籍神典ヲ涉獵シテ國史ニ精シク又和歌ヲ善クス學職二十餘年徳山藩ノ國學ニ興ルハ全ク其ノ力ナリ明治二年四月歿ス年五十六。

第十、和歌

和歌ハ武人ノ嗜ミトシテ之ヲ善クセシモノ少カラズ宍戸眞激、國司親相ノ如キ是ナリ藩主亦之ヲ嗜ミ英雲公及夫人瑞泰院ノ如キ皆和歌ヲ善クシ忠正忠愛ノ二公ハ共ニ歌集アリ世ニ行ハル維新前安部春貞ノ後裔ニ惟貞アリ其頃北條氏華、檜崎景海、松岡經平、勝間田盛稔等アリ皆得難キ歌人ナリ。

(1) 冷泉元豊

冷泉元豊ハ大内義隆ニ殉セル判官隆豊ノ長男ニテ歌ヲ善クシ五郎ト稱ス毛利氏ニ仕フ永祿五年筑前ニ從軍シテ柳浦ニ戰死ス享年二十五冷泉古風ハ其ノ後裔ナリ。

(2) 大庭賢兼

大庭賢兼ハ大内氏ノ臣ナリ後洞春公ニ仕ヘ和歌ヲ善クス公薨ズルニ及ビ哀悼シテ止マズ公ノ遺骸沐

浴ノ水ニテ髪ヲ削レリ其際ノ詠ニ

墨染に今日なすまでもなきたまの

光にもれぬ衣手のつゆ

(3) 香川宣阿

梅月堂香川宣阿ハ吉川氏ノ家老香川正矩ノ二男ナリ名ハ景繼通稱木工允儒名隣善後髪ヲ削リテ堯眞トイフ京都ニ居リ歌名世ニ高シ今西行ト稱セラル享保二十年九月歿ス享年九十三陰德太平記ハ宣阿ガ父ノ稿本ヲ補ヒシモノナリ宣阿ノ孫景柄子ナシ景樹ヲ養フ後更ニ伏山氏ノ子景嗣ヲ養フ景樹猶香川氏ヲ稱ス。

(4) 安部春貞

安部春貞通稱吉左衛門萩藩士ナリ歌學ヲ好ミ古今集ノ秘訣ヲ吉川惟足ニ受ク貞享十一年三月享年七十七ニテ歿ス其ノ作レル八重萩八景ノ歌ハ人口ニ膾炙スル所ナリ子孫家學ヲ繼ギ連歌ノ宗匠タリ。

(5) 今田頼武

今田頼武字ハ文卿通稱府生後ニ不笑ト改ム吉川家ノ老臣ナリ平生讀書ヲ好ミ歌ヲ善クス詩文書畫皆其ノ長ズル所當時推シテ文苑ノ冠冕トス天保八年歿ス。

(6) 森脇方純

森脇方純通稱九兵衛晚年梅菴ト號ス吉川家ノ世臣ナリ洒落ニシテ而モ守ル所アリ人之ヲ輕ンズル能ハズ歌ヲ善クシ茶事ヲ好ム天保十四年二月歿ス。

(7) 布施御墻

布施御墻稱通虎之助初メ豐城ト號ス萩藩士ナリ藩ノ典故ニ精シク歌ヲ善クス嘉永五年姥倉開鑿ノ工事起ル御墻之ヲ督ス四星霜ニシテ成ル安政三年歿ス享年五十八。

(8) 冷泉古風

冷泉古風通稱新左衛門晚年護一ト改ム萩藩醫莊原養安ノ第二子ニテ冷泉氏ヲ襲グ歌ヲ善クシ石竹集ノ著アリ安政三年五月歿ス享年五十四。

(9) 粟屋俊則

粟屋俊則通稱新之允萩藩士ナリ武技ヲ善クシ歌ヲ嗜ミ語學ニ涉ル安政五年秋病死ス。

(10) 熊谷直好

熊谷直好通稱助左衛門元吉川家ノ世臣ナリ文事ヲ好ミ最モ歌ヲ嗜ム香川景樹ノ門人ニテ晚年大阪ニ居ル教ヲ乞フ者多シ文久二年八月享年八十一ニテ歿ス浦廼塩貝、梁塵後集ノ著アリ。

(11) 宮城御楯

宮城御楯通稱彦助萩藩士ナリ若冠歌ヲ勝間田盛稔、宍戸真激ニ學ブ先輩敢テ若年視セズ獨御楯甚勤



メズ誹諧茶事ニ耽ル維新前使番兼騎兵隊用掛トナリ中山忠光卿ニ侍ス後騎兵隊士ト争ヒ死ヲ賜フ。

(12) 松岡良哉

松岡良哉名ハ經平熊毛郡平生毛利氏ノ醫ナリ後宗藩ニ聘セラレテ萩ニ居ル上國ニ遊學中本居太平ニ國學ヲ受ケ和歌ヲ嗜ム明治十五年歿ス。

第十一、俳人

連歌俳諧ヲ嗜ミシモノハ甚多キモ之ヲ徵スベキ記録少シ著キモノ二三ヲ載ス。

(1) 菊舍尼

菊舍尼ハ豐浦郡田耕ニ生ル世ニ長府ノ阿菊トイフ久シク京都ニアリ徳川時代日本女流文學者中加賀ノ千代ト双壁ト稱セラル有名ナル

下る程其名は上る藤の花

ハ菊舍ノ作ナリ書畫、茶道、生花皆其妙ヲ極メ又廣ク儒者禪僧ト交リ博學男子ヲ凌ゲリ。

(2) 飯田惟徳

飯田惟徳通稱正輔竹舎ト號ス徳山藩士ナリ京都ニ遊ビテ國歌ヲ大納言芝山公ニ學ビ連歌ヲ里村昌逸ニ學ビテ共ニ蘊奧ヲ極ム其門下亦學ニ通ズル者多シ天保九年八月歿ス年六十六惟徳又兵制刀法樂曲

等ニ精シ。

(3) 岡村凌化

最陽堂岡村凌化諱ハ尙古通稱俊平宮市ノ人ナリ俳道ニ通ジ國字ニ妙ヲ得タリ弟子數百ニ及ブ明治三年一月行年六十三ニテ歿ス次ノ句ハ人口膾炙スル所ナリ。

吹く風の時をきらはぬ柳かな

(4) 木村雲淵

木村雲淵諱龍樹傳之助ト稱ス萩ノ人好學多技尤モ書及ビ砲技ニ長ズ晩年專ラ俳吟ニ嗜リ評ヲ請フモノ門ニ踵ル海北大夫ニ聘セラレ明治二十六年五月齡八十二ニテ逝ク。

(5) 長沼素兄

長沼實竹名ハ素兄宮市ノ人ナリ夙ニ蕉門ノ歌詠ヲ好ミ能ク其ノ正派ヲ得タリ學ブ者杖履戸ニ溢ルトイフ門人壽藏碑ヲ建ツ。

第十二、武備

毛利氏ノ常備軍ハ陸軍ニ八組ノ騎隊アリ水軍ニ三田尻兩組ノ士アリ明倫館武術ノ師家ハ擊劍ニ平岡、北川、馬來、内藤ノ四家アリ槍術ニ小幡、岡部、横地三家アリ兵學家ニハ吉田、大西、多田ノ

三家アリ劍法ニハ日置流、新陰流、永當流、片山流、無念流、一刀流等行ハレ槍術ニ寶藏院流、夢想流、八條流等盛ナリ銃陣ニハ主トシテ神器陣ヲ採用セラレタリ藩主敬親立チテ文武ヲ張ルニ及ビ明倫館ノ師家ヲ増加シ洋式ヲ加フ武ヲ以テ民間ニ教授スルモノ亦頗多ク神官僧侶悉ク武ヲ鍊ル萬延元年兵學家ノ泰斗大村益次郎擢用セラレテ兵學教授トナリ次デ軍務ヲ執ルニ及ビ兵制駁々トシテ面目ヲ改ム。

德川氏無名ノ師ヲ起シテ四境ニ迫ルヤ二州ノ老幼皆兵ヲ執リテ奮起ス武備ノ盛ナルコト古今比ナク六十餘大隊ニ及ブ其ノ著キモノ左ノ如シ。

宗藩	干城隊	千石以下ノ士族	區別 編 制
	第一大隊	弓組足輕	
	第二大隊	銃砲組足輕	
	第三大隊	新足輕	
	第四大隊	新足輕	
第五大隊	陪臣		

諸隊	宗藩	支藩	宗藩		
			第六大隊	陪臣	
	奇兵隊、 整武隊、 南園隊、 荻野隊、	岩國六大隊 長府四大隊	德山五大隊 清末一大隊	第七大隊	組元ノモノ
	右田毛利氏二大隊 福原氏一大隊 吉敷毛利氏六小隊 大野毛利氏六小隊 堅田氏二小隊	右田毛利氏二大隊 益田氏一大隊 吉敷毛利氏六小隊 厚狹毛利氏四小隊 浦氏二小隊			
	第二奇兵隊、 御楯隊、 鍾秀隊、 振武隊、				
	遊擊軍、 鴻城軍、 膺懲隊、 英武隊、				

諸隊	宗藩
支藩	衝擊隊、 山口町兵、 市勇隊、 力士隊(相撲)、 東光寺大照院洞春寺聯合僧兵、 亨德寺派僧兵、 萩東濱手及西濱手土着兵、 浩武隊、 上野原農兵、 湯田農兵、 鄉勇隊、 八幡隊(神官)、 報國團(僧兵)、 精英隊(岩國)、 山崎隊(徳山) 報國隊(長府)、 育英隊(清末)

毛利氏ノ海軍ハ由來頗久シク元就能島因島ノ水軍ヲ得テヨリ戰國時代水陸二軍ヲ備フルモノ獨毛利氏ノミノ稱アリ元就嘗テ自ラ水軍ノ法ヲ案出シテ臣下ニ授ク名ケテ一品流トイフ蓋其ノ祖先ガ一品阿保親王ヨリ出ヅルヲ以テ名ク。

中國水軍首領村上氏ノ子孫毛利氏ト共ニ二田尻ニ移リシモノ即三田尻御船手ノ士卒ナリ村上氏ニ家

之ヲ統率シ水軍ノ法凡テ能島、來島、因島ノ遺制ニ據ル故ニ其ノ用フル所ノ砲術ヲ三島流トイヘリ御座船、櫓船、大砲小早船等數十雙アリ向島ヲ以テ造船場トシ其ノ役所ヲ御船藏トイフ又萩城下濱崎ニ水軍ノ常備及ビ御船藏ヲ置キ明倫館ニ於テモ三島流水軍ノ法ヲ講ジ水泳ヲ學バシム當時三田尻ニハ水泳ニ長ズルモノ頗多ク明治十八年天皇陛下行幸ノ際澤某ガ三田尻灣頭ニテ天覽ニ供シタルハ其ノ遺法ナリトイフ。

文久元年三田尻御船藏ヲ改メテ海軍局ヲ創設シ松島久誠ヲ頭人トス慶應元年海軍學校ヲ三田尻ニ建テ英學、海軍兵制、運用術、航海術、算術、測量ノ諸科ヲ教授ス英人ベテルヲ聘シテ教師タラシム維新後其ニ之ヲ廢ス今三田尻ニ局ノ内ト稱スル地アルハ即元海軍局ノ地域ナリ。  
 安政三年萩城外小畑ニ於テ洋式軍艦ヲ造ル丙辰丸ト名ク万延元年又庚申丸ヲ造ル爾後追々艦數ヲ増加シ壬戌丸乙丑丸、丙寅丸、丁卯丸、第二丁卯丸等アリ支藩亦往々艦船ヲ購フ長府滿珠艦ノ如キ是ナリ。

海岸警ヲ傳ヘテヨリ要所ニ哨堡ヲ築キ戌卒ヲ置キテ烽火相警メシム萩海岸菊濱ノ臺場ノ如キハ當時城下婦女子ノ力ニヨリテ之ヲ築ク以テ一般士氣ノ振ヘルヲ知ルベシ。

(1) 石川種吉

石川種吉彌左衛門尉ト稱ス新當流ノ兵法ニ達ス初メ大内義隆ニ仕ヘテ山口ニ居ル後毛利氏ニ仕ヘテ

毛利輝元穗田元清ノ武術ノ師トナル。

(2) 片山久安

片山久安通稱竹内劍道ニ達ス特ニ居合ニ長ズ豊臣秀頼ノ師トナリ慶長五年八月八日詔ヲ奉ジテ參内シ兵家ノ要治世ノ術ヲ奏ス從五位下ニ叙シ伯耆守ニ任ゼラル大阪落城ノ後玖珂郡ニ來リ祖生村ニ居ル慶安三年三月卒ス父久隆伯耆ト稱ス父ノ業ヲ繼ギ吉川家ニ仕フ片山流ト呼ブ世々師家タリ。

(3) 北川堅傳

北川堅傳通稱小平二波陽ト號ス菽藩士ナリ心ヲ戰略ニ潜メ北條山鹿油井三氏ノ兵法三島ノ水戰術悉ク之ヲ學ビ書百餘卷ヲ著シテ近世師家ノ謬誤ヲ糾ス遂ニ一家ノ技ヲ建ツ門人一千餘人寛保元年四月享年五十二ニテ歿ス晚ニ山縣周南ニ從ヒ禮樂ヲ以テ天下ヲ化スルノ說ヲ喜ブ蓋經術ヲ以テ武事ヲ潤飾スルハ其素志ナルヲ以テナリ。

(4) 粟屋正憲

粟屋正憲字ハ舍人光雲ト號ス瀨城江向里ニ生ル武術ニ長ジ尤モ射ヲ善クス五公ニ歷仕スルコト六十六年觀光、英雲、容德三侯ノ射師トナリ門弟子甚多ク升堂百十四人人堂皆傳ヲ受ケシ者十五人ニ及ブトイフ寛政四年六月卒ス行年七十五。

(5) 粟屋正論

粟屋正論通稱彈藏正憲ノ子ナリ又射ヲ善クシ能ク勁弓ヲ引ク老ニ至ツテ衰ヘズ弟子三千餘人容德靖恭清德諸公皆就キテ學ブ文化十年六十七ニテ卒ス。

(6) 松井錦江

松井錦江諱ハ公忠字ハ君義通稱市郎兵衛佐波郡華城村ノ人學文武ニ通ジ水戰ノ法火技ノ術ヨリ禮式筆道ニ至ルマデ衆藝ヲ綜覽シ弟子百ヲ以テ數フ元文二年八月享年七十七ニテ卒ス。

(7) 林泰翁

林泰翁通稱他人諱ハ直安周府勝間ノ人ナリ幼ヨリ武技ヲ嗜ミ尤モ騎馬ニ長ズ嘉永六年十月享年八十四ニテ逝ク。

(8) 原田無二軒

原田無二軒諱ハ博知後道正ト改ム通稱良藏三田尻ノ人博ク武技ニ涉リ尤モ槍術ニ長ズ門人ノ盛千人ニ及ブトイフ慶應二年二月壽七十六ニテ歿ス。

(9) 岡崎久徳

岡崎久徳通稱善右衛門佐波郡右田村ノ人幼ヨリ讀書及武技ヲ好ミ尤モ劍槍ニ妙ナリ一郷爲ニ武ニ向フトイフ明治元年十月六十七才ニテ歿ス。

(10) 香川景虎

香川景虎通稱虎之助後庄司ト改ム萩ノ人ナリ武技ヲ善クシ特ニ鞍馬流ノ薙刀ニ長ズ門弟頗廣シ藩主敬親嘗テ鷹狩ニ托シテ其ノ演武ヲ大谷巖ニ見ル又俳諧ヲ嗜ム明治十六年五月歿ス。

(11) 河野通周

河野通周字彌兵衛防府勝間ニ生ル深ク天文地理ヲ明ラメ海陸ノ術ニ通ズ毛利氏ノ水軍吏ニ任ズルコト五十年釐革頗多ク屢水難ヲ救済ス嘗テ田島築堤ヲ監シテ功アリ明和四年六月歿ス年七十。

(12) 林得水

林得水諱ハ時準通稱順藏三田尻ノ人ナリ少ヨリ水術ヲ善クシ文政中豫人山内勝重ヲ師トシテ悉ク其秘ヲ受ク門人三百餘トイフ安政六年十二月享年六十一ニテ歿ス。

(13) 武田泰信

武田泰信通稱要平三田尻水軍ノ士ナリ是ヨリ先水術開祖河井幸篤以來直傳十世ノ士ニ美濃部傳左衛門政雄アリ肥後ヨリ來リテ防府ニ居ル御園生長右衛門持興其ノ傳ヲ得テ水術ニ練達ス泰信乃持興ニ就テ其ノ術ヲ極ム其後持興早世シ美濃部氏亦家絶ユ水術ノ正系泰信アルノミ明治二年藩主敬親國中ニ水術道場ヲ獎勵ス泰信其事ニ與ル又鍊水要訣二卷ヲ著ス世ニ行ハル。

(14) 松島剛藏

松島剛藏初メ瑞益ト稱ス名ハ久誠字ハ有文韓峯ト號ス萩藩侍醫ニ生ル豪爽ニシテ志アリ長崎ニ留學スルコト數年大ニ航海術ヲ修メテ歸リ徒ヲ集メテ業ヲ講ズ安政四年西洋式ノ小船ヲ造ル剛藏ニ命ジテ運轉ヲ習ハシム剛藏謂ラク一旦事アル江戸ニ航セザルベカラズ海路ヲ知ルヲ要スト乃航シテ遠州洋ニ至リ風浪ニ逢ヒ船殆ド沈没セントス水夫一人ヲ喪ヒ漸クニシテ下田港ニ入ル剛藏邦人ノ航海ニ拙ナルヲ憂ヒ益々生徒ヲ激勵ス文久元年三田尻ニ海軍局ヲ置カレシハ全ク剛藏ノ建議ナリ馬關攘夷ノコトアル剛藏庚申癸亥諸艦ヲ艦シテ奮戰疵ヲ蒙ル後論功ニ際シ剛藏ヲ第一トス元治元年十二月内訌ノ際難ニ殉ス年四十歲明治二十四年十二月正四位ヲ贈ラル。

(15) 森重井龍

森重井龍諱正芳水軍砲術火技悉ク其ノ蘊奧ヲ極ム列國頻ニ招ケドモ父母ノ國ヲ去ルヲ欲セズ皆之ヲ辭シ明倫館講官トナリテ水軍砲術火技及ビ神器陣法ヲ授ク天保八年六十九歲ニテ歿ス。

(16) 吉武伊三郎

吉武伊三郎ハ佐波郡牟禮村ノ人砲術火技ヲ森重井龍ニ學ビ心ヲ鑄砲ノ法ニ潜メ遂ニ之ヲ得タリ。其ノ九州ニ在ル肥後ノ砲術家中村五郎ト之ヲ論ズ五郎亦推服ス諸侯多ク鑄砲ヲ托シ八代侯ノ如キハ

參勤ノ途次其家ヲ訪フニ至ル享年七十一ニテ逝ク。

(17) 有阪致遠

有阪致遠諱ハ長爲字ハ通琢俗稱淳藏玖珂玖珂ノ人幼ヨリ砲術ヲ好ミ悉ク家秘ヲ受ケテ猶足ラズトシ四方ニ遊ンデ深ク其技ヲ窮ム名聲天下ニ高ク從學極メテ廣シ嘉永二年正月享年七十ニテ歿ス。

(18) 山田公章

山田公章通稱亦介愛山又含章齋ト唱フ武ヲ嗜ミ學ヲ好ミ最モ長沼流ノ兵學ヲ能クス萩藩ニ仕ヘテ最モ力ヲ海防築城ニ效シ又造艦鑄砲ノ事ヲ管ス万延二年庚申丸ノ建造ニモ公章之ヲ督セリ命ヲ以テ横濱ニ壬戌丸ヲ購ヒシモ亦公章ナリ元治元年十二月内訌ニ殉ス年五十六明治二十四年十二月正四位ヲ贈ラル。

(19) 玉井小周

玉井小周諱ハ一貫字ハ文卿小周防ニ生レ徳山藩ニ仕フ劍ヲ岡部氏ニ學ビ學ヲ監翁ニ受ク岡部氏卒シテ學館ノ武藝ヲ督ス寛政四年二月卒ス年七十一。

第十三、武器工

武人武器ヲ愛シテ需用頗盛ナリシヨリ武器工中又名人ヲ出セシコト各地皆然リ防長二州二王氏以下

劍工ノ名アルモノ少カラズ鏢、刀鞘槍柄、弓作、籐卷ノ類萩府皆其ノ工人アリテ職ヲ世々ニシ長府鏢ノ如キハ頗名ヲ得テ藩主四方ノ贈遣ニモ亦常ニ之ヲ加フ。

(1) 刀工

防長ノ刀工ハ二王及ビ左文字ノ流派尤モ著ル鎌倉時代周防吉敷郡吉敷村ニ二王清真トイフモノアリ刀法ニ一派ヲ開ク之ヲ初代二王トス其子清平孫清綱皆名アリ子孫相傳ヘテ大内氏ノ末造ニ至レリ其派長門ニ住シテ業ヲ傳ヘシモノモアリ。

左文字ハ左安吉ヲ祖トス筑前ノ人ナリ正平年間長門長府ニ住ス左文字ヲ以テ銘トス因リテ左ト稱シ其子三人アリ顯國最モ著ル。

顯國ハ左兵衛ト稱ス貞和中刀工ノ名手ト稱セラル子孫業ヲ傳ヘテ慶長ノ頃ニ及ベリ。行觀學長家團皆顯國派ヨリ出ヅ家團長洲ノ住ト銘ス。

文明中高資アリ亦左派ナリ左派ノ一派行助左派モ文明中ヨリ起ル。

此ノ外二王清綱ニ岩國ニ住スルモノアリ防州玖珂住ト銘シ子孫業ヲ傳フ慶長年中藤原重太郎アリ子孫又刀工ヲ世々ニス刀工ノ各地ニ住スルモノ猶少カラズ佐波郡華城村ニ宗近宗延トイフ地名アリ往古刀工ノ名アルモノ此處ニ住スト其ノ地方往々刀折劍鋒ヲ發掘ス各地此ノ類猶少カラザランカ。

(2) 鏢工

明徳年中山口ニ鑿工中井光恒アリ其ノ後裔善ク鑄ヲ作ル毛利輝元之ヲ萩ニ召シテ世祿ス長門鑄ノ名是ヨリ起ル。

享保年間藩主吉元鑿工河治友久、同友周ニ命ジテ鑄ヲ作ラシメ幕府ニ献ズ幕府其ノ精巧ヲ賞シテ銀ヲ賜フコレヨリ長藩常ニ鑄ヲ献ジテ例トナス工人亦ヨリテ其業ヲ勵メリ。

寶曆年間鑄工中井善助友恒トイフ者アリ鑄工河治左兵衛友恒ノ子ニシテ無比ノ良工ナリ祖法ニ新意ヲ加ヘテ長門鑄ノ名聲ヲ更ニ世ニ廣クス武人頗之ヲ賞用セリ。

### 第十四、戰 功

藩祖元就公大小二百餘戰從軍戰功ノ將士枚舉ニ遑アラズ戰跡亦中國ニ跨ル到底之ヲ録スベキニアラザレバ其ノ重要ナルモノ一二ヲ掲グルノミ維新前後ニ於テ四境役、伏見鳥羽役、東北役、北海道役アリ長人主トシテコレニ與ル或ハ軍後ニアリテ後援トナリ或ハ事ニ先チテ難ニ殉セシモノ亦其ノ恩賞ニ漏ルベキニアラズ凡ソ長藩士民ニシテ此際死シテ靖國神社ニ合祀セラレシモノ一千百四十六人アリ死後特旨ヲ以テ贈位ノ典ニ預リシモノ百二十四人ノ多キニ達ス以下載スル所誠ニ其ノ一部分ノミ況ンヤ其ノ生存者ヲヤ維新後内國戰ニ西南役アリ海外戰ニ臺灣征伐、朝鮮事件、日清戰役、北清事件、日露役アリ長人ノコレガ主將タルモノ頗多ク中國ノ地出兵ニ便ナルヲ以テ第五師團ノ如キハ

大抵毎戰關係セザルナク軍旗ノ進ム所二州出身ノ兵多ク從ヒテ建勳素ヨリ一日ニアラズト雖モ暫ク軍旗ノ歴史ヲ載セテコレニ代ヘタリ乃木將軍ノ如キハ實ニ帝國心靈上ノ偉人ナリ何ゾ戰功ノ一將軍トシテ計フベケンヤコレ亦暫ク便宜ニ從ヒテ此處ニ録スルノミ。

#### (1) 渡 邊 通

渡邊通ハ毛利元就ニ仕フ膂力アリ槍ヲ善クス戰國ノ制善ク槍ヲ用ヒテ首級ヲ得ルコト數ニ滿ツレバ鈴ヲ賜ヒテ槍ニ注ス通之ヲ得タリ時人鈴槍通トイフ天文十二年大内義隆ノ尼子氏ヲ攻ムル元就コレニ加ハル周軍大ニ潰ユルニ及ビ元就殿戰シテ退ク降露坂ニ及ビ追騎甚急ナリ通代リテ戰死シ元就僅ニ免ル元就其子長ヲ愛撫シ長ク之ヲ祿ス。

#### (2) 毛利元政

毛利讚岐守元政幼名ハ千虎丸加冠シテ少輔六郎ト稱シ又六郎左衛門ト稱ス毛利元就公ノ第八子ニテ天野氏ニ養ハレ海北毛利氏ノ祖トナル天正六年上月城ノ役元政精兵ヲ率キ直ニ進ンデ豊臣氏ノ麾下ヲ衝キ長槍ヲ揮ヒテ秀吉ヲ刺ス秀吉殆危シ軍ヲ書寫山ニ退ク秀吉毛利氏ト和スルニ及ビ語リテ曰ク上月ノ役天野六郎ナル者小兵ヲ以テ我が麾下ヲ突ク其勇恐ルベキナリ吾聞ヲ得バ一たび彼下面シ以テ往事ヲ談ゼント欲スト宗家ノ山陽南海西海等ニ事アル嘗テ隨役セザルナシ朝鮮ノ役手兵ノ精強常ニ衆ヲ驚カス秀吉特ニ功ヲ賞ス宗家移封ノ後久シク國政ニ參シ慶長十四年四月二十九日病卒ス享年

五十一天徳院ト追諡ス。

(3) 清水宗治

清水宗治長左衛門ト稱ス毛利輝元ニ屬シ備中高松ノ城主タリ織田信長ノ毛利氏ト中國ヲ争フヤ豊臣秀吉ヲシテ高松城ヲ攻メシム輝元之ヲ救ヒテ勝敗未決セズ秀吉河邊川ヲ引キテ城ニ注グ宗治將士ニ代リテ自刃ス時ニ天正十年ナリ吉川經家ノ事蹟ト併セ傳ヘテ人其風ヲ仰グ。

(4) 吉川經家

吉川經家ハ毛利輝元ノ部將ナリ鳥取城ヲ守ル天正九年秀吉鳥取城ヲ圍ム援軍久シク至ラズ經家力盡キ衆ニ代リテ自刃ス地民其義ヲ高シトシ今ニ至ルマデ歲時之ヲ祀リ教訓ニ必之ヲ語ル墓ハ城後圓護寺村ニアリ。

(5) 時山養直

時山養直通稱直八白水真人ト稱ス阿武郡山田村ノ人ナリ文久万延以來高杉久阪ノ諸士ト尊攘ノタメニ奔走シ明治元年會津征討ノ際騎兵隊參謀トナリ越後口ニ戰フ五月十一日信濃川ヲ亂リ旭山ノ賊ヲ破リ戰尤モ激烈ナリ遂ニ丸ニ中リテ死ス年三十一後特旨ヲ以テ正四位ヲ贈ラル。

(6) 名和道一

名和道一諱ハ緩吉敷毛利氏ニ仕フ聰敏氣節アリ宣徳隊ヲ組織シテ王事ニ盡サンコトヲ約シ尙義場ヲ

開キテ文武ヲ講ズ内証ノ際俗論派ニ銅セラレ四境役遊撃隊參謀トナリテ藝州ニ戰ヒ明治元年岩倉公ニ寓仕ス二年新瀉縣參事トナリ四年米國ニ航シテ民法學ヲ修ム六年冒頓府ニ病歿ス年三十六。

(7) 福田公明

福田公明通稱俠平梅叟ト號シ又悠々老人ト稱ス長門萩ノ人騎兵隊ニ入りテ參謀トナリ轉戰功アリ奥越ノ役ニ從ヒテ歸リ明治元年十一月十四日病死ス厚狹郡吉田ニ葬ル享年四十明治三十一年七月正四位ヲ追贈セラル。

(8) 林與憲之

林與憲之ハ徳山藩士ナリ献功隊軍監トナリ蝦夷地流賊ヲ討ツ明治二年五月八日大川ノ役ニ戰死ス享年二十七正五位ヲ贈ラル隊士追慕シテ措カズ相謀リテ追慕碑ヲ建ツ。

(9) 村上雄文

村上雄文通稱波門海北大夫ノ室老ナリ資性豪爽維新前後藩兵ヲ帥キテ京阪地方ニ歴戰功アリ明治十五年十一月逝ク年五十八。

(10) 坪井航三

坪井航三幼名ヲ信次郎トイヒ後信道ト改メ後又今名ニ改ム花浦ト號ス三田尻ノ人ナリ幼ニシテ蘭學ヲ修メ旁詩文ヲ學ブ攘夷ノ際遊撃隊ニ入り馬關ニ戰フ時ニ外艦ノ運轉自在ナルヲ見テ慨然トシテ海



軍修業ニ志シ自ラ請ヒテ癸亥丸乗組ヲ命ゼラル四境役下關海峽ヲ守リ幕府ノ軍艦回天ト戰ヒテ之ヲ走ラス明治二年鳳翔艦新ニ英國ヨリ來ル航三之ニ乘リ函館役ニ加ハラントス颶風ニ遭ヒ艦將ニ覆沒セシトス航三衆ヲ勵マシテ難ニ處シ途ニ無事ナルヲ得タリ衆其ノ措置ニ服ス四年五月藩鳳翔艦ヲ朝廷ニ献ズ航三其任ニ當ル明治六年海軍大尉ニ任ジ海外ニ留學シ歸朝後常ニ要職ニアリ進ミテ海軍少將ニ至ル明治二十七八年戰役豊島沖ノ海戰ニ於テ我が艦隊ハ全ク航三ノ率キル所ナリシナリ黃海ノ戰ニハ第一遊擊隊ヲ率ヒテ縱横ニ馳驅シ或ハ赤城艦ヲ救ヒ或ハ敵艦ヲ擊沈ス戰役男爵ヲ授ケラレ中將ニ進ム三十一年十一月歿ス享年五十五。

(11) 山口素臣

山口素臣ハ阿武郡椿村ノ人ナリ少壯武ヲ好ミ維新後親兵ニ將トナリ爾來陸軍武官タリ明治三十三年北清事變ノ際各國ノ聯合軍ヲ督シ北京城ヲ陥ル官陸軍大將ニ至リテ薨ズ。

(12) 伊藤柳太郎

伊藤柳太郎ハ玖珂郡川下村ノ人ナリ日清役偉勳アリ明治三十六年六月蒙古喀喇沁王ニ招カレテ軍事ヲ釐革ス日露役旨ヲ受ケテ横川、沖吉原等ノ志士十二人ト決死隊ト爲リ北滿ニ潛ミ敵情ヲ探ル沖横川等敵手ニ落チ任ヲ完クシテ歸ルモノ柳太郎外三人ノミ鋏嶺攻撃ニ戰死ス年三十五官陸軍少佐ニ至ル蒙古王悼惜シテ弔詞ヲ寄ス。

(13) 桂真澄

桂真澄ハ岩國ノ人ナリ幼ニシテ武ヲ好ミ明治四年選バレテ親兵トナリ是ヨリ身ヲ軍籍ニ置キ累進シテ歩兵大佐ニ至ル福知山第二十聯隊長トナリテ遼陽役ニ戰死ス年五十二始メ明治三十年官始メテ廣島地方幼年學校ヲ設ケ君ヲシテ創業ノ任ニ當ラシム君能ク學規ヲ定メ身ヲ國家ニ捧ゲテ範ヲ子弟ニ垂ル。

(14) 井上光

井上光ハ岩國藩士ナリ明治四年親兵ニ將校タリシヨリ陸軍ニアリテ屢偉勳アリ明治三十七八年ノ役第十二師團長トシテ鴨綠江ヲ渡リ先ヅ露軍ノ銳鋒ヲ挫ク陸軍大將ニ至リテ薨ズ。

(15) 乃木希典

乃木希典ハ長府藩士ニテ幼時菽ニ至リ玉木文之進ノ薰陶ヲ受ク明治四年始メテ陸軍少佐トナリ西南戰役後屢戰功アリ陸軍大將ニ至ル明治三十七八年役旅順ヲ陥レ戰後學習院長トナリ大正元年九月十三日夫人靜子ト共ニ明治天皇ニ殉ス享年六十四其ノ偉勳並ニ忠誠ノ事蹟ハ世人ノ洽ク知ル所ナリ。

(16) 第五師團軍旗略歴

聯隊番號	授與年月日	歴戰記	特筆事項
歩兵 四二	明治三二、三月、二八日、	北清役、日露役、	敵彈二個ヲ受ク
歩兵 一一	八、九、九、	西南役、日清役、北清役、日露役、	
歩兵 四一	三一、三、二一、	北清役、日露役、	竿頭負傷
歩兵 二一	一九、八、二五、	日清役、北清役、日露役、	
騎兵 五	二九、一一、一八、	北清役、日露役、	
後備 一一	三七、六、二六、	日露役、	
後備 二一	三七、七、三、	日露役、	
後備 四二	三七、七、一一、	日露役、	
後備 五四	三八、一、一八、	日露役、	

第十五、書家

人ト筆道トハ家ト玄關トノ如シ隨テ文學上ノ一分科トシテ學校ニモ之ヲ課シ政堂ニモ亦其人ヲ得ン  
トス毛利氏ノ文武師家ヲ録スル大抵世臣中ヨリシ他藩ヨリ之ヲ聘スルコト殆稀ナリ而其ノ獨コレア

リシハ草場氏ヲ肥後ヨリ招キシコト是ナリ明倫館ヲ創建セラル、ニ及ビ又常ニ筆道ノ師アリ草場氏  
主トシテ之ヲ世襲ス明治時代ノ能書長茂亦肥後ヨリ來リテ久シク萩ニ寓セシモノナリ頼山陽ノ書天  
下ニ名ヲ馳スルニ及ビ大ニ明倫館内ニ行ハレ遂ニ館ニ於テ其ノ筆蹟ヲ出版シ名ケテ暢居帖トイヒ以  
テ新居帖ト併セ用キルニ至ル但書札往復ノ職ニアル者ハ主トシテ尊雲法親王家ノ流ヲ學ベリ。  
相良正任大内政弘ニ仕フ能書ヲ以テ聞ユ又連歌ニ巧ニシテ新撰菟玖波集ノ作者ニ列ス子武任亦書名  
アリ。

(1) 相良正任

(2) 江良房榮

江良房榮ハ陶全蓋ノ家人ナリ能書ノ名アリ又勇ニシテ智アリ毛利元就ノ全蓋ヲ討タントスルヤ房榮  
ヲ憚リ其ノ筆蹟ヲ模シテ内通ノ書ヲ偽作シ反間ノ策ヲ行フ全蓋之ヲ信ジテ房榮ヲ殺ス上下之ヲ惜ム  
トイフ。

(3) 大一菴其阿

大一菴其阿ハ内藤隆春ノ庶子ニテ山口道場壽探山善福寺十一世ナリ尊圓法親王流ノ書ヲ能クシ且連  
歌ニ工ナリ慶長十八年四月寂ス。

(4) 草場中章

草場中章字豹藏居敬ト號ス長崎人寶永中書ヲ以テ我藩ニ仕フ我藩才學ニ富ミ殆ンド他藩ニ採ル所ナシ僅ニ中章一人ノミ中章簡易跌宕逸士ノ風アリ享保元年二月壽五十九ヲ以テ歿ス。

(5) 草場 仲山

草場仲山諱允文字素英平藏ト稱ス長門仲山ノ人後草場氏ヲ襲ヒ書道ヲ以テ學館講官ト爲ル又詩文ニ長ズ寶曆三年八月年三十八ヲ以テ逝ク男安世通稱仁甫大麓ト號ス亦學ヲ好ミ書ヲ善クス。

(6) 草場 晋水

草場晋水名ハ謙字士亨大麓ノ子ナリ學ヲ好ミ書ヲ善クス請者常ニ戶外ニ滿ツ歿スルニ及ビ秃筆數鬢アリ弟子之ヲ埋メ碑ヲ錄ス門人中長屋思敬等尤名アリ。

(7) 戸川 咸佐

戸川咸佐字ハ文敬通稱幸太夫整齋ト號ス吉川家士ナリ江戸ニ役シテ佐々木文山ニ學ブ文山之ヲ愛シ字及ビ筆花堂ノ號ヲ授ク寶曆七年歿ス年七十七。

(8) 和田 正清

和田正清通稱孫四郎晚年梅翁ト號ス阿武郡萩ニ生ル十二歳善書ヲ以テ厚狹ノ毛利家ニ書記ト爲リ壯ニ及ビテ三田尻ニ移住シ書法ヲ兒輩ニ授ク知命ノ後仕ヲ辭シテ專ラ教授ヲ業トス人ト爲リ篤實ニシテ神佛ヲ崇敬ス弟子三千人祇書法ヲ學ブノミナラズ皆其德ニ矜式ス寶曆十年六月歿ス享年八十三。

(9) 吉田 以忠

吉田以忠通稱藤介萩藩士ナリ持明院家ノ書式ヲ傳受シ名一時ニ轟ク温藉善談ス明倫館習字教師トナリ安永八年九月歿ス享年四十一。

(10) 山縣 鶴江

山縣鶴江諱英字子繁一字俊平世良城大夫ニ仕へ後擢デラレテ本藩ニ祿仕ス幼ヨリ書畫ヲ嗜ミ遂ニ以テ名ヲ成セリ享和二年十二月年四十九ヲ以テ卒ス。

(11) 山縣 墨僊

山縣墨僊字ハ貞父通稱慎平萩堀内春日社ノ祠官城村氏ノ子ナリ山縣鶴江ノ後ヲ承ク亦書ヲ能クセリ

(12) 田村 姫山

田村姫山名ハ長統字ハ彌一郎別ニト鄰ト稱ス佐波郡中關村中濱ノ人ナリ書ヲ山縣鶴江ニ學ビ後能ク一家ヲ成ス越氏塾教官ニ任ズルモノ二十餘年井上可純、矢野允淳、中島覺等皆其門生ナリ文化十年十一月卒ス年ヲ得ルコト六十。

(13) 井上 可純

井上可純字ハ子固通稱伴藏巖城ト號ス三田尻ノ人ナリ六書ニ精通ス弘化三年九月歿ス享年八十。

(14) 矢道 貞

宍道貞字ハ子祥通稱浪江芝齋ト號ス一號醉直萩ノ人楊井盛之ノ二子ナリ經學ニ精シキモ書名ヲ以テ覆ハル安政五年歿ス。

第十六、畫家

大内氏ノ世ニ僧雪舟山口ニ居ル天花雲谷菴ハ其ノ遺跡ニテ宮野村常榮寺ノ庭園ハ雪舟ノ築キシ所ナリ雪舟ノ畫風毛利氏ニ愛セラル雲谷派ト稱ス雲谷等顔ノ弟子等順内裏小御所ニ畫キシハ其ノ派ノ榮トスル所ナリ。

狩野派ノ長藩ニ行ハレシハ大樂朴水ヲ嚙矢トス岩國ノ人桑原幽宅ハ狩野探幽ノ門人ナリ亦内裏ニ畫キテ法橋ニ叙セラル。

南宗ノ畫風ハ矢野筥山ニ至リテ益盛ナリ筥山ノ弟子ニ林百非、釋公壽アリ。

土佐派ハ浮村定直尤モ名アリ丸山派ハ森寬齋アリ今應舉ト稱セラル吳春ノ門下ヨリハ小田海僂等ヲ出セリ此外吉敷大夫ノ臣山縣鶴江モ門下ヨリ多ク畫人ヲ出セリ菅江嶺等尤モ著ル。

志士ニシテ畫ヲ善クセシモノ亦多シ阿武郡松本ノ松浦松洞、佐波郡富海ノ入江石泉、熊毛郡小周防ノ難波蕙庵ノ如キ其一ナリ。

(1) 釋雪舟

釋雪舟名ハ等楊備中赤濱ノ人小田氏ノ子ナリ其ノ畫名ハ夙ニ世ノ知ル所ナリ又詩ヲ善クス寛正二年山口ニ來リ上宇野令天花ノ雲畑ニ菴室ヲ結ビ雲谷菴ト名ケテ之ニ居ル應仁元年明ニ遊ビ文明元年歸錫ノ後又山口ニ來リ舊菴ニ居ル老極リテ菴ヲ弟子周德ニ讓リ石見ニ赴キテ文龜二年九月十六日乙吉村ノ大喜庵ニ寂ス年八十三。

(2) 雲谷畫系

釋周德雲谷菴第二世トナリ雲谷菴主ト稱ス弟子等薩大隅ヨリ來リテ第三世トナリ法脈中絶ス慶長中ニ原直治アリ肥前人ナリ通稱治兵衛能ク雪舟ノ法ヲ得テ輝元ニ聘セラレ萩ニ至ル雪舟ノ舊蹟ヲ賜フ仍テ名ヲ容膝等顔ト改メ雲谷ヲ氏トシ雪舟ノ畫脈ヲ襲フ後裔等鶴マデ雲谷ヲ稱ス其子ニ至リ原氏ニ復シテ畫業ヲ止ム相承タル所左ノ如シ。

氏名	別稱	畫傳	畫系	出生地	死	歿
釋周德	號惟馨	雲谷菴第二世	雪舟ノ門人			
釋等薩	號波月	全第三世	周德ノ門人	大隅		
雲谷等顔	通稱治兵衛	全第四世	狩野松榮、釋楊門ノ門人	肥前	元和四年(七十二歲)	
雲谷等益		全第五世	等顔ノ第二子	萩	正保元年(五十四歲)	

氏名	別稱	書傳	書	系	出生地	死	歿
雲谷等與	通稱圖書ハ	全第六世	等益ノ長子		萩	寛文八年(五十七歳)	
雲谷等璠		全第七世	等益ノ末子		全	享保九年(九十歳)	
雲谷等鶴	號江山	全第八世	等璠ノ子		全	元祿四年(未詳)	

(3) 雲谷別派

雲谷書家ヨリ分レテ別ニ家ヲナスモノ次ノ諸家アリ其家多クハ子孫書ヲ業トシテ萩藩ニ仕ヘ維新前ニ至ル。

氏名	家系	別號	死	歿	享年
雲谷等的	等屋ノ長男		寛文四年(享年未詳)		
雲谷等爾	等益ノ二男	澹溪	寛文十一年(享年五十七)		
雲谷等哲	等益ノ三男		天和三年(享年五十三)		
雲谷等宅	等屋ノ二男		天和三年(享年未詳)		
雲谷等作	等屋ノ三男		未詳		

(4) 齋藤等順

齋藤等順通稱嘉介李齋ト號ス出雲富田ニ生ル父ハ永門等閑號ヲ雪溪トイフ雪舟ノ弟子ナリ等順吉川家ニ仕ヘ雲谷等顔ノ弟子トナル寛永三年九月歿ス享年八十養子等室明暦元年新造内裏小御所ノ繪ヲ命ゼラル寛文四年高野山諸院ニ畫ク後年谷文晁嘆賞シテ本朝畫纂ニ加フ寛文八年十一月歿ス子孫業ヲ傳フ。

(5) 内田活溪

内田活溪名ハ正義通稱神五郎晚ニ江月齋ト號ス吉川家ノ士ナリ筆力縦横等室以後ノ上手ト稱セララル

(6) 三谷盛直

三谷盛直通稱仁右衛門初メ杉原太郎右衛門ト稱シ備後神戸城主杉原理興ノ弟光重ノ孫ナリ慶長中萩ニ至ル輝元杉原氏ノ舊功ヲ思ヒ之ヲ祿ス畫ヲ等顔ニ學ビ應ニ巧ナリ世人賞翫シテ三谷應トイフ承應三年十一月歿ス年七十八子孫書ヲ業トス。

(7) 津森等爲

津森等爲茂兵衛ト稱ス雲谷等璠ノ弟子ナリ等璠我ガ祿ヲ分チ末家トス貞享三年七月歿ス。

(8) 栗栖等侷

栗栖等侷六兵衛ト稱ス雲谷等璠ノ弟子ナリ萩藩ニ仕ヘ津森等爲ト同ジク雲谷家ノ末家タリ元祿五年

正月歿ス。

(9) 長富等珍

長富等珍通稱左兵衛大津郡豊原ノ人ナリ書ヲ雲谷等宥ニ學ビ萩藩ノ畫家トナリ元祿十五年五月歿ス享年七十二子孫業ヲ世々ス。

(10) 生駒等壽

生駒等壽名ハ勝政通稱市之允讚岐ノ人ニテ萩藩ニ祿セラル元祿十四年五月八日歿ス享年七十七。

(11) 有馬喜三太

有馬喜三太ハ元熊毛郡宍戸氏ノ家人ナリ後宗藩ニ仕ヘテ大津郡三隅村ニ居ル書ヲ雲谷等達ニ學ブ繪圖方雇トナリ一村限明細圖ヲ畫ク嘗テ防長ノ土型ヲ作ル藩主嘉賞シテ寶庫ニ納ム明治十八年天覽ヲ辱クセリ。

(12) 波多野賢齋

波多野賢齋名ハ光久書ヲ以テ萩藩ニ祿仕シ延寶五年正月歿ス享年五十四子孫書ヲ業トス。

(13) 大樂朴水

大樂朴水名ハ常樹初メ村田平右衛門ト稱ス狩野永信狩野養朴ニ學ブ萩ノ人元文四年四月歿ス享年七十四子ニ探玄アリ。

(14) 吉山常房

吉山常房通稱友之進萩藩ノ畫家ニテ大樂朴水ノ門人ナリ嘗テ防長兩國ヲ遊歴シテ產物ヲ寫生ス一本ヲ幕府ニ致シ一本ハ藩ニ納ム延享二年七月歿ス享年五十一。

(15) 狩野察信

狩野察信ハ永徳ノ後裔ナリトイフ長府藩ニ仕フ如雲ト號ス寶曆九年六月年六十五ニテ歿ス二子アリ榮洲、松隣トイフ共ニ畫名アリ。

(16) 栗栖探叔

栗栖探叔ハ相模ノ人ナリ狩野探信ノ門ニ入り書ヲ學ブ後萩藩ニ仕ヘ寶曆五年十二月歿ス享年五十六

(17) 桑原幽宅

桑原幽宅名ハ守澄通稱權兵衛岩國ノ人ナリ狩野探幽ニ學ビ守字幽字ヲ許サル延寶三年探幽命ヲ奉ジテ新造内裏ニ畫クヤ幽宅之ヲ助ク寶永四年七月歿ス。

(18) 狩野芳崖

狩野芳崖名ハ雅道字ハ貫甫勝海ト號ス長府ノ人ナリ狩野雅信ニ學ビ橋本雅邦ト共ニ同門ノ獅子王ト稱セラル人物畫ニ長ジ維新後新意ヲ以テ自ラ誓フ明治二十一年享年六十一ニテ歿ス明治ノ新日本畫ハ芳崖ヲ本源トストイフ。

(19) 矢野淳  
矢野淳字ハ子淳別字古風通稱市藏筥山ト號ス別ニ竹舌、留雲瘦儂、四十八峯外史等ノ號アリ三田尻ニ住ス書畫篆刻ヲ善クス弘化二年十一月歿ス年六十六。

(20) 林靖

林靖字ハ不通一ノ字愚公通稱真人百非ト號ス又如是、百是、太平山人等ノ號アリ兵學ニ通ジ禪學ヲ喜ビ畫山水ヲ善クス始メ矢野筥山ニ學ビ後法ヲ元人王蒙ニ取ル嘉永四年十二月享年五十六ニテ歿ス

(21) 石川復

石川復通稱復藏瓊洲ト號ス萩藩士ニテ林靖ノ高足タリ。

(22) 伊藤亮

伊藤亮通稱貞兵衛匪石ト號ス萩ノ人ナリ教ヲ林靖ニ受ク一點一畫モ苟セズ畫ク所更ニ紅塵ノ氣ナシ

(23) 浮村定直

浮村定直通稱彌兵衛萩ノ人ナリ住吉廣定ニ學ビ藩内土佐畫ノ首唱タリ傍塑像ヲ作ル。

(24) 木梨恒充

木梨恒充通稱衛門七號ヲ三丘トイフ萩藩士ナリ浮村定直ニ學ビテ土佐流ヲ畫ク安政二年十月江戸ニ歿ス。

(25) 澁谷道勝

澁谷道勝一名ハ章通稱源吾萩藩士ナリ丹青ヲ山縣鶴江ニ學ビ長南又華岳ト號ス花卉翎毛ニ工ナリ嘉永四年四月歿ス年六十九。

(26) 菅江嶺

菅江嶺名ハ義卿通稱長井庸七美禰郡長田村ノ人ニテ清人沈南頻ノ風ヲ喜ブ山縣鶴江、岸駒、鐮木南湖等ニ學ビ遂ニ一家ヲ成ス藩主齊元(邦憲公)ニ愛セララル嘉永五年十一月歿ス享年九十一江嶺意ヲ經濟ニ注ギ公共心ニ富ム嘗テ道路ヲ開墾ス行人大ニ便ヲ得タリ。

(27) 朝倉南陵

朝倉南陵ハ徳山藩士ナリ名ハ等圭通稱瑚内菅江嶺ノ門人ナリ天保十四年十一月歿ス年八十八子震陵亦畫名アリ。

(28) 能美鷗友

能美鷗友通稱源吾初メ華山ト號ス三田尻ニ居ル菅江嶺ノ門人ニテ花鳥ニ巧ニ尤モ鷹ニ妙ヲ得タリ。

(29) 小田海儼

小田海儼名ハ玉瀛字ハ巨海通稱良平下關ノ人ナリ初メ畫ヲ吳春ニ學ビ南豊ト號ス次デ舊習ヲ捨テ元人ノ法ニ倣ヒ百谷ト號ス更ニ今名ニ改ム宗藩ニ仕ヘ京師ニ居ル安政三年歿ス享年七十八。

(30) 鈴木蘭皋  
鈴木蘭皋ハ宮市ノ人ナリ吳春ヲ師トシ出藍ノ譽アリ濱田藩主ニ招カレ濱田ニ歿ス。

(31) 森寬齋

森寬齋名ハ公肅字ハ子容別號ヲ書三昧齋トイフ佐波郡中關村向島ノ人少クシテ大阪ニ出テ應舉ノ高弟森徹山ニ學ビ遂ニ其義子トナル資性忠厚勤王ノ志深シ明治二十三年帝室技藝員ヲ設ケラル、ヤ寬齋其撰ニ加ハル二十七年六月歳八十一ヲ以テ逝ク京攝ノ間其ノ弟子頗多ジ。

### 第十七、醫學

門閥ノ重ンゼラル、ニ際シテハ十分以外ノモノハ容易ニ榮達ヲ期スベカラズ其ノ獨コレアルハ桑門ニ入ルカ或ハ醫家トナルニアリ是ニ於テ有爲ノ土刀圭ノ間ニ身ヲ置クモノ甚多ク往々儒ヲ兼ネテ以テ經倫ノ志ヲ抱ク毛利氏ノ文學政治ハ醫術ノ士ニ須ツ所蓋尠少カラズ頗未載セテ別項ニアリ今暫ク醫學研究ノ事蹟ノミヲ舉グレバ天保十一年藩醫賀屋恭安、能美洞菴醫學成立御用掛ヲ命ゼラレ藩主ノ別莊南苑ヲ醫學所ニ賜リ學則ヲ立テ、藩醫ヲ養成ス又和蘭醫學ノ益アルヲ認メ青木周弼ヲ掛員トス安政三年十一月明倫館構内ニ移シテ好生堂トイヒ後山口ニ移シテ病院ト合併シ次デ病院ヲ廢シテ西門前町ニ新築シテ醫院ト改稱シ兼テ獨逸學ヲ教授ス當時ノ教師ニ烏田圭三、福田正二等アリ維新

後縣立醫學校トナシテ附屬病院ヲ置キ明治七年醫學校ヲ佐波郡三田尻ニ移シテ華浦醫學校ト稱シ同十年縣費節減ノ際之ヲ廢ス。

(1) 竹田定慶

竹田定慶ハ京師ノ人ナリ醫ヲ業トシ大内義隆ニ招カレテ山口ニ居リ後又京都ニ歸レリ。

(2) 竹田定詮

竹田定詮ハ定慶ノ子ナリ父ト共ニ山口ニ下リ大内氏滅ビテ毛利氏ニ仕フ子孫連綿セリ。

(3) 楊井國久

楊井國久ハ大内義隆ニ仕ヘテ侍大將先手衆ニ列シ傍ヲ醫ヲ善クセリ後毛利氏ニ仕フ。

(4) 楊井武盛

楊井武盛通稱彌七國久ノ二男ナリ醫ヲ善クス子孫連綿タリ。

(5) 仁保玄珠

仁保玄珠名ハ義方萩藩醫ナリ儒學及ビ詩ハ山田原欽ヲ師トス享保中烏田智菴ト防長物産改ヲ命ゼラレテ之ヲ調査セリ寛延元年十二月歿ス年五十六。

(6) 烏田智菴

烏田智菴名ハ貫通通稱留之允長崎ニ至リ外療醫吉田自休ノ高足トナル學識アリテ仁保玄珠ト防長物



産調査ニ任セルコトアリ著ニ萩古實未定之覺、築山屋形盛衰記等アリ。

(7) 小倉梅軒

小倉梅軒諱ハ實節泰桓公ノ侍醫タルコト殆三十年人トナリ舊罪ヲ録セズ志奉公ニ在リ寛保二年三月卒ス享年八十一。

(8) 小倉濟陽

小倉濟陽諱實享字宗爾世醫ヲ以テ毛利氏ニ仕フ君幼ニシテ學ヲ好ミ山根華陽山縣周南ニ師事シ尤モ家學ニ造詣シ博ク方書ヲ讀ンデ其術ヲ窮ム其技大ニ行ハレ負笈踵ヲ繼ク嘗テ東都ニ在リ衆醫手ヲ束ヌルモノ君之ヲ治シテ數驗ヲ奏ス諸侯治ヲ托スルモノ少カラズ寛政三年八月享年六十ヲ以テ逝ク。

(9) 賀屋恭安

賀屋恭安澹園ト號ス三田尻ノ人京都ニ適キ吉益東洞ニ從ヒ古醫方ヲ學ビ吉門ノ十哲ニ計ヘラル歸リテ其術大ニ行ハレ侍醫ノ首班トナル著書多ク世ニ行ハル。

(10) 能美龍洲

能美龍洲諱ハ敦字ハ士厚友菴ト號ス周防三田尻ノ人養父能美由菴醫ヲ以テ祿仕ス君其業ヲ繼ギ藥方新古ニ拘ラズ務メテ實用ノ義ヲ取ル屢私資ヲ捐テ、貧乏ヲ救フ門下他藩ノ人尠カラズ著ス所世ニ行ハル天保二年二月卒ス享年六十一。

(11) 南部龍門

南部龍門名ハ彝字ハ伯民周防三田尻ノ人詩文ハ皆川淇園ニ學ビ醫術ハ小石大愚ニ學ビ業成リテ藩ノ醫員ニ列ス諸老皆其術ニ服ス文政六年十月逝ク年五十四。

(12) 竹中俊屋

竹中俊屋字ハ仲良萩藩士ニシテ馬醫ヲ業トス。

(13) 小野春庵

小野春庵諱ハ遵字ハ子友東原ト號ス藩ノ醫官ニシテ兼テ書ヲ能クシ最モ草書ニ工ナリ天明三年三月壽四十三ニテ逝ク。

(14) 山下玄良

山下玄良諱ハ天民鹿々齋ト號ス防州黒川ノ人ナリ家業ヲ繼ギテ醫ヲ職トス人ト爲リ寡慾祿仕ヲ願ハズ門人ト經史ヲ講ジ詩歌ヲ詠ジ蕭然自得ス尤モ詩及ビ俳句ニ長ジ醫名爲ニ蔽ハルルモ軒岐ノ法亦頗妙ニ入ル文化十二年十二月年六十一ニテ歿ス。

(15) 土屋大倉

土屋大倉諱鶴字正菴佐波郡中關村田島ニ生ル醫ヲ業トシ旁儒學ニ通ズ治ヲ請フ者日ニ相踵キ業ヲ受クル者咄晤絶エザリシトイフ天保十二年齡七十三ヲ以テ逝ク。

(16) 久坂玄機  
 久坂玄機名ハ眞字ハ靜天籟ト號ス萩ノ藩ノ世醫ナリ蘭學ヲ修メ傍ラ兵學ニ及ブ又詩賦ヲ能クシ僧月性ト交情尤モ深シ藩主敬親嘗テ海防ノ事ヲ策セシム玄機病瘵ニアリ命ヲ聞キテ數夜寢ヲ廢シ對策數千言ヲ陳ス幾何モナクシテ逝ク時ニ安政元年二月ナリ。

(17) 山根文季

吉敷郡矢原ニ生レ萩城東香川津ニ居ル眼科醫ヲ業トシ外科ヲ兼ヌ性寡黙能ク人ニ施ス病客門ニ填ム安政五年八月年五十七ヲ以テ逝ケリ。

第十八、洋學

我邦ノ洋學ハ蘭學醫ノ手ニヨリテ專ラ開拓セラレ醫術研究ヨリ一變シテ兵學研究トナリ再變シテ文明ノ研究トナル長藩ノ傾向亦コレニ合ヘリ。

永富獨嘯長崎ニ於テ製糖法ヲ得タリ幕府却テ之ヲ銅ス後其法長府ニ行ハル。

藩主敬親青木周弼ノ議ヲ用ヒテ硝子ヲ作ル其實船載ノモノニ劣ラズ兵備急ヲ告グルニ及ビ火藥製煉所ヲ建テ又砲ヲ鑄ル皆說ヲ洋學者ニ聞ク當時ノ洋學ハ既ニ醫術ノミニアラザリシナリ。

明倫館内ニ醫學校ヲ移サルルヤ特ニ洋學所ヲ分割シ名ケテ博習堂ト稱シ專ラ船舶運用等ノ術ヲ講究

ス創設ノ始メハ田原玄周、青木研造、松島剛藏、能美隆菴等更々頭取役トナリ大村益次郎モ亦嘗テ御用掛トナル是ヨリ旁火技ヲ研究ス慶應元年九月三田尻海軍學校ヘ合併セリ。

山口明倫館ヲ置クニ及ビ洋學寮、英學寮、佛學寮ノ附設アリ洋學寮ニハ獨人ドクトル、ベルリンアリ英學寮ニハ英人ダルネーアリ佛學寮ニハ佛人クロゼーアリ皆來藩シテ教師トナル事ハ明治ノ初年ニ屬ス桂路祐、戸田雅喬等ノ私塾モ亦多ク生徒ヲ養成セリ。

(1) 青木周弼

青木周弼名ハ邦彦大島郡和田村ニ生ル能美友菴ニ學ビ後長崎ニ至リテ蘭醫シイボルトニ師事ス萩藩ニ仕ヘテ神醫ノ稱ヲ得タリ又海外ノ事情ニ通ジ時務ニ明カナリ毛利敬親ノ硝子ヲ製造セル亦周弼ノ建言ナリ青木研藏ハ其ノ弟ナリ。

(2) 桂路祐

桂路祐初右衛門ト稱ス萩土原村ニ生ル往時洋書ヲ讀ムモノ皆蘭籍ナリ萩藩ノ英書ヲ讀ムモノハ君ニ始マル文久中幕府龜田艦ヲ黑龍江ニ遣ハシ形勢ヲ察ス君專ラ測量ニ任ス藩命壬戌艦長ニ補シ外艦ト下關ニ戰フ明治六年紙幣寮ニ出仕シ幾モナク歸郷シテ學職ニ任ジ又第二十大區長第二十一大區長萩町等ニ選バレ明治二十四年一月享年五十六ヲ以テ歿ス。

(3) 弘 鴻

弘鴻ハ都濃郡花岡ノ人ナリ深ク算數學ニ造詣シ又語典ニ通ズ明治ノ初年算法小學ヲ編纂シテ洋算ノ普及ヲ計リ又珠算新式ヲ著シテ和算ヲ洋算ニ連絡セシムルノ便ヲ開ク普ク縣下ニ行ハレテ裨益特ニ著シ事直接ニ洋算ニ關係セザルモ本項ニ附記ス。

### 第十九、心學

心學ハ防府ニ行ハレタリ鳩翁道話ニ防府ト相隣レル臺道ノ孝婦石川阿石ノ事績ヲ記スコト甚詳ナリ或ハ同學相通ジテ之ヲ傳ヘシナランカ、

#### (1) 古谷伊三郎

古谷伊三郎ハ佐波郡華城村ノ人ナリ石門心學ノ研究ニ志ヲ寄セ遂ニ其ノ大家ト稱セラルルニ至ル門弟頗多ク今猶防府地方其傳ヲ承クルモノ尠カラズ。

#### (2) 藤本七郎衛門

藤本七郎衛門ハ佐波郡牟禮村ノ人ナリ心學ヲ古谷伊三郎ニ學ブ伊三郎弟子尠カラズ就中七郎衛門ノ人トナリヲ重ンジ其ノ秘藏セル石翁ノ畫像ヲ讓リテ學系ヲ傳フトイフ。

#### (3) 石崎虎亮

石崎虎亮名ハ諒吉敷郡吉敷村ノ人維新前憲章館都講トナリ維新後小學校ニ教授シ又矢原朝田村長吉

敷村長等ノ職ニ任ゼリ虎亮嘗テ古谷伊三郎ニ心學ヲ學ブ其ノ初等教育ニ從事スルニ及ビ資ル所少カラズトイフ。

### 第二十、初等教育

維新前ノ初等教育ハ全國一般ニ定マレル規程ナク施設モ民間ノ任意ナレバ素ヨリ不完全ナルコト言ヲ須タザルモ大抵私塾寺子屋ノアラザル地方ナク師弟ノ情誼厚クシテ授クル所實用ヲ專ラトシタレバ成績ハ意外ニ良好ナルニ加フルニ社會一般ノ風儀ハ武家ヲ標準トシ庶民ハ成ルベク其ノ家ニ仲間奉公下女奉公ヲナシ暫ク風儀ヲ見習フノ風アリケレバ不知不識ノ間ニ能ク世道人心ノ統一ヲ保テリ長藩ニ於テハ明倫館内ニ幼年舎アリテ各地ノ寺子屋稽古場ヲ率キルノ風ヲナシ盛ニ其ノ興起ヲ催シタレバ學事ノ普及ハ大ニ他藩ニ勝レタルガ如シ教科書トシテ行ハレタルモノ、中二州ニ特別ノ關係アルモノヲ舉グレバ防長御制法、郡中御制法、地方御制法、諸士御制法、御高札、教民ノ詞、自他問對築山教訓書、萩町盡、都登、萩八景萩廻、山口廻、小郡八景、地下名、包物上書等アリタリ。

#### (1) 武田賴德

武田賴德字ハ撫松弱冠學ニ志シ維新後小學校教員トナリ熊毛郡習成校ニ在ルコト十五年明治二十年七月病歿ス年三十六。

(2) 宮川 視 明

宮川視明字ハ子發米水ト號ス通稱澳太郎世安戸氏ノ臣ナリ郷學德修館教授ニ任ジ又邑宰ニ任ジテ治績アリ維新後小學教師トナリ明治十三年四月年五十八才ヲ以テ歿ス。

(3) 濱 田 默 軒

濱田默軒名ハ忠直字ハ松之進佐波郡三田尻ノ人ナリ華城村ニ寓シテ子弟ニ學ヲ授クルモノ二十餘年安政二年七月六十三才ニテ逝ク。

(4) 山 根 積 善

山根積善諱ハ良久甲右衛門ト稱ス佐波郡華城村植松ノ人少ヨリ書ヲ善クス業ヲ受クル者前後二百餘人皆材ニ隨ツテ成立セシムトイフ文久二年享年七十七ニテ逝ク。

(5) 佐 村 柳 洲

佐村柳洲諱ハ常忠佐波郡華城村ノ人ナリ少壯今津桐園赤川晚翠等ニ師事ス明治維新後初等教育ニ從事シテ功アリ明治十二年六月享年四十六。

(6) 平 佐 忠 順

平佐忠順通稱治郎右衛門萩ノ人本姓横見氏ナリ平佐氏ヲ襲ヒテ防府宮市ニ居リ家塾修齊堂ヲ開ク從學一千餘人安永三年八十四歳ニテ逝ク。

(7) 高 橋 漱 石

高橋漱石諱ハ喜文通稱眞作萩藩士ナリ少壯明倫館廟司トナリテ以來廢藩ニ至ルマデ四十四年間嘗テ學職ヲ離レシコトナシ人ト爲リ方正質直善ク子弟ヲ導ク維新後山口ニ在リテ弟子大ニ進ム明治二十四年三月歿ス年八十一。

(8) 香 川 央

香川央ハ萩ノ人景虎ノ弟ナリ山口ニアリテ子弟ニ教授スルコト二十餘年明治二十九年四月歿ス弟子碑ヲ建ツ。

(9) 三 輪 伊 兵 衛

三輪伊兵衛栲堂ト號ス吉敷郡山口町鰐石ノ人ナリ大樂弘毅、福永紅雪ノ門ニ學ビテ略經史ニ通ズ今道小學ノ創建擴張ニ盡力シ屢巨資ヲ投ズ其ノ勞ノ如キハ往々寢食ヲ忘ル明治二十四年八月享年四十七ニテ逝ク。

(10) 名 井 守 介

名井守介名ハ玖字ハ子報于石ト號ス吉敷郡吉敷村ノ人筑前龜井鳴洲ニ學ビ歸リテ郷學憲章館祭酒トナル廢藩後良城小學ノ創設ニ任ジ又嘗テ平川村ニ教授ス受業徒表德獎學金ヲ設ケテ事蹟ヲ不朽ニストイフ。

(11) 高津允中

高津允中字ハ源左衛門美禰郡秋吉ノ人大田ニ移リ雲山下ニ居リ因テ雲山ト號ス少小學ヲ好ミ其ノ成ルヤ善ク子弟ヲ誘フ風化大ニ行ハレ文化五年九月年六十三ヲ以テ病歿ス。

(12) 福原與右衛門

福原與右衛門ハ大津郡三隅村ノ人ナリ安政年中家塾ヲ創メテヨリ明治二十一年小學校訓導ヲ辭ズルマデ始終郷中ノ子弟ヲ教育ス弟子壽碑ヲ建ツトイフ以テ其德ヲ察スベシ。

(13) 佐々木澹齋

佐々木澹齋諱滿謙通稱精式阿武郡明木村ノ人維新前久シク家塾ヲ設ケ維新後小學教育ニ從事シ郷黨ノ子弟ヲ教育スルコト前後三十餘年トイフ。

第二十一、學 館

藩學郷校ハ維新後大抵小學校ノ組織ニ改ム明治四年十二月萩ニ巴城學舎ヲ設ケ山口ニ鴻城學舎ヲ置キテ毛利氏コレガ基金ヲ作り縣ニ托シテ費用ヲ辨ズ中村雪樹巴城學舎ヲ司リ河内信朝鴻城學舎ヲ掌ル後稱ヲ中學ト改メ猶數回ノ變遷アリテ今ノ縣立中學校及ビ高等商業學校トナル猶學館中特ニ由來ヲ有スルモノニ二三ヲ掲グ。

(1) 明倫館碑

明倫館碑ハ新舊兩碑共ニ今萩町明倫小學校内ニアリ館址ハ舊館堀内村ニアリ今猶地名ヲ古明倫館ト呼ベリ新館ハ現今碑ノ存スル所是ナリ劍槍場一棟今僅ニ往時ノ面目ヲ傳フ新明倫館建築ノ際古明倫館ヨリ移築セシモノナリトイフ。

(2) 光被碑

光被碑ハ山口縣師範學校ニアリ明治十八年車駕西狩シ七月二十九日海路三田尻ニ着御勝坂鯖山ヲ經テ山口ニ入り駐蹕二日縣廳學校ニ臨幸アラセラレ錦小路賴德、大村永敏、福原和勝、毛利藤内等ノ墳墓ニ祭糝料ヲ下賜シ孝子節婦ヲ表旌シテ同三十日又三田尻ニ向ハセ給ヘリ光被碑ハ此際ノ記念碑ニテ此外三田尻問屋口、勝坂、鯖山等皆記念碑ヲ建テ聖德ヲ傳フ。

(3) 德基女學校

毛利勅子ハ毛利元美君ノ夫人ニテ德山藩主毛利就壽公ノ女ナリ維新後厚狹郡船木邑ニ創メテ女學校ヲ建テ夫人ヲ聘シテ訓導トナス時ニ明治六年四月ナリ夫人學規ヲ草創シ裁縫紡績諸ノ藝諸術皆身ヲ以テ範トナス明治十二年二月疾ヲ以テ卒ス後人其功勞ヲ思ヒ其名ヲ採リテ校ニ名ケ德基女學校ト稱シテ今ニ至ル。

(4) 兒玉文庫

兒玉文庫ハ都濃郡徳山町ニアリ故兒玉大將ノ舊宅地ヲ敷地トナシ故大將ガ英照皇太后ノ御葬儀掛ヲ勤メテ賜ハリシ恩賜金壹千圓ヲ以テ建物及圖書ヲ設備セシニ起ル明治三十六年一月ノ開庫ナリ。

(5) 華南圖書館

佐波郡中關村ニアリ海軍大尉尾中諦治戰死記念トシテ其兄尾中郁太ガ恩賜金全部ヲ寄贈シ村立トシテ創設セシ所ナリ全國通俗的圖書館中設立ノ尤モ早キモノニテ日露戰役戰病死者ノ遺族紀念事業中其類稀ナルヲ以テ聞ユ明治三十七年十二月開館シ藏書一萬餘冊アリ。

(6) 教育博物館

防長教育博物館ハ山口町大殿小路ニアリ明治四十一年四月今上天皇陛下東宮ニ在シケル際山口ニ行啓ス私立防長教育會ハ乃其ノ記念トシテ教育博物館ヲ開設セリ。

第廿二、孝節

毛利氏治藩三百年意ヲ政治ニ用ヒテ孝悌ヲ獎メ節義ヲ勵マス支藩諸大夫亦皆之ニ倣ヒテ孝節ヲ旌表ス徳化行ハレテ善行美事尠カラズ暫ク其ノ一端ヲ録ス。

(1) 權藏利吉

孝子權藏利吉ハ兄弟ナリ阿武郡樺郷東分村香川津ニ生ル資性孝順ナリ家素ヨリ貧キモ父母ニハ甘脆

置シカラザラシム繼母病ンデ百方治ヲ求ムルモ効ナキニ及ビ二人殺ヲ絶テテ金毘羅神ニ禱リ赤身風雪ヲ冒シテ途ニ凍死ス實ニ文化十二年十二月十一日ニテ權藏年二十二利吉年十六官之ヲ憫ミ碑ヲ樹テ、旌表ス。

(2) 孝子千代松

孝子千代松ハ大津郡深川ニ生ル能ク老母ニ事ヘ夜寒ニハ己ノ肌ヲ以テ母ノ足ヲ温ム以テ他ヲ察スベシ官屢之ヲ賞ス天保十年一月歿ス。

(3) 孝子太郎吉

孝子太郎吉ハ吉敷郡仁保津村ノ人ナリ父母弟妹ト五人暮シナルニ皆病弱ナレバ太郎吉一人ニテ夜モ寢ネズシテ勞作シ家貧ナルモ窮乏ノ者ニハ常ニ物ヲ施シ終身娶ラズシテ孝養ヲ盡シ万延元年十二月八十一歳ニテ歿ス官府ヨリ褒賞ヲ受クコト二十五度ニ及ベリ。

(4) 孝女阿米

孝女阿米ハ徳山橋本町ニ生ル六才母ヲ喪フ次デ父疾ニ罹ル孝女年甫十二鄰里ニ舂キテ父ヲ養フ軀小ニシテ力微ナリ石ヲ腰ニ縛シテ舂ク父疾久シク瘥エズ孝女長ジテ孝心益々加ハル侍養三十一年零丁孤苦艱楚万狀ナリ事公ニ聞ユ屢賞賜ヲ受ク嘉永五年三月年六十二ヲ以テ歿ス。

(5) 孝女阿政

孝女阿政ハ清末角屋助三郎ノ妻ナリ幼ニシテ父ヲ喪ヒ母ト居ル長ジテ母ニ孝養ヲ盡シ夫ニ貞順ナルヲ以テ旌表セラル明治四年五月年四十六ニテ病死ス。

(6) 石川阿石

孝婦石川阿石ハ吉敷郡臺道ノ人ナリ能ク舅姑ニ事ヘ貞節ヲ守リテ夫ノ品行ヲ改メシムルニ至ル事官ニ聞エテ旌表セラル隣ニ熊女トイフモノアリ阿石ノ行ニ感ジテ亦能ク親ニ事ヘタリトイフ。

(7) 孝女於政

孝女於政ハ都濃郡末武下村ノ老嫗ナリ夙ニ夫ノ棄ツル所トナリ獨身父母ニ孝養ヲ盡ス官之ヲ旌表ス

(8) 甚右衛門妻

甚右衛門ノ妻女ハ佐波郡島地村藤木ノ農ナリ享保十三年五月二十七日佐波川暴漲シテ家將ニ危シ妻女其ノ兒ヲ抱キテ逃レントス忽チ老母ノ溺死ニ瀕セントスルヲ見、兒ヲ棄テ、母ヲ救フ後水退キテ巖石ノ間ニ啼聲ヲ聞ク行キテ見レバ即兒ナリ以テ恙ナキヲ得タリ人孝感ノ致ス所トナス。

(9) 阿順

阿順ハ下關中野九兵衛ノ女ニテ母ハ同里吉右衛門ノ女ナリ吉右ノ孫力太郎アリ乃阿順ヲ之ニ配セント約ス後二家頗下生シ家族疫癘ニ罹リテ多ク死シ力太阿順等僅ニ存ス時ニ阿順年甫メテ十五ナリ九兵ノ姪ニ喜一トイフモノアリ九兵在世中阿順ノ姉阿久ヲ以テ配セント約ス無一性無頼ナリ阿久長ジ

テコレニ配タルヲ肯ゼズ長藩士能勢氏ニ適ク喜一爲ニ行装ヲ調フ阿順天資娟秀ナリ喜一得テ婦ト爲サントシ人ヲ遣シテ阿久ニ之ヲ囑シ且威赫スル所アリ阿久已ムヲ得ズ阿順ニ勸ム阿順暫クコレヲ諾シ一夜喉ヲ貫キテ死ス力太ニ義ヲ立ツルナリ時ニ天保元年十二月十日ニテ阿順年十九郷人傳ヘテ節女トス。

(10) 義奴六松

義奴六松ハ玖珂郡米川村大字差川村三右衛門ノ家ニ育ス母喜美ト共ニ三右衛門ニ事フ喜美歿後六松獨主家ノ勞ニ服ス主家産ヲ傾ケ萩城ニ移ルヤ六松隨ヒテ人ノ家ニ備ハレ賃ヲ取リテ主家ヲ養ヒ自ラ娶ラズシテ曰ク主家ヲ存スレバ我が志足ルト官屢其志ヲ賞ス文化十三年正月八十三才ニテ逝ク。

(11) 彦六亦十郎

彦六亦十郎ハ兄弟ナリ阿武郡明木村ニ生ル萩城築成ノ際勞ヲ厭ハズシテ役ニ服シ賞ヲ辞シテ曰ク今後明木村民ノ城下ニ薪ヲ致スニ當リ出願ノ煩ヲ免ジテ之ニ代ヘラレンコトヲ請フト官之ヲ許ス村民長ク其惠ヲ蒙ル。

(12) 清介角右衛門

元祿中藩士益田氏ノ陪臣作間某吉敷郡長野村ヲ治メ重稅ヲ課ス村民遂ニ亂ヲ起ス村中ニ少年アリ松原清介、常田角左衛門トイフ慨然衆ニ代リテ宗藩ニ訴フ酷吏追放セラレ人民蘇生ス而シテ法ニ越訴

境ヲ復ス大竹コレヨリ長ク我ト争ハズ。

第二十三、志士

舊長藩宗支藩士民ニシテ幕末回天ノ偉業ニ與リ或ハ勤王ノ志ヲ抱キテ前後國事ニ奔走セルモノ極メテ多ク藩公父子ノ冤名ヲ蒙ルヤ其ノ忠誠ノ顛末ヲ明カニシテ防長臣民合議書ト名ケ老幼悉ク之ヲ懷ニシテ衷情ヲ天朝ニ達セシメンコトヲ期セリ當時ノ狀況ヲ概論スレバ二州上下悉ク憂國ノ志士ナラザルハナク隨テ殉難死者ノ多キコト左ノ如シ。

馬關攘夷戰	三二	但馬義舉	一〇
池田屋事件	八	京都變動事件	二二九
徳山内訌事件	七	京都變動關係	一六
内訌戰	六四	内訌事件	五
倉敷事件	七一	四境戰爭	二二九
戊辰戰爭	四二七	北海道役	三六
脱隊事件	一七三	其他殉難	一三六
合計	一四四三		

... (Faint vertical text columns, likely bleed-through or secondary content)



來島政久通稱又兵衛萩藩士ナリ嘗テ江戸ニ居リ外夷ノ倨傲ヲ憤ルコト久シ大ニ力ヲ勤王ノ舉ニ致ス高杉晋作ノ奇兵隊ヲ組織スル政久宮市ニ遊撃隊ヲ組織シ次デ諸隊ヲ編成ス藩主政久ニ總監ヲ命ズ長藩ノ禁衛ヲ停メラレ七卿西下スルヤ政久姓名ヲ森鬼太郎ト改メ上國ノ形勢ヲ搜索ス元治元年諸隊ヲ引率シテ山崎ニ屯シ遂ニ七月十九日ノ戰トナルヤ新在家門附近ニテ會津兵ト戰ヒ丸ニ中リテ戰死ス後持旨正四位ヲ贈ラル。

(4) 吉田松陰

吉田松陰名ハ矩方字ハ義卿寅二郎ト稱シ二十一回猛士ト號ス阿武郡松本村杉氏ノ出ナリ嘉永安政ノ交深ク時難ヲ憂慮シ忌避ニ觸レテ屢獄ニ繋ガレ安政六年十月二十七日死刑ニ處セラル年三十嘗テ松下村塾ヲ開キテ教授ス門下ノ人材極メテ多シ高杉晋作、久坂通武、伊藤博文、中谷正亮、前原一誠、入江弘毅、野村靖、品川彌二郎、山縣有朋、檜崎彌八郎、瀧鴻二郎、山田顯義、寺嶋宗則、堀真五郎、久保清太郎、前田利濟、大樂源太郎等ハ其ノ著キモノナリ村塾遺址今猶松本村松陰神社境内ニ現存ス明治二十二年二月十一日特旨ヲ以テ正四位ヲ追贈セララル。

(5) 金子重輔

阿武郡萩町商茂左衛門ノ子ニテ郡内紫福村ヨリ出ヅ米艦ノ浦賀ニ來ルヤ吉田松陰ト共ニコレニ投ジテ海外ノ形勢ヲ察シ大ニ爲ス所アラントス事成ラズシテ獄ニ下リ安政二年正月十一日ヲ以テ逝ク行

年二十五天下之ヲ惜ム。

(6) 久坂玄瑞

久坂玄瑞名ハ通武字ハ實甫後義助ト改ム秋湖ト號ス別號江月齋萩藩士ナリ兵ヲ吉田松陰ニ學ブ松陰大ニ其才ヲ愛シ女弟ヲ以テ之ニ妻ハス時勢日ニ非ナルヲ見尊攘ヲ以テ任トナス元治甲子役奮戰シテ丸ニ中リ自刃ス年二十六明治二十四年四月正四位ヲ贈ラル。

(7) 高杉晋作

高杉晋作諱ハ春風字ハ暢夫萩町ニ生ル故アリテ別ニ祿ヲ賜ヒ谷潛藏ト稱ス東行ハ其號ナリ果斷勇決用兵神ノ如シ勤王ノ志厚ク奇兵隊ヲ組織シテ藩ノ士氣ヲ鼓舞シ二州尊攘ノ先トナル慶應三年四月十四日享年二十九ヲ以テ逝ク厚狹郡吉田村清水山ニ葬ル後正四位ヲ贈ラル。

(8) 入江弘毅

入江弘毅字ハ子遠通稱杉藏萩藩士ナリ寛厚寡黙親ニ事ヘテ孝ナリ吉田松陰ニ學ビ松陰ノ入獄後先輩多ク外ニアリ弘毅弟和作ト留リテ松陰ノ旨ヲ受ケ時事ニ奔走ス亦共ニ鋼セラル後許サレテ京都ニアリ浪士尊氏ノ木首ヲ梟シテ繋ガル、ヤ弘毅同藩山縣小輔土佐藩士吉村寅太郎ト連書建言シテ罪ヲ寛クセント請フ高杉晋作ノ奇兵隊ヲ組織スル歸リテ之ヲ助ケ尤モ力ヲ致ス晋作ノ才識ト弘毅ノ誠實トヲ隊士中ノ聯璧ト稱ス元治禁門ノ役ニ戰死ス年二十七後特旨正四位ヲ贈ラル。

(9) 吉田秀實

吉田秀實通稱稔麿無逸ト號ス狀貌雄偉大志アリ吉田松陰ニ兵法ヲ學ブ刻苦勉勵倦色ナシ松陰賞感シ他日國家ニ事アラバ必汝ヲ勞セントイフ松陰死スルニ及ビ心喪數月室ヲ出デズ以テ人ト爲リヲ察スベシ馬關攘夷ノコトアル幕吏來リ詰ル秀實赴キテ論辯スル所アリ説クニ勤王ノ大義ヲ以テス幕吏一語ヲモ發スルヲ得ザリシトイフ後池田屋事變ニ斃ル年二十七明治二十四年十二月從四位ヲ贈ラル。

(10) 杉山寒翠

杉山寒翠名ハ律義通稱松介萩ノ人ナリ王事勤勞ヲ以テ藩主ノ賞感ヲ得十籍ニ列ス京都旅舎池田屋ノ變ニ傷キテ死ス年二十七小身ヨリ出デ、十籍ニ上リ有爲ノ才ヲ以テ早ク難ニ殉セシモノ入江弘毅、吉田秀實及寒翠ト共ニ世之ヲ並稱シテ巨擘トナス。

(11) 河上繁義

河上繁義彌市ト稱ス阿武郡椿村ノ人夙ニ勤王ニ志ス生野銀山ノ舉ニ姓名ヲ變ジテ南八郎トイヒ實ニ其ノ主謀タリ軍敗レテ自刎ス文久三年十月十四日ニテ年二十一才ナリ後從四位ヲ贈ラル。

(12) 大谷樸助

大谷樸助諱ハ實德字ハ篤甫雪溪ト號シ又梅窓トイフ阿武郡須佐ノ人ナリ幼ヨリ學ヲ好ミ又常ニ尊攘ヲ唱フ邑主益田彈正ノ國難ニ殉スル小國武彝河上俊愼等ト回天軍ヲ組織シ姦ヲ除カントシ成ラズシ

テ死ス慶應元年三月ニテ年二十八。

(13) 飯田忠彦

飯田忠彦通稱左馬助ト號ス徳山ノ人ニテ有栖川宮ニ仕フ嘗テ野史二百九十卷ヲ著ハス櫻田事件後幕疑ヲ受ケ伏見ニ捕ヘラレ憤懣シテ自刃ス時ニ萬延元年五月二十七日ニテ享年六十二後從四位ヲ贈ラル。

(14) 多賀谷勇

多賀谷勇諱誠光字茂叔右田ノ人曾テ國事ノ日ニ非ナルヲ憂ヒ尊攘ノ志切ニシテ奔走十餘年其間獄ニ繫ガルルコト二回トイフ元治元年五月年三十六ニテ歿ス辭世ニ曰ク

都より助けたまひし我身なれば

雲井にかへり君を守らむ

(15) 大樂源太郎

大樂源太郎諱ハ弘毅歲寒堂ト號ス萩ノ人幼ヨリ穎敏讀書ヲ好ム長ジテ交ヲ四方ノ名士ニ結ビ勤王ヲ首唱ス維新後吉敷郡大道村ニ私學ヲ興シテ西山書屋トイフ從學百餘人明治四年三月九州ニ於テ暗殺セラル年四十歳。

(16) 徳永秀之

徳永秀之通稱恭平佐波郡鈴屋ノ人和漢ノ學ニ通ジ慨然尊攘ノ志アリ元治慶應ノ際牟禮村進徳舎ヲ置ス弟子歌ヲ請フアリ乃詠ジテ曰ク

怠らず書見て拂へ國にさへ

虫の巢を喰ふ時節なりせば

遂ニ蹶起シテ京阪地方ニ入り廣ク四方ノ豪傑ニ結ビ義氣ヲ鼓舞ス甲子堺町御門ノ役以來屢生死ノ間ニ出入シ以テ天日ヲ仰グニ至ル功勞誠ニ妙カラズ明治三年藩兵改革ノ際内亂ノコトアリ不幸ニシテ其謀ニ坐シ死ヲ賜フ年五十三其弟佐伯柄彦鈴屋八幡宮ノ祠官タリ亦志士ナリ國事ニ奔走ノ際京都池田屋ノ變ニ會シ重傷ヲ受ケテ捕ヘラレ慶應元年六月四日ヲ以テ斬ラル後柄彦官ニ採録セラレ獨京平ニ及ハズ世之ヲ悲ム。

(17) 世良砥徳

世良砥徳名ハ修藏大島郡棕野村ニ生ル幼ニシテ僧月性ニ學ビ壯歲京攝武總ノ地ニ遊ビ又英蘭兵書ニ通ズ維新前高杉久阪諸子ト國是ヲ商確ス維新後朝廷征東ノ舉アル奥羽鎮撫總督ニ屬シテ參謀ニ任ジ白川城ニ屯ス時ニ奥羽列藩連盟シテ官軍ニ抗ス君遂ニ其害ニ遇フ實ニ明治元年閏四月ニシテ年三十二ナリ官後從四位ヲ追贈ス。

(18) 岡本豊嗣

岡本豊嗣通稱三右衛門櫻園ト號ス宮市ノ人ナリ和歌ヲ善クス資財ヲ舉ゲテ志士ヲ助ケ家産爲ニ盡ク  
明治十年十一月享年六十九ニテ歿ス明治四十四年六月正五位ヲ贈ラル。

(19) 中村栗軒

中村栗軒初名誠一後ニ雪樹ト改ム又草菌生ト號ス萩ノ人博學ニシテ文ヲ善クシ又書ヲ好ム資性重厚  
勤王ノ志深シ久シク政堂ニ在リテ功勞アリ維新後萩ニ退隱シテ教育ニ貢獻スル所多シ明治二十三年  
九月歿ス享年六十歲明治四十五年六月特旨ヲ以テ從四位ヲ贈ラル。

(20) 御堀耕助

御堀耕助名ハ直方初名大田市之進萩藩士ナリ魁偉勇武劍ヲ善クス夙ニ尊王ノ志厚ク御橋隊ヲ率キテ  
屢各所ニ勇戰ス維新ノ際藩主ノ命ヲ奉ジテ洋行シ歸リテ藩政改革ニ盡力ス明治四年五月歿ス明治三  
十一年七月正四位ヲ贈ラル。

(21) 伊藤十藏

伊藤十藏本姓ハ林氏熊毛郡東荷村ノ人ニテ伊藤博文ノ父ナリ年三十一仕ヲ求メテ伊藤氏ヲ冒ス文久  
元年藩用ヲ帯ビテ京都ニ入り藩ノ輻重會計ヲ掌ル鎖港攘夷ノ際志士ト奔走ヲ共ニシ南國隊ヲ組織シ  
テ俗論ヲ排ス明治二十九年三月八十一歳ヲ以テ歿ス。

(22) 岩國三士

岩國三士誠忠碑ハ岩國町錦見村ニアリ三士トハ東崇一郎栗栖平次郎南部俊三郎ヲイフ文久慶應ノ際  
國家多事ナリ崇一郎深ク之ヲ憂ヒ精義隊ヲ編シ門生ヲ激勵ス事藩典ニ觸レテ南島ニ謫セラル平次郎  
俊三郎皆其事ニ關シテ歿ス平次郎諱ハ靖字ハ子共天山ト号ス慶應二年十二月ヲ以テ歿ス年二十八俊  
三郎諱裕字ハ君綽慶應三年八月歿スル時年三十七崇一郎諱ハ正純澤瀉ト号ス天資邁遠學ヲ好ミ陽明  
學ヲ尸祝ス明治元年赦サレテ郷里ニ歸リ垂惟シテ子弟ヲ育ス明治二十四計三月病歿ス年六十才明治  
四十五年官三士ニ贈位シテ功ヲ録ス。

(23) 徳山七士

徳山七士碑ハ徳山町遠石ニアリ兒玉治郎彦、本城清、江村彦之進、河田佳藏、淺見安之丞、信田信  
大夫、井上唯一ノ七士皆慷慨國ヲ憂ヒ冤罪ヲ蒙リテ歿ス明治三十一年七月四日共ニ特旨ヲ以テ從四  
位ヲ贈ラル略傳次表ニ明カナリ。

氏名	別稱	才學	死年	死齡
兒玉治次郎彦	名忠炳、号青田(又品山ト号ス)	詩	元治元年八月十二日	齡二十三
江村彦之進	名厚、字季德、号風月	儒學	全	齡三十三
河田佳藏	名政佳、字圭人、号月坡	詩	元治元年十月二十四日	齡二十三

井上唯一	名和彦、号雪崖	詩	元治元年十月二十四日	齡二十三
本城清	名斐、字仲章、号素堂	儒學	慶應元年正月十四日	齡四十一
淺見安之亟	名正虔、字伯恭、号烟溪	全		齡三十三
信田秋琴	名徹、字伯懿、通稱作太夫	詩	全	齡四十一

第廿三、復讐

事他藩ニ關セル復讐ノ著キハ佐々木巖流ト於察トナリ巖流ガ殺害セシ吉岡一味齋ノ墓ハ吉敷郡小鮎村柀ニアリ一味齋ノ女ニシテ復讐ニ志シ却テ仇ニ殺サレタル於菊ノ遺蹟ハ佐波郡牟禮村浮野ニアリ藩主輝元ガ宮本武藏ヲシテ仇ヲ報ゼシメシ地ハ所謂關門海峽ノ巖流島ナリ於察ノ事蹟及藩内ノ復讐ハ下ニ之ヲ録ス。

(1) 木梨就時

木梨就時通稱喜左衛門萩藩士ナリ武藝ヲ野山六右衛門ニ學ブ正保二年九月十七日野山ノ東鄰岩倉八郎兵衛野山ノ家ニ抵リ家族ヲ及ス就時變ヲ聞キテ馳セテ八郎兵衛ト戦ヒ之ヲ斬ル野山岩倉ノ屋敷後ニ獄舎トナル。

(2) 渡部宣

渡邊宣ハ萩藩士ニテ玉江村ニ住ス通稱吉之允トイフ寛永十八年十一月父常萩法華寺ニ於テ山村松庵ト争ヒ傷ヲ被リテ死ス宣時ニ二歳ナリ叔父アリ俊トイフ宣ヲシテ仇ヲ報セシメントシ宣ヲ山口ニ潛マシメ自己ハ廣島ニ至リ醫ヲ業トシテ機ヲ待チ萬治元年常ノ十七回忌ニ還リテ宣ト松庵ヲ法華寺前ニ殺セリ。

(3) 宇佐川繁房

宇佐川繁房通稱半兵、弟繁昌通稱新六祖父ヲ弘氏トイヒ父ヲ弘次トイフ萩藩士ニテ玖珂郡山代ノ大原村ニ居ル正保二年四月十二日弘氏二子ト宇佐村ニ至リ莊屋木村與三右衛門ト事ヲ争フ與左衛門其弟及ビ畔頭三郎右衛門ト弘氏父子ノ歸途ヲ要撃ス弘氏三人ヲ斬ル法ヲ以テ切腹ニ處セラル而シテ弘次ハ傷キ死シ弘俊亦傷ク寛文八年四月五日與三右衛門ノ子二郎右衛門其弟吉兵衛及ビ亡二郎兵衛ノ子茂左衛門下男一人ト俱ニ弘俊ヲ襲殺ス因テ二郎右衛門ヲ追放ニ處ス繁房兄弟爲ニ仇ヲ復シテ二郎右衛門及子小三郎ヲ殺ス。

(4) 近藤正貞妻

近藤正貞妻三上氏ハ萩藩士三上五右衛門常直ノ第三女ナリ其姉正貞ニ嫁シテ死後々妻トナル正貞ノ妹山縣豊之ニ嫁シ後離別ス子アリ六之允ト稱ス寶曆元年三月二十七日六之允三上氏ノ舅喜左衛門安

正ヲ斬リテ去ル時ニ正貞東都ニ在リ三上氏厨下ヨリ走り抵ル家椿村南明寺山下ニ在リ六之允ガ田圃ヲ走ルヲ臨ミ薙刀ヲ取リ之ヲ追ヒ大橋ニ至ル六之允河中ニ投ズ村民七八來リテ力ヲ合セ之ヲ捕フ官六之允ヲ親族ニ預ク間モナク六之允暴死ス官家名ヲ斷ツ六之允四女アリ妻ナシ親族之ヲ願ミズ正貞變ヲ以テ江戸ヨリ歸リ我が長女ヲ妻ニ生家ニ托シ遺孤ヲ家ニ育ス三上氏遺孤ヲ視ル所生ノ如クシ貧ヲ忍ビ晝夜女功ヲ營ミテ之ヲ嫁セシム天明七年十一月享年六十八ニテ歿ス。

(5) 烈婦登波

登波ハ大津郡角山村幸吉ノ妻ナリ文政四年十月廿九日父甚兵衛弟勇吉夫幸吉及ビ幸吉ノ妹松ナルモノ枯木龍之進ノタメニ及傷セラレ三人皆死シ幸吉僅ニ殊セズ登波急ニ趨ル及バズ悲憤シテ復讐ニ志スモノ二十一年五畿七道探索殆ンド盡ク漸ク彦山ニアルヲ知リ官ニ訴フ藩乃追捕ヲ遣ハシテ龍之進ヲ捕ヘ鼻首ニ處ス。

(6) 松田於察

松田於察ハ長府藩ノ足輕松田忠八ノ女ナリ武藝ヲ嗜ミテ藩士中川左膳ヨリ澁川流ノ柔術皆傳ヲ受ク龜并能登守ノ中老直江ニ事ヘ居ケルニ松平周防守ノ老女澤野事ヲ以テ直江ヲ辱シム直江怨ヲ飲ンデ自殺ス時ニ享保九年四月九日ナリ於察使シテ外ニアリ歸レバ直江既ニ絶ス直チニ馳セテ澤野ヲ捕ヘ之ヲ殺ス演劇ニ演ズル鏡山仇討ハ即是ニテ其ノ於初ト稱スルハ於察ヲ指セルナリ阿察後直江ノ跡役

ヲ務メ八十一歳ノ高齡ヲ保チテ逝ク。

第廿四、神職

國牀ト神道トハ密接ノ關係アレドモ藩學ト神官トハ餘リ關係セザリシガ如シ但シ當時ノ藩論國牀擁護ニアルヲ以テ藩主敬親亦神典ヲ研究スルノ必要ナルヲ認メ山口明倫館ニハ特ニ神典ノ一科ヲ加ヘテ從來ノ國學研究ニ一步ヲ進メシメタリ國防急ヲ告グルニ當リ藩内神職ノ子弟モ亦集リテ隊ヲ組織シヨレニ加ハル八幡隊是ナリ隊員及其臣從中殉難死者拾八人アリ。

(1) 金田秋足

金田秋足ハ阿武郡福井村ニ生ル國學ニ精シク神道ニ本ヅキテ國民忠誠ノ志ヲ養ハント欲シ講說年アリ權中講義ニ任ジ山口縣神道事務局副長ニ撰バレ明治十五年五月齡五十七ヲ以テ逝ク。

(2) 佐伯八雲

佐伯八雲ハ吉敷郡間田志多里神社ノ神官ナリ和漢ノ學ニ通ジ講說至情ヨリ出ヅ明治初年毛利氏ノ暫ク石見豊前ヲ領スル八雲命ヲ受ケテ屢其地ニ巡講ス維新後宣教使中講義ニ任ゼラル明治七年一月歿ス。

第廿五、佛者

二州佛刹中尤モ古キ吉敷郡御堀村興隆寺ハ推古ノ朝琳聖太子ノ創建ニテ天台開祖最澄唐ヨリ歸朝ノ際寺名ヲ名ク大内氏時代ニハ寺坊百餘其ノ盛ナリシコト知ルベシ大内義弘所領六國ノ富ヲ舉ゲテ鯖山禪昌寺ヲ創建シ定紹和尚ヲ開基トス其ノ盛時ハ僧侶七百餘員ヲ住マシムトイフ周防國分寺ハ防府町東佐波ニ在リ天平十三年聖武天皇ノ勅願建立ナルコト國史ニ詳カナリ長門國分寺ハ今下關市東南部町ニアルモ元長府村逢坂ニ建テラレ創建周防國分寺ニ同ジク共ニ當時佛法興隆ノ中心トナレリ其他山口ノ國清寺深川ノ大寧寺等皆多クノ名僧ヲ出セリ毛利氏時代ニ至リ大照東光、滿願諸寺ノ學僧舊來ノ巨刹ト相須チテ其ノ學ヲ究メ其ノ教ヲ廣ム名僧智識ヲ舉ゲ來ラバ茫々二千年間其數サヘモ計リ知ラレザルノ多數トナルベシ僧侶ノ或ハ政治ニ參與シ或ハ文學ニ貢獻セルモノ亦多ク就中大内毛利二氏ノ勤王事蹟ニ關係セルモノ尠カラズ周防國分寺ハ東大寺泉涌寺大通寺ト相議シテ後醍醐天皇ニ立太子式ノ資ヲ獻ズ天皇嘉納シテ周防國分寺ヲ諸國國分寺ノ主管ニ置ク周防國分寺ハ是ヨリ後醍醐天皇ヲ中興ニ祀ル大内義弘南北兩朝ノ合一ニ功アリ其後吉野皇胤ノ次第ニ微ナルヲ慨ス堺ノ役後龜山天皇ノ皇弟師成親王アリ義弘ヲ助ク義弘敗ルルニ及ビ親王周防ニ下リ法泉寺ニ落飾シテ惠梵ト稱ス今猶山口町上宇野村ニ遺塚アリ毛利元就ノ正親町天皇ニ即位料ヲ獻ズル山口國清寺ノ僧佛智ヲ京都ニ遣シ勸修寺大納言ヲ經テ之ヲ奏ス後佛智ニ大照國師ノ號ヲ賜フ維新前國歩多難ニ際シ僧徒亦隊ヲ組織シテ國防ニ任ズ或ハ金剛隊トイヒ或ハ報國團トイヒ或ハ東光寺大照院洞春寺聯合僧兵トイヒ

或ハ亨德寺派僧兵ト稱シタルモノ是ナリ當時僧侶及寺臣ニシテ殉難志士中ニ加ハリモシノ二十六人ノ多キニ達ス。

(1) 僧 開 光

僧開光字ハ明空西譽ト號ス吉敷郡朝田村ノ人ナリ山口善福寺ニ住ス入トナリ謹愨重心喜恤色ニ見ハサズ名利ヲ脱シテ守ル所頗堅シ道俗大ニ化ニ嚮フ安永五年六月寂ス年六十。

(2) 釋 月 性

釋月性字ハ知圓清狂ト號ス玖珂郡遠崎村明圓寺ノ住職ナリ肥豐及京畿ニ遊ビ又常毛三越ニ至リテ名士ト唱酬シ經學詩名共ニ世ニ高シ常ニ外冠ヲ以テ憂トナス法ヲ講ズレバ談必是ニ及ブ人海防僧ト呼ブ魁梧豪宕酒ヲ嗜ム義ニ趨ルコト渴スルガ如シ安政五年五月寂ス年四十二後正四位ヲ贈ラル。

(3) 釋 半 雲

釋半雲名ハ公壽周防三田尻光妙寺主ナリ山水花卉ヲ善クス始メ矢野筥山ニ學ビ後京師ニ遊ビ其技大ニ進ム旁篆刻ニ巧ニシテ鑒識ニ長ズ明治七年一月壽六十三ニテ寂ス其ノ法座ニ上ル懇々開諭シ涕言ニ先ツ常ニ曰ク予養錢ノタメニ法ヲ説カザルナリト。

(4) 下 間 安 海

下間安海阿武郡大井人儒學ヲ廣瀬淡窓野坂三益ニ受ケ内典ヲ肥前不及老人ニ學ビ又智旭得業ノ門ニ

遊ブ萩城下三千坊ニ住ス慶應中長藩封内眞宗ノ僧規ヲ正サントシ二十餘僧ヲ選ブ師コレニ與ル維新後本山ニ入り功勞多シ明治十九年十二月享年六十七ヲ以テ入寂ス司教ヲ贈ラル。

(5) 僧 來 翻

僧來翻ハ阿武郡木與村ニ生ル萩町海潮寺ニ掛錫シ山門維持ノ基ヲ定メ宗務ヲ擴張シ殿堂ヲ再建シテ寺門ノ中興ト仰ガル明治二十三年八月年五十六才ヲ以テ入寂ス。

(6) 嶋 地 默 雷

嶋地默雷ハ佐波郡島地村妙誓寺ニ住職タリヨリテ嶋地ヲ稱ス能書ニシテ詩ヲ善クス本願寺學僧トナリ布教ニ功勞多シ。

第二十六、陶 工

陶業ハ佐野燒尤モ古ク起原遠ク上古ニアリ末田燒ハ天明八年佐野燒ヨリ分所セルモノナリ朝鮮ノ陶業ヲ移セルハ松本燒、小畑燒、深川燒、須佐燒等ナリ吉敷郡ニ陶村アリ往古ノ陶業ノ地ナラントイフ。

(1) 澤 田 長

神功皇后征韓ノ際船ヲ大崎(佐波郡右田村)ニ寄セ澤田ノ長ニ命ジテ土鼎ヲ作ラシメ玉祖神ヲ祀ル之

ヲ佐野燒ノ濫觴トス澤田長ノ子孫代々陶業ヲ營ミ今ニ至ル内田氏はナリ。

(2) 李 勺 光

文祿征韓ノ役ニ朝鮮ノ陶工李勺光捕ヘラレテ大阪ニ來ル秀吉之ヲ毛利輝元ニ預ク輝元乃チ松本中倉ニ居リ陶器ヲ作ラシム之ヲ萩燒ノ祖トス子孫山村氏ヲ稱シ大津郡深川燒ノ祖トナル。

(3) 李 敬

李勺光ノ弟李敬亦兄ニ招カレテ歸化ス助八ト改名シ後更ニ坂高麗左衛門ノ名ヲ賜フ松本ニ居リ子孫業ヲ傳フ。

(4) 三 輪 休 雪

三輪休雪ハ大和三輪ノ人ナリ通稱ヲ源太左衛門トイフ寛文年間長門ニ來リテ椿郷東分村ノ小畑小丸山ノ麓ニ窯ヲ開ケリ子孫業ヲ傳ヘ八代泥介大ニ改良ヲ加ヘ以テ今ニ至ル。

(5) 道 亭

道亭ハ阿武郡小畑村ノ磁窑ノ職工ナリ其作ニ人物山水花卉鳥獸魚介ヲ畫ク筆力自在ナリ弘化四年四月歿ス。

第二十七、工 商



文治中俊乘坊重源ノ東大寺大佛殿ヲ再建スル宋人陳和卿番匠物部爲里、櫻島國宗等ヲ率イテ周防ノ

柚ニ入ル造營事竣リ陳和卿功ヲ以テ吉敷郡宮野ヲ領ス。

大内塗ハ大内時代ノ遺法ニ主リ工人山口ニアリテ今猶之ヲ製ス。

防長四産物ノ一ナル紙ハ阿武、美禰、佐波、都濃、玖珂ノ諸郡尤モ盛ナリ有名ナル土佐ノ製紙モ周

防ヨリ之ヲ傳フ。

養蠶製絲業ハ藩主忠正公近江ヨリ宮部文藏ヲ召シテ萩ニ居ラシメ其ノ師トシテ之ヲ廣メシメヨリ

次第ニ盛大トナル。

大島玖珂熊毛地方ノ織物業ハ村松三五郎ノ盡力ニ須ツコト大ナリ。

商ニシテ志士ニ交リ維新ノ際國事ニ貢獻セシモノ下關ニ白石正一郎アリ其弟廉作ハ但馬銀山ノ舉ニ

戰死ス共ニ正五位ヲ贈ラル近代下關ノ商ニテ公共ニ盡セシモノ伊藤房次郎アリ。

(1) 竹田番匠

竹田番匠ハ徳川時代ノ人防府三田尻鑄物師ニ居ル人之ヲ左甚五郎ニ比ス。

(2) 三谷三九郎

三谷三九郎ハ大津郡深川村三谷ノ人ナリ素小農ニ生レシモ青年志ヲ立テ、江戸ニ出デ商ヲ營ミ遂ニ

屈指ノ富豪トナル。

(3) 藤田傳三郎

藤田傳三郎ハ阿武郡萩片河町ニ生ル醬油醃業ヲ業トス傳三郎大志アリ風雲ニ際會シ能ク商機ヲ見テ

第廿八、哀傷

有爲ノ器ニ生レ芝蘭ノ資ヲ具ヘナガラ未ダ芳ヲ放タズシテ早世スルガ如キハ誠ニ哀傷ニ堪エタリ而

(1) 山縣允升

山縣允升字ハ大亨通稱仁右衛門山縣周南ノ第三子ナリ才氣アリ學ヲ好ム周南頗望ヲ屬ス寛永四年六

(2) 野村紫澤

野村紫澤通稱吉兵衛萩藩士ナリ擊劍ヲ岡田重松ニ學ビ書ヲ谷文晁ニ學ビ共ニ之ヲ善クス文化十二年

(3) 平岡通時

十二月享年二十八ニテ歿ス。

平岡通時通稱七郎治秋藩士ナリ家世々武術ヲ以テ仕フ通時深ク祖業ヲ研メ更ニ師ヲ求メテ柳河ニ至リ劍槍ヲ大石進ニ學ブ技大ニ進ム偶病ンデ客死ス年二十一。

(4) 長谷川 禹錫

長谷川禹錫字ハ玄圭通稱安太郎柳橋ト號ス吉川家士ナリ香川午谷ニ學ビ午谷死後玉乃世履ニ學ブ資質哲瘦ナルモ志氣堅確勉強人ヲ兼ヌ養老館ノ坐次門閥長幼ヲ論ゼス專ラ學業ノ成績ニ據ル禹錫常ニ第一位ニ居ル擢ンデラレテ訓導ニ進ム不幸ニシテ其年病歿ス時ニ文久二年八月享年二十二。

(5) 栗山 勝直

栗山勝直七郎左衛門ト稱ス須佐大夫益田氏ニ仕フ騎射劍槍ニ達シ最モ兵家言及ビ槍法ニ精シ不幸病ンデ卒ス時ニ文政二年五月享年二十六。

(6) 小國 婦美

婦美ハ小國玉淵ノ女ナリ六歳母ヲ喪ヒ父ハ黨事ヲ以テ山中ニ錮セラレ祖父亦疾アリ親族累ヲ懼レテ近カズ婦美孱手祖母ヲ慰メテ湯藥ヲ求メ毎日經ヲ讀ンデ父ノ冤ヲ救ハンコトヲ祈ルモノ四年四隣其孝ヲ稱ス文政元年未笄セズシテ死ス。

第廿九、社 寺

是ニ舉グル所ノ社寺ハ一般ニ由來ヲ温ヌルニアラズシテ特別ノ史蹟アルモノヲ載セテ他ノ項ト參照ニ便ス。

(1) 玉 祖 神 社

太古玉祖命玉璽ヲ作リテ三種神器ノ一ニ加ヘラル天孫ノ建業ヲ輔ケテ五部神中ニ列シ海内分司ノ重任ヲ帶ビテ周防右田大崎ニ居ル薨ズルニ及ビ祀リテ國社トナス大崎一宮是ナリ。

(2) 濱 宮 遺 跡

豊後風土記景行天皇筑紫行幸ノ條ニ從周防國佐婆津發舟而渡泊海部郡宮浦。

トアリ佐婆津ハ娑磨浦ニテ今ノ防府勝間ナリ勝間ナル濱宮ハ此際帝ノ祀ル所ナリ近年マデ社殿永ク存セシヲ數年前廢社トナリシハ惜ムベキコトナリ松樹數株僅カニ殘リテ遺跡ヲ傳フ。

(3) 豊 浦 宮 址

豊浦郡長府村二宮社ノ地是ナリ仲哀天皇熊襲ヲ征シテ二年六月ヨリ八年正月マデ神功皇后ト共ニ此地ニ驛ヲ駐メ給ヘリ天皇崩ジ皇后新羅ヲ征シテ飯リ給フヤ皇后喪ヲ此地ニ執リ給ヒシヨリ天皇ヲ祀リテ祭神トス後聖武天皇ノ神護年中皇后ヲ勸請シ更ニ應神帝ヲ配祀ストイフ日賴寺後山ニ今モ尙仲哀天皇殯葬ノ遺跡アリ。

(4) 菅公神蹟

防府勝間ニアリ延喜元年春菅公西遷ノ際船ヲ繼グ國守土師信貞迎ヘテ旅情ヲ慰ム五月望再船ヲ織ス信貞及其臣藤井某清水某等送リテ此ニ至ルトイフ毛利英雲公勝間開作ヲ築造セラレテヨリ全ク海岸ニ遠カルニ至レリ。

(5) 國廳遺跡

防府町東佐波令國衙ニアリ維新前國廳寺及國廳八幡宮アリ維新後寺ハ廢寺トナリ數年前宮亦廢社トナリシハ惜ムベシ附近ニ國衙八町ト稱スル地域アリ持統天皇ノ御宇以來政務所ノ所領トシテ勅許セラレ東大寺周防ヲ管シテヨリ東大寺之ヲ領シ以テ維新前ニ至リ曾テ武門ニ租ヲ輸シタルコトナキノ地ナリ。

(6) 築山神社

築山神社ハ吉敷郡山口町堅小路ノ舊大内氏館址ニアリ大内義興以下大内氏代々ノ靈ヲ祀ル義興ハ大内氏第二十五世ノ明君ナリ嘗テ將軍義植ヲ守リテ京ニ入り細川澄元ヲ船岡山ニ破リテ義植ヲ將軍ニ復セシム世之ヲ義トス。

(7) 周防國分寺

防府町國分精舎ハ 聖武天皇勅願ノ建立ニシテ今ハ規模頗縮小セルモ猶往時ノ隆昌ヲ忍ブニ足ル域

内ニ神影井ト稱スルモノアリ菅公西遷ノ際井ニ臨ミテ自ラ其像ヲ畫クトイフ法華滅罪尼寺亦町内宮市ニ遺趾ヲ存ス。

(8) 龍藏寺

阿武郡椿郷東分村中津江ニアリ昔天平年中聖武帝ノ大佛殿ヲ草創スル長門多ク好牛ヲ出ス國守牧スル所ノ白牛肥壯多力能ク巨材ヲ牽ク土木終ルニ及ビ帝勅シテ其像ヲ作り之ヲ安置ス東大寺淨土堂是ナリ白牛歿スルニ及ビ埋骸ノ地ニ堂宇ヲ建ツ帝特ニ白牛山龍藏寺ノ榜額ヲ賜フ國守ノ裔孫今猶隣村椿村ニ住ス。

(9) 阿彌陀寺

佐波郡牟禮村ニアリ南都大佛殿再興大勸進重源上人ノ草創ナリ始メ大佛殿平重衡ノ兵火ニ罹ルヤ後白河法皇痛ク之ヲ悲ミ將軍賴朝ニ再興ヲ促シ俊乗坊重源ニ勅シテ再興大勸進トス又周防國ヲ東大寺ニ賜ヒテ造寺料ニ充ツ重源乃周防國司ニ任シテ牟禮村ニ居リ自ラ工匠ヲ督シテ用材ヲ輸シ遂ニ勅命ヲ完クシ建永元年六月五日ヲ以テ入寂ス是ヨリ寺僧相傳ヘテ周防國司ニ任ズルモノ四十五世ニシテ足利氏ノ中葉文明年中マデ連綿タリシモノナリ。

(10) 大寧寺

大寧寺ハ大津郡深川村ニアリ天文二十年九月一日大内義隆陶賊ノタメニ攻メラレ逃レ來リテ寺内ニ

自殺セシヲ以テ聞ユ今猶義隆及ビ殉難臣從ノ墳墓並ニ當時難ニ遭ヒシ二條尹房公二條良豐卿以下公卿數人ノ墳墓アリ又嘗テ上杉憲實ノ世ヲ通レシ所ニテ寺門ノ石橋ハ憲實ノ架スル所トイフ。

(II) 功山寺

長府ニアリ往昔ハ長福寺ト云ヘリ後醍醐天皇山號ヲ金山ト賜フ大内義長自剗ノ所ナルヲ以テ聞ユ。

(12) 引接寺

下關市ニアリ永祿三年忠譽聖人ノ開基ナリ日清談判ノ際清使李鴻章ノ宿所タリシヲ以テ知ル。

第三十、招魂場

明治戊辰役以來諸國皆招魂場アリ明治十二年六月九日東京九段坂招魂社ヲ改メテ靖國神社ト稱シ別格官幣社ニ列シテ諸國招魂社ニ祀ル所ノ靈ヲ悉ク合祀ス而シテ諸國招魂社モ亦舊ニヨリテ之ヲ存ス山口縣内及縣關係ノ招魂場ニシテ各地ニアルモノ左ノ如シ。

(1) 節臣廟

玖珂郡岩國町吉香社境内ニアリ嘉吉以來慶長役ニ至ル間岩國藩士中國事ニ死セル者二百五人ノ靈ヲ奉祀ス。

(2) 中山忠光卿墓

中山侍從忠光卿ハ時勢ニ慨シテ官位ヲ廷朝ニ返シ浮浪ノ身トナリテ長州ニ下リ次デ天忠組ニ推サレテ大和十津川ニ義兵ヲ擧グ軍敗レテ長門豐浦郡ニ潛ミシガ元治元年十一月十五日刺客ノ手ニ罹リテ卒ス年二十二遺骸ヲ綾羅木村勝野原ニ葬ル明治三年十月正四位ヲ贈ラル。

(3) 錦小路公碑

錦小路頼徳公ハ長州ヘ西下セラレタル七卿ノ一人ナリ慶應元年四月二十四日馬關ニ歿ス享年三十吉敷郡下宇野令村妻山ニ葬ル碑是ナリ。

(4) 櫻山招魂場

櫻山招魂場ハ下關市宇新地ニアリ全國各地招魂場中建設ノ尤モ早キモノナリ。

(5) 長添山招魂場

阿武郡椿郷東分村小畑長添山ニアリ第一大隊第四大隊及ビ干城隊等ノ藩兵中王政維新戰死者ノ靈ヲ祀ル第一大隊ニ屬スルモノ五十人干城軍七十二人第四大隊四十七人ナリ。

(6) 弘法寺招魂場

弘法寺招魂場ハ萩町土原村弘法寺域内ニアリ振武隊戰死者五十八人ヲ祀ル寺域内又前原一誠佐世一清ノ墓アリ一誠ハ土原村ノ人維新ノ功ニヨリ參議ニ任ズ惜哉亂ヲ起シテ殺サル一清ハ其弟ナリ又亂ニ與シテ死ス。

(7) 桑山招魂場

佐波郡防府町ニアリ整武隊戰歿ノ士ヲ祭ル其ノ附近ニ贈從五位野村望東尼ノ墓アリ尼ハ豊後ノ人婦女ノ身ヲ以テ勤王ニ志シ常ニ志士ヲ庇護ス姫島ニ謫セラレ後此地ニ歿ス。

(8) 朝日山招魂場

朝日山招魂場ハ吉敷郡秋穂村ニアリ八幡隊陣歿ノ士ヲ祭ル。

(9) 甲子殉難烈士招魂場

阿武郡椿郷東分村東光寺境内ニアリ元治元年冬藩紛紛擾ノ際難ニ殉セシ四大夫十一士ノ靈ヲ祀レリ猶其附近ニ台灣殉難教育家楫取道明ノ碑アリ。

(10) 脱隊諸士招魂場

脱隊諸士ハ皆維新鴻業翼賛ノ志士ナルニ明治初年藩内兵制改革ノ際議合ハズシテ罪ニ陥リ論功ニ加ハラザル亦憫ムベシ招魂場ハ吉敷郡小鯖村柵ニアリ奇兵隊三十八人整武隊三十人振武隊十二人建武隊六人遊撃隊十八人銳武隊四人ノ靈ヲ祀ル。

(11) 各地招魂場

以上列記スル所ノ外舊長藩殉難者招魂場ノ藩内及他國ニ散在セルモノ左ノ如シ

名	稱	所	在	名	稱	所	在
八田山	招魂場	大島郡久賀町		關所山	招魂場	玖珂郡岩國町字錦見	
惣田山	招魂場	熊毛郡麻郷村		峨眉山	招魂場	熊毛郡室積町	
後山	招魂場	都濃郡湯野村		山添	招魂場	都濃郡末武上村下高塚	
永源山	招魂場	都濃郡富田村		江良	招魂場	吉敷郡宮野下村	
赤妻	招魂場	吉敷郡下宇野合村		下天神	招魂場	吉敷郡吉敷村	
勝野原	招魂場	豊浦郡綾羅木村		鷹巢	招魂場	厚狹郡船木村	
維新	招魂場	厚狹郡中宇部村		峠	招魂場	厚狹郡奥万倉村	
物見山	招魂場	厚狹郡厚西村		三蔭山	招魂場	阿武郡須佐村	
山口村	招魂場	兵庫縣但馬國朝來郡		大江社内	招魂場	大阪府東成郡天王寺村	
東福寺	招魂場	京都市下京區本町通十五丁目		靈山	招魂場	京都府愛宕郡鷲尾町	
法師鼻	招魂場	高知縣長岡郡吸江		旗崎	招魂場	福岡縣三井郡山川村	
報恩寺	招魂場	朽木縣宇都宮市		常磐岡	招魂場	新潟市寄居	
汐見	招魂場	北海道函館區汐見町		江差	招魂場	北海道渡島國檜山郡江差町	

第三十一、古戰場城址

二州ハ比較的ニ大戦役ニ關係セシコト尠シ天慶ノ亂ニ賊兵來リ侵シ佐波川ヲ渡リ迫ラントス官兵之ヲ西岸ニ防戦シ賊船ヲ覆没セシム賊敗走ストイフ元寇ノ際賊兵豊浦郡ニ來寇ス我軍之ト戦ヒ勝利ヲ得神玉村土井ヶ濱ハ其ノ古戰場ナリ

厚狹豊浦郡ハ豊田厚東ノ諸氏相争ヒ阿武郡ハ吉見氏大内氏ト争ヒテ二三ノ戦跡ヲ遺セルモ事蹟多クハ詳ナラズ

大内氏滅ビテ毛利氏二州ヲ領スルニ當リ大内氏ノ部將降ヲ納レザルモノ元就之ヲ攻メテ二三ノ小戦アリ

維新前四境役アリ當時ノ戦跡中尤モ有名ナルヲ小瀬川トス維新後前原一誠町田梅之進ノ内亂アリサレドモ戦争萩附近ヲ出デス

日露役日本海海戦ニ際シテ天津郡向津具灣ハ我が軍艦笠置千歳ノ應急修理ヲナセシ所ナリ見島沖ニハ露艦沈没スルモノアリ戦後周防、見島等ノ艦名ヲ捕獲艦ニ附セラル

壽永年中源平二氏ノ壇浦海戦、維新前毛利氏ノ外艦ト下關前田沖ニ戦ヒシ等ハ國史ニ之ヲ載セ人口ニ膾炙スル所ナリ。

(1) 横山城趾

横山城趾ハ玖珂郡岩國町ニアリ古城主詳ナラズ慶長年間吉川氏之ヲ修築ス久シカラズシテ撤ス。

(2) 關所山城趾

關所山城趾ハ玖珂郡杉峻ニアリ毛利氏ノ將桂兵部少輔ノ居城ナリ。

(3) 鞍掛城趾

鞍掛城趾ハ玖珂郡蓮華鞍掛山ニアリ杉治郎太夫隆泰ノ居城ナリ弘治元年毛利氏ニ亡ボサル。

(4) 若山城趾

若山城趾ハ都濃郡福川村ニアリ陶氏世々ノ居城ナリ。

(5) 沼城趾

沼城趾ハ都濃郡須々万村ニアリ大内義長ノ將山崎伊豆守ノ據リテ毛利氏ヲ拒ギシ所ナリ。

(6) 須々万城趾

須々万城趾ハ都濃郡須々万村ニアリ大内氏ニ屬ス弘治三年三月落城ス。

(7) 右田岳城趾

右田岳城趾ハ佐波郡右田村ニアリ右田氏代々ノ居城ニシテ大内氏ノ重臣タリシガ弘治二年右田重政毛利氏ニ附屬ス。

茶臼山ハ佐波郡浮野埜ニアリ永録十二年大内輝弘吉川氏ノ軍ト椿峠ニ戦ヒ敗走シテ此ノ山地ニ退キ力盡キテ自殺セシ所ナリ。

(8) 茶臼山古戰場

(9) 築山館趾

築山館趾ハ吉敷郡山口町堅小路ニアリ大内氏ノ居館ノ趾ナリ今ハ阪神社、築山神社アリ。

(10) 鴻峰城趾

鴻峰城趾ハ吉敷郡山口ニアリ弘治二年春大内義長毛利氏ノ兵ヲ防グタメニ築ク毛利氏之ヲ得テ守兵ヲ置ク久シカラズシテ撤ス附近法泉寺村ハ陶賊ノ亂ニ義隆ノ退キテ賊ヲ防ギシ所ナリ。

(11) 姫山城趾

姫山城趾ハ吉敷郡問田村ニアリ大内氏ノ臣内藤隆春ノ居城ナリ。

(12) 山口城趾

万治中毛利敬親山口露山麓ニ築キテ萩ヨリ治ヲ移セシモノ之ヲ山口城トス維新後縣廳トナル。

(13) 霜降城趾

厚狹郡厚東村霜降城ハ厚東氏七世武光ノ築ク所ナリ厚東氏歴世是ニ居城ス。

(14) 豊田氏城址

豊田氏城址ハ豊浦郡殿敷村一ノ瀬山ニアリ豊田氏豊田郡ヲ領ス今ノ豊田村上、中、下、前ノ諸村及西市村ノ地域是ナリ元弘建武ノ際豊田胤藤アリ宮方ニ屬ス後豊田氏大内弘世ニ亡ボサル。

(15) 勝山城址

豊浦郡勝山城址ハ弘治二年大内義長毛利元就ノ兵ニ破ラレテ長府へ走ルヤ内藤隆世義長ト俱ニ落來リテ居城ナルニヨリ此所ニ籠リケルガ義長死スルニ及ビ隆世亦自殺ス。

(16) 繪堂古戰場

美禰郡繪堂村ハ慶應元年正月内証ノ際撰鋒隊ト諸隊トノ戰場ナリ。

(17) 茶臼山城趾

茶臼山城址ハ阿武郡椿村ニアリ大内氏ノ臣岩成豊後守ノ居城ナリ其附近ナル陣原ハ豊後守ガ松倉伊賀守ト戦ヒシ所ナリ。

(18) 長添山城趾

長添山城址ハ阿武郡椿郷東分村小畑ニアリ尼子氏ノ臣松倉伊賀守ノ居城ナリ。

(19) 指月城趾

指月城址ハ阿武郡萩町指月山ニアリ北條直元吉見正頼等ノ城址ニシテ山下ニ指月山善福禪寺アリシヲ毛利輝元善福寺ヲ川島村ニ移シ築城ス毛利氏歴世ノ居城ニテ五層城樓ハ尤モ偉觀ナリシガ明治四年天下ニ先チテ之ヲ壞ツ蓋毛利氏封建ノ制ヲ破ラントスルノ意尤急ナリシガタメナリ。

(20) 壇浦古戰場

下關市ニ屬ス平家滅亡ノ古戰場ナリ昔ハ民家トテモナカリシヲ長府藩主毛利綱元阿彌陀寺ニノ漁戸ヲ此所ニ移シテヨリ次第ニ戸口繁殖スルニ至レリ。

(21) 火山古戰趾

下關市外前田ノ後方ニアリ一ニ櫻尾ト稱ス大内氏ノ臣和氣氏相良氏等相次デコレニ居リ毛利元就ニ至リ坂新五左衛門ヲ居城セシメタリ之ヲ火山ト稱スルハ往袁狼烟ヲ舉ゲテ邊警ヲ報ジタルガタメナラントイフ維新前毛利氏砲台ヲ築キ今ハ要塞ヲ置ク。

第三十二、史蹟

二州風景ノ地ニ富ミ風騒ニ入り歌枕ニ引カレシ所少カラサル上ニ古キ歴史ヲ有スル二州ナレバ古今ノ史蹟多ケレドモ他項ニ漏レタルニテ顯要ノミヲ掲グルコト下ノ如シ。

(1) 引島

引島今彦島ト稱ス伊崎浦ノ東ニアリ仲哀記ニ伊觀縣主ノ參リ迎ヘタル由ヲ記セルモコノ島ナリ。

(2) 來目皇子

來日皇子ハ聖德太子ノ弟ナリ推古天皇十年春征新羅將軍トナリ築紫ニ至ル翌年春筑紫ニ薨ズ周防婆娑ニ殞ス桑之ノ地是ナリ。

(3) 小野山

孝德天皇大化五年穴門麻山ニ白雉ヲ得タリ帝祥瑞トナシ元ヲ白雉ト改ム美禰郡小野山ハ其ノ所ナリトイフ。

(4) 岡山清信

岡山清信岡山ニアリテ大塔宮ニ仕フ後夢窓國師ノ弟子トナリ周防郡濃郡須金村ニ來リ氷見奥畑ノ地ヲ開墾ス延文四年二月佐波郡富海村照雲寺ニ寂ス子孫今猶連綿タリ岡ヲ氏トス。

(5) 鴻嶺神宮

鴻嶺大神宮ハ山口郡字瀧ニアリ永正十七年大内義興ノ勅許ヲ得テ創建セシ所ナリ後柏原正親町二帝ノ勅額アリ伊勢宗廟ト並稱シテ西ノ神宮ト稱ス蓋大神宮ノ勸請ハ朝廷容易ニ之ヲ許サズ之ヲ許サレシハ僅ニ鴻嶺ノミトイフ。

(6) 毛利氏閱兵



毛利敬親兵ヲ城東羽賀臺ニ関ス爾來屢関兵ノ擧アリ元治元年吉敷郡大道村繁枝松原ニ於ケル関兵同年佐波郡三田尻鞠生松原ニ於ケル関兵等是ナリ其ノ頃又佐波郡牟禮村岸津濱ニ関兵ス七卿以下臨觀ス。

(7) 横山健之助

安政中毛利氏大和村島一族ニ托シ横山健之助ヲシテ小蒸氣船ヲ伊勢二見浦ニ造ラシム之ヲ我國蒸氣船製造ノ始メトス。

(8) 牟禮村

甲谷兵庫ノ京都ヨリ密勅ヲ齎シテ敬親ニ達シ國事ニ周旋スルヤ常ニ佐波郡牟禮村御園生氏ニ館シ陰カニ京阪ニ來往ス人之ヲ知ルモノナカリキ以テ幕府ノ嫌疑ヲ避クルヲ得タリ。

(9) 中根市之亟

中根市之丞ハ舊幕ノ重臣ナリ文久三年長藩攘夷ノ擧ニ對シ詰問使トシテ來ル壯士ニ襲ハレ佐波郡中關村平根沖ニ於テ殺サル時ニ八月二十二日ナリ。

(10) 五卿登陸地

文久癸亥八月七卿ノ西下シテ長門ニ向フヤ二十七日三條、西、四條、壬生、錦小路五卿風浪ヲ避ケテ徳山東濱崎埠頭燈明臺脇へ上陸シ陸路ヲ取リテ西ス。

(11) 富海村

元治元年伊藤井上二公英國ヨリ歸ルヤ攘夷論般盛ニシテ容易ニ上陸スベカラズ夜竊カニ豊後姫島ニ上陸シ漁舟ヲ以テ佐波郡富海村ニ歸リ機ヲ視ヒテ山口ニ向フ。

(12) 中關村

薩長聯合ノコトアル西郷隆盛等防府ニ來リ中關村鶴濱貞永氏ニ館シテ長州ノ志士ト會ス蓋三田尻ヲ避ケテ機密ニ事ヲ決セルナリ。

第三十三、傳 說

傳説ハ附會多キモ往々コレヨリ新史實ヲ發見スルコトナキニアラズ教育上必シモ取ルニハ足ラザルモ又雞肋ノ感アリ乃二三ヲ卷末ニ附記ス。

(1) 康賴及俊寛

熊毛郡室積普賢寺ニ平康賴ノ碑アリ傳ニ曰ク治承ノ變後康賴俊寛及藤原成經ノ鬼界島ニ流サル、舟室積ニ泊ス康賴寺祖活豈和尚ニ請シテ髮ヲ削ルト又大津郡深川村ニ僧俊寛ノ墓アリ由來詳ナラズ。

(2) 大江時親墓

佐波郡富海村字梢ニ大江時親ノ墓アリ由來詳ナラズ毛利家ヨリ暫ク之ヲ修築ス。

(3) 安德帝陵傳説地

安德帝陵傳説地ハ豊浦郡豊西村ニアリ然ルニ帝ノ御陵傳説地ハ世上猶數四アリ帝長門人越中次郎兵衛盛嗣以下臣從十數人ト阿武郡見島ニ遁レ更ニ因幡賀露浦ニ至ル岩美郡岡益村長通寺ニ帝陵アリ或ハ曰ク攝津福原ニ隠ル或ハ曰ク大隅喜界島ニ崩ズ或ハ曰ク對馬宗家ノ祖トナルト未何レカ眞ナルヲ知ラズ。

(4) 蒙古高勾麗

豊浦郡ニ古蒙塚アリ阿武郡ニ高勾麗塚アリ元寇ノ餘響或ハ其地ニ存スルニ似タリ。

(5) 阿部宗任遺跡

阿部宗任源義家ニ事フ後仕ヲ辭シテ大津郡三隅村ニ隠ル其地ヲ宗任ト稱スト今宗頭ニ作ル後裔トイフモノアリ傳來ノ武器ヲ藏ス。

(6) 平族隱匿地

大津阿武海岸平家ノ落武者ノ傳説地多シ阿武郡見島村ニ能登守教經ノ墓及ビ平宗清ノ後裔アリ大津郡ニ宗清ノ墳墓アリ大津郡向津具村楊貴妃墓三隅村源範賴墓等モ平族ガ名ヲ托シテ關係者ヲ祀レルモノナルカモ知ルベカラズ。

(7) 梶原景時遺跡

傳説ニ曰ク梶原景時通レテ阿武郡川上村ニ居ル其時營ミシ建物ノ存シタルヲ兒玉某萩ニ移シ長沼某防府ニ移ス松崎菅廟内ノ木鐘庵是ナリト。

(8) 泉式部傳説

縣下一二ノ地ニ泉式部ノ墳墓ト稱スルモノアリ又阿武郡彌富村ニ式部堂アリ式部此地ニテ小式部内侍ヲ生ムト附會ニ似タルモ或ハ他ニ由來ナキニアラズ猶考フベシ。

(9) 古墳墓傳説

縣下各地ノ古墳墓中源範賴墓、足利尊氏墓等ト稱シ往々正史上全ク關係アルベカラザルノ傳説アリ蓋コレニ從屬セル者等ノ其ノ地ニ住シテ暫ク之ヲ祀リシモノナランカ。

第三十四、附記

編者嘗テ防長史蹟八十八箇所ヲ擇ベリ凡ソ身親シク其ノ境ニ臨ミ其地ヲ踏ムニアラザレバ以テ感ヲ興シ難シコレ大師靈蹟巡拜ノ妙ナル所以ナリ本書録スル所目次ニ表ハレタル人物事項ノミヲ以テシテモ四百五十二ノ多キニ及ブ史蹟八十八箇所ハ偶然之ヲ簡約ニセル感アレバ蛇足ヲ願ミズ之レヲ添付ス

(大島郡二ヶ所)世良參謀碑○四境役古戰場

(玖珂郡六ヶ所)小瀬川○三士誠忠碑○錦帶橋○吉川男爵邸○吉香社○清狂草堂  
 (熊毛郡二ヶ所)岩城山神籠石○東荷村  
 (都濃郡五ヶ所)七士碑○孝女阿米碑○祐綏神社○毛利子爵邸○兒玉文庫  
 (佐波郡十七ヶ所)浮野埵○末田燒○阿彌陀寺○勝間開作○濱宮○國廳遺趾○國分寺○松崎菅廟○  
 多々良毛利邸○桑山○華浦小學校○招賢閣○三田尻墮田○華南圖書館○玉祖神社○佐野燒○海  
 北圖書館  
 (吉敷郡十六ヶ所)繁枝松原○孝婦阿石宅○大村公碑○長澤池○錦小路公碑○木戸公祠廟○鴻嶺大  
 神宮○山口縣廳○龜山○築山神社○防長教育博物館○野田神社○豐榮神社○野田御殿○香山園  
 ○雲谷庵  
 (厚狹郡四ヶ所)霜降山○東行菴○德基女學校○常磐池  
 (豐浦郡十一ヶ所)清末毛利邸○孝女阿政碑○長府毛利邸○忌宮○乃木神社○敬業館○豐功神社○  
 功山寺○日賴寺○土井ヶ濱○中山忠光卿墓  
 (下關市五ヶ所)赤間宮○引接寺○春帆樓○壇浦○前田古戰場  
 (大津郡三ヶ所)油谷灣○深川燒○大寧寺  
 (阿武郡十五ヶ所)天樹院○指月神社○菊ヶ濱○山縣周南墓○瀧鶴臺及夫人墓○明倫小學校○大照  
 院○東光寺○松陰神社○松下村塾○姥倉新渠○權藏利吉碑○長添山○見島○清風松  
 (美禰郡二ヶ所)大田古戰場○眞長田村菅江嶺出生地

# 列傳體防長史 (終)

大正三年一月二十五日印刷  
 全 年 二 月 一 日 發 行



著作兼發行者 下尾善太

印刷者 川口多作

印刷所 廣島縣廣島市西引御堂町拾六番地

廣島縣廣島市猿樂町五拾壹番地  
 佐伯便利社印刷部

元籍 鳥取縣日野郡日吉村大字別所貳拾五番邸  
 現住所 廣島縣廣島市廣瀬村貳百拾番地ノ貳

344  
353

終